

2026年度 言語聴覚学科 シラバス

目次

1・2年生 教育課程(カリキュラムマップ)	3
1・2年生 カリキュラムツリー	4
1年生 年間予定表	6
1年生 シラバス	8

開講科目	頁	開講科目	頁
人間関係論	8	認知・学習心理学	40
英語	10	言語学	42
日本語表現法	12	音声学	44
歴史と文化	14	音声表記・分析学	46
現代の社会	15	音響学	48
法律入門	16	言語発達学	50
学習の基礎	17	言語聴覚療法管理学Ⅰ	52
数理リテラシー	19	失語症概論	54
情報処理	21	脳性麻痺	57
自然科学概論	23	学習障害・発達障害	59
医療概論	25	運動障害性構音障害Ⅰ	61
病理学	27	摂食嚥下障害Ⅰ	63
解剖・生理学	28	成人・小児の聴覚障害	65
小児科学	29	聴力検査Ⅰ	67
臨床歯科医学・口腔外科学	31	視覚聴覚二重障害・重複障害	68
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	33	地域言語聴覚療法Ⅰ	70
聴覚系の構造・機能・病態	35	臨床実習Ⅰ（見学実習）	71
神経系の構造・機能・病態	37	言語聴覚障害学の基礎	72
心理学	38		

2年生 年間予定表	75
2年生 シラバス	77

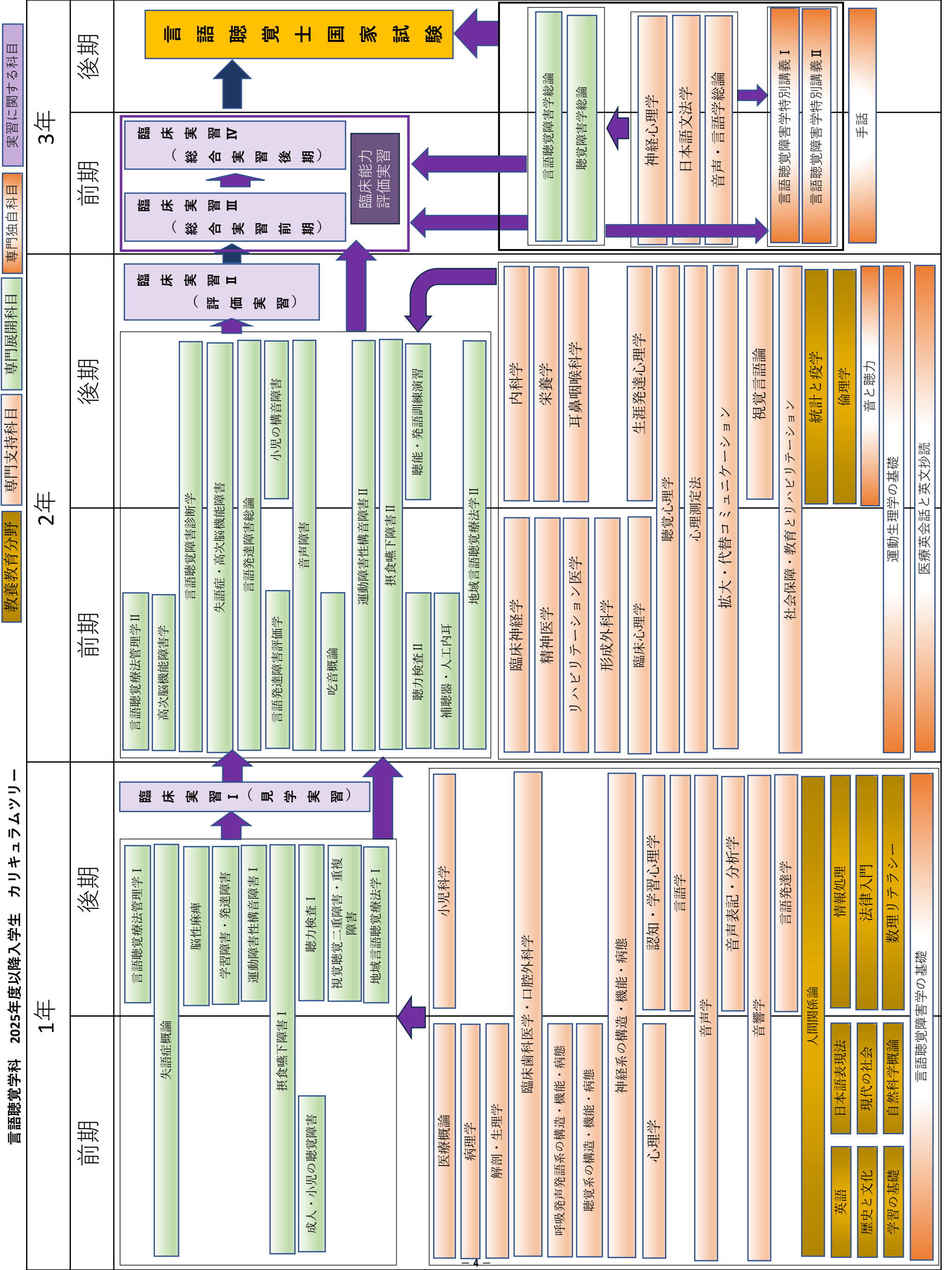
開講科目	頁	開講科目	頁
倫理学	77	言語聴覚障害診断学	108
統計と疫学	78	失語症・高次脳機能障害	110
内科学	80	言語発達障害総論	113
栄養学	81	言語発達障害評価学	116
臨床神経学	82	小児の構音障害	118
精神医学	84	音声障害	120
リハビリテーション医学	86	吃音概論	122
耳鼻咽喉科学	88	運動障害性構音障害Ⅱ	124
形成外科学	90	摂食嚥下障害Ⅱ	126
臨床心理学	92	聴能・発語訓練演習	129
生涯発達心理学	94	聴力検査Ⅱ	131
聴覚心理学	96	補聴器・人工内耳	132
心理測定法	98	地域言語聴覚療法Ⅱ	134
拡大・代替コミュニケーション	100	臨床実習Ⅱ（評価実習）	135
視覚言語論	102	医療英会話と英文抄読	136
社会保障・教育とリハビリテーション	103	音と聴力	138
言語聴覚療法管理学Ⅱ	105	運動生理学の基礎	140
高次脳機能障害学	106		

3年生 教育課程(カリキュラムマップ)	142
3年生 カリキュラムツリー	143
3年生 読替対応表	144
3年生 年間予定表	146
3年生 シラバス	148

開講科目	頁	開講科目	頁
基礎英会話	148	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	168
健康スポーツ学Ⅱ	150	生命科学の基礎	169
神経心理学	151	口腔顔面の感覚・運動障害総論	171
心理学系総論	153	地域リハビリテーション論	173
日本語文法学	155	認知症のリハビリテーション	175
言語聴覚障害学総論	157	疾病論	177
言語聴覚障害学臨床応用	159	リハビリテーションⅡ栄養学	179
高次脳機能系総論	161	視覚言語論	181
聴覚障害学総論	163	補綴・補装具論	183
音と聴力	165	言語聴覚学特別講義Ⅰ	185
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	167	言語聴覚学特別講義Ⅱ	189

ナンバリング	193
教員一覧、オフィスアワー、成績評価	201
実務経験を有する教員の科目一覧	203

101	4
-----	---



言語聴覚学科

1 年生

(2026年度入学生)

- 年間予定表
- シラバス

2026年度 言語聴覚学科1年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月				1	2	3 入学式	4
	5	6 オリエンテーション	7 オリエンテーション	8 健康診断	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29 昭和の日	30	1	2
5月	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
6月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
7月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20 海の日	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8月	2	3 定期試験	4 定期試験	5	6 追試験	7 追試験	8
	9	10 特別休暇	11 山の日	12 特別休暇	13 特別休暇	14 特別休暇	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27 不合格者発表	28	29
	30	31	1	2	3 再試験	4 再試験	5
9月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24	25	26
	27	28	29	30 臨床実習 I			

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 言語聴覚学科1年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月					1 臨床実習 I	2 臨床実習 I	3
	4	5 臨床実習 I	6 臨床実習 I	7	8	9	10
	11	12 スポーツの日	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3 文化の日	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
	29	30	1	2	3	4	5
12月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1 元旦	2
1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11 成人の日	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2 定期試験	3 定期試験	4	5	6
2月	7	8	9 追試験	10 追試験	11 建国記念日	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23 天皇誕生日	24 不合格者発表	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
3月	7	8	9	10 再試験	11 再試験	12	13
	14	15	16	17 卒業式	18	19	20
	21 春分の日	22 振替休日	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-0-HCU-01				
	●	●	●							
科目名	人間関係論				単位認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	患者様、利用者様、他職種との良好な人間関係を構築するためコミュニケーション論を含めた人間関係論を学ぶ。他者と信頼し合える良好な関係を築き継続できること、多様な背景を持つ人や複雑な状況に置かれた人を理解し関わることの重要性を学び臨床に生かす力を醸成する。									
到達目標	人間やコミュニケーションとその環境を考え理解する姿勢ができ、メディカルスタッフとしてまた社会を構成する一員としての土台ができる。									
学修者への期待等	グループワークを多く含む。積極的に参加すること。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	人間関係論とは・・・グループ討議を含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
2	対人認知の歪みと人間関係・・・グループで課題に取り組む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
3	パーソナリティーと人間関係・・・グループ討議を含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
4	コミュニケーションとチャネルについてグループ討議を含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
5	感情について・・・グループワークを含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
6	葛藤と欲求不満について・・・グループワークを含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
7	ストレスについて・・・グループで課題に取り組む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
8	援助要請とソーシャルサポートについて・・・グループワークを含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
9	人間関係について グループワークを含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
10	カウンセリング的アプローチ・・・聞く姿勢のトレーニング					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
11	動機づけ（モチベーション）と人間関係・・・グループ討議を含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
12	リーダーシップとチームについて。グループワークを含む。					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
13	リーダーシップとチーム・・・評価を含む					事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	コーチングについて・・・コーチング体験を含む	事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること	30	30
15	人間関係を難しくする障害・・・グループで支援を考える	事前学修：配布資料に目を通すこと 事後学修：再読し説明できるようにすること	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	なし			
参考文献	なし			
備考	授業内課題は確認後返却する			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

講師は臨床現場で言語聴覚士として30年以上の経験をもちスタッフや患者・患者家族との関係を構築してきた

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02				
	●	●								
科目名	英語				単位 認定者	近江 貞子		評価の 方法	試験(筆記・ レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話す」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。									
到達目標	学生は当該専門職として必要となる基礎的な読解力を身につけ、一般的なトピックについて英語で話すことができるようになる。									
学修者への 期待等	英語でのコミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を持参して授業に臨むこと。また、active learning(授業ではグループ学習・ペアワーク・look up and sayなど)を適宜取り入れるので積極的に参加してください。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	Orientation: Review of English grammar, structure and pronunciation ; Today's Expression(1)					事前学修：特に指定しない 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			0	30
2	Today's Expression(2); Unit 1. General ideas of health and other topic ①					事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	15
3	Today's Expression(3); Unit 1. General ideas of health and other topic ②					事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	15
4	Today's Expression(4); Unit 2. Polyphenol and other topic ①					事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	15
5	Today's Expression(5); Unit 2. Polyphenol and other topic ②					事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	15
6	Today's Expression(6); review Unit 1 & 2 , grammar points					事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	15
7	Today's Expression(7); Unit 4 AI in healthcare ①					事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	15
8	Today's Expression(8); Unit 4 AI in healthcare ②					事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	15
9	Today's Expression(9); Unit 6. Avoiding foods with hidden sugar and other topic ①					事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	15

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
10	Today's Expression(8) ; Unit 6. Avoiding foods with hidden sugar and other topic ②	事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	15
11	Today's Expression(10); review Unit 4 AI & Unit 6, grammar points	事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	15
12	Today's Expression(11); Unit 11 Healthcare Profession	事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	15
13	Today's Expression(13); Unit 15. Vaccination and other topic ①	事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	15
14	Today's Expression(14); Unit 15. Vaccination and other topic ②	事前学修：授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修：授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
15	Review and preparation for the exam	事前学修：期末試験に向けて総復習をし、疑問を残さないようにすること 事後学修：期末試験にむけての定着を図ること	30	60
アクティブ・ラーニング	□該当なし ✓該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク、相互演習、look up and sayなど）			
教科書	A Healthy Life for Today and Tomorrow 英米文化学会 編 朝日出版社			
参考文献	なし			
備考	授業の進行 状況によってシラバスを変更することがある。テキストを全unit学習することは出来ないが、今後英語を読む際に有効なルールを覚えていくので応用できるはずである。定期的に単語、会話表現などの課題を課す。グループに分かれての会話練習、要約発表なども行う予定である。 課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01					
	●		●	●							
科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田 理		評価の方法	試験(筆記)	30	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題(課題文1)	20	%
						授業時間数	30 時間		授業内課題(課題文2)	30	%
					授業形態	講義	授業回数		15 回	受講態度	20
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。										
到達目標	自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につけることを目標とする。具体的には、 ・ 相手が発するメッセージを受け止めながら、場面に応じた意思の表現・伝達ができるようになる。 ・ 目的に合わせた文章(文書)作成ができるようになる。										
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。なお、単位認定試験についてはマークシート式による実施を予定している。										
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	「日本語表現法」ガイダンス-講義について [第2章 大学でのノートのとり方]					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
2	日本文の概要1：現代文の成り立ちとその使用 [第1章 自己紹介…具体的に話そう、(第16章 履歴書作成、第17章 面接の受け方-質問内容を予想・準備)]					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
3	日本文の概要2：古典文法(漢文、古文)メモの取り方 [第4章 確実な連絡メモ]					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
4	日本文の概要3：現代文法と伝達法 [第5章 メールの書き方]					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
5	日本文の概要4：現代文法と伝達法つづき [第7章 説明のコツ…「全体」→「部分」]					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
6	現代文の修辞1：原稿用紙の使い方等 [基礎ドリル 4. 書き言葉 8. 原稿用紙] 実践1：課題文を書く(400字)…主題は当日指示					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
7	実践1の添削指導、参考文の調べ方 語彙1：辞書語彙…漢字と対義語・類義語 ([第8章 第9章 大学生の調べ方])					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
8	現代文の修辞2：表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名) [基礎ドリル 2. 仮名遣い等 7. 記号]					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
9	文章の作成1：公文作成の考え方 ([第15章 卒業論文に向けて一研究計画を立てよう])					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
10	文章の作成2：文章作成の基本と実践 [第6章 手紙の書き方]([第13章 堅実なレポートの書き方1][第14章 堅実なレポートの書き方2])					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	
11	文章の作成2：実用文の作成(含データ) [第10章 アンケートの取り方]([第11章 資料の読みとり][第12章 効果的なプレゼンテーション])					事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
12	敬語 1 : 種類と働き、尊敬語と謙譲語 [第3章 敬語の基礎]	事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。	30	30
13	800字作成要領 実践 2 : 課題文を書く(800字)…主題は当日指示 [第18章 小論文の書き方]	事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。	30	30
14	実践 2 の添削指導 敬語 2 : 謙譲語と丁寧語 [基礎ドリル 1. 敬語の語形]	事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。	30	30
15	実践 2 の添削指導つづき、定期試験説明 語彙 2 : 辞書語彙…その他(ことわざ・四字熟語・慣用句)、語彙 3 : 新聞語彙 [基礎ドリル 5. 慣用句・ことわざ・四字熟語]	事前学修：当日の新聞等の文章表現に目を通しておく。 事後学修：確認テストに備える。	30	30
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修・安部朋世・福嶋健伸 編著、三省堂			
参考文献	『新しい国語表記ハンドブック 第九版』三省堂編修所編、三省堂			
備考	進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある（示していない章に触れることもある）。なお、理解を深めるため翌回授業の冒頭に確認テストを行なう予定である。 授業内課題である課題文（含事後指導）計2種は、単位認定の必須事項として成績に加える（未提出・不参加は認定しない）。受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作（スマートフォン・PC・iPad等）・居眠りの禁止等を想定している。なお、受講ノートとして大学ノートを用意すること（試験はノート持ち込み可とするが、コピー用紙の切り貼りやルーズリーフ等はノートとして認めない）。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には、試験を中止し課題文のみで評価することもあり得るので心得ておくこと。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

高等学校・専門学校及び予備校等、就職試験・資格試験予備校における小論文及び志望理由書作成に関する文章指導

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-0-HCU-02				
	●			●	●					
科目名	歴史と文化				単位 認定者	丸藤 准二 徳田 幸雄		評価の方法	※詳細は備考欄を参照すること	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	15 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	言語聴覚士は多くの世代や社会的背景を持つ人々と1対1で対話する機会が多い。良好な人間関係を構築するための基本的な教養として、各国の歴史・文化・思想・宗教を学ぶ。学修を通じ多様な価値観を受け入れるための寛容さを育み、事象を客観的に観察し思考する力と判断力を養い、豊かな人間性を育む基礎とする。									
到達目標	(丸藤)現代の社会を形成した様々な歴史事象を学び、世界や歴史についての知識・関心を育み、社会人としての教養・常識を養うことを目標とする。 (徳田)世界三大宗教を中心とした諸宗教を広く学ぶことによってグローバル時代に相応しい文化教養を身につけるとともに、人類の叡智に触れつつより豊かで深い人生観を育むことを目標とする。									
学修者への期待等	(丸藤)授業を理解し、目標に到達するために意欲的に授業に取り組んでください。また幅広い人間性と教養を身につけるために、宗教や歴史に対する関心を持つようにしてください。 (徳田)授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的および文化的な事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	ユダヤ教について －律法の遵守－					事前学修：辞書・辞典で調べる 事後学修：チェックテストの復習		30	30	徳田 幸雄
2	キリスト教について －罪からの救い－					事前学修：辞書・辞典で調べる 事後学修：チェックテストの復習		30	30	徳田 幸雄
3	イスラームについて －神への服従－					事前学修：辞書・辞典で調べる 事後学修：チェックテストの復習		30	30	徳田 幸雄
4	仏教について －苦からの解脱－					事前学修：辞書・辞典で調べる 事後学修：チェックテストの復習		30	30	徳田 幸雄
5	歴史の学びについて/グローバルエコノミー					事前学修：特になし 事後学修：課題を行い復習する		0	30	丸藤 准二
6	科学革命と啓蒙					事前学修：特になし 事後学修：課題を行い復習する		0	30	丸藤 准二
7	産業革命と工業化					事前学修：特になし 事後学修：課題を行い復習する		0	30	丸藤 准二
8	医療・医学の発展と近代社会					事前学修：特になし 事後学修：課題を行い復習する		0	30	丸藤 准二
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード ()									
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配布します。									
参考文献	授業において指示します。									
備考	(丸藤)レポート70%、受講態度30%で評価します。 (徳田)授業内課題50%、テスト50%で評価します。 課題やレポートがある場合は、次の授業内でフィードバックする。									

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HSO-03				
	●				●					
科目名	現代の社会				単位 認定者	吉田 理		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		※筆記試験はマークシート（60%）と レポート（20%）を同時内に実施 ※詳細は備考欄を参照すること。	
						授業時間数	15 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備えるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と歴史)					事前学修：現代社会の文化と歴史について考察する。 事後学修：次の確認テストに備える。			30	30
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)					事前学修：特に大衆社会について考察する。 事後学修：次の確認テストに備える。			30	30
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)					事前学修：特に生命科学と情報技術について考察する。 事後学修：次の確認テストに備える。			30	30
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)					事前学修：特に自己形成について考察する。 事後学修：次の確認テストに備える。			30	30
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)					事前学修：特に社会権・参政権について考察する。 事後学修：次の確認テストに備える。			30	30
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)					事前学修：特に地方自治と政党政治について考察する。 事後学修：次の確認テストに備える。			30	30
7	現代の経済社会(特に財政と金融)					事前学修：特に財政と金融について考察する。 事後学修：次の確認テストに備える。			30	30
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について) 附、試験及びレポート作成に当たって					事前学修：特に国民の福祉について考察する。 事後学修：次の確認テストに備える。			30	30
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『2026小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus』（第一学習社）									
参考文献	『別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか』池上彰著（NHK出版） 各項目について報道している日刊新聞（購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可）									
備考	講義は板書を中心に進めるのでノート（大学ノート推奨）を準備すること（原則としてノート以外認めない）。 試験は、同時内にマークシート解答（成績割合60%）とレポート作成（同20%）を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。 受講態度（成績割合20%）は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には試験を中止し、レポートのみで評価することもあり得るので心得ておくこと。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●			●		CO-0-HS0-04				
科目名	法律入門				単位 認定者	鈴木 一樹		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への 期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	法律の意味と法律を学ぶ意味					事前学修：法律に関するイメージを自分なりに持っておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30
2	憲法（１）基本的人権					事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30
3	憲法（２）統治機構					事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30
4	民法（１）総則・物権					事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30
5	民法（２）債権					事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30
6	民法（３）親族・相続					事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30
7	刑法（１）総論					事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30
8	刑法（２）各論					事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30
アクティブ・ ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-0-HS0-01				
	●	●		●						
科目名	学習の基礎				単位 認定者	江畑 綾		評価の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	言語聴覚学を学ぶ大学生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。本学・学科の教育方針の理解、言語聴覚士となる心構え、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、健康にかかわる知識（睡眠・食生活、大学生が会うところの問題等）の修得、さらには様々な学習法を学びながら各自に最も効果的な学習方法を会得する。									
到達目標	1. 大学生・社会人として基本的なマナーを身につける。 2. 大学生活を有意義におくるために知識やスキルを身につける。									
学修者への期待等	大学生活が有意義なものになるように計画された科目である。各自の目標を達成するために積極的に学ぶことを期待する。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	大学生活について 建学の精神、本学科の教育方針、学業の到達目標など					事前学修：学生便覧 を読んでおくこと 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	江畑 綾
2	大学での学びについて 何のために学ぶか。授業の受け方、ノートの取り方					事前学修：今までの ノートの取り方につ いてまとめておくこ と 事後学修：ノート取 り方を実践してみる		30	90	江畑 綾
3	大学での学びについて ①レポートのまとめ方②図書館の活用方法の講義と 演習					事前学修：レポート 作成について調べる 事後学修：講義内容を まとめること		30	30	江畑 綾 図書室司書
4	健康にかかわる基礎知識 体の健康について(睡眠・食生活など)					事前学修：生活習慣 について振り返って おくこと 事後学修：講義内容を 振り返ること。		30	30	江畑 綾 保健室
5	大学生活に関わる基礎知識 大学で会うところの問題					事前学修：学生相談 室の役割について調べ ておくこと 事後学修：講義内容を 振り返ること		30	30	学生総合支援 センター 江畑 綾
6	学修の仕方 教科学修の説明、内容、使用方法					事前学修：シラバス を読んでおくこと 事後学修：講義内容を 実践してみること		30	60	江畑 綾
7	言語聴覚士になるための心構え 言語聴覚士の仕事内容、チームアプローチについて など グループワークを行う					事前学修：言語聴覚 士の仕事について調べ ておくこと 事後学修：レポート 作成すること		30	90	江畑 綾
8	実習に向けて ビジネスマナー					事前学修：挨拶や言葉 遣いについて振り返ること 事後学修：講義内容を 実践していくこと		30	30	江畑 綾

アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ グループワーク ）
教科書	シラバス、学生便覧
参考文献	なし
備考	授業内容は状況に応じて変更する場合がある。レポートのフィードバックは、次回講義時またはレポートに記載する形で行う。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり、経験してきた。言語聴覚士としての心構えや職業観を学生に具体的に伝えながら、大学での主体的な学び方や健康管理の重要性を臨床現場の実例と結びつけて授業を行います。	

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング C0-0-HSC-02				
	●	●								
科目名	数理リテラシー				単位 認定者	本田 俊夫 中島 拓		評価の 方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	16 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	数学の基礎・基本を身につけ、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的処理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要なとされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につける。									
到達目標	本科目では、筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取ることができる。また、人工知能に触れ、適切な使用法や倫理観を理解できる。									
学修者への期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方とデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	「加減乗除の計算」 整数・小数・分数					事前学修：計算の基本を確認しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		30	60	本田 俊夫
2	「方程式・不等式」					事前学修：方程式、不等式の基本計算を確認しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		30	60	本田 俊夫
3	「数的推理①」 和と差、割合					事前学修：割合の基本を確認しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		60	60	本田 俊夫
4	「数的推理②」 売買・損益					事前学修：原価、利益、値引の関係を理解しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		60	60	本田 俊夫
5	「平面図形」 角と面積					事前学修：多角形の角の関係、平行線の角の関係を復習しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		30	60	本田 俊夫
6	統計の基礎① データの分布と代表値，ばらつき					事前学修：データにおける代表値、分散について復習しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		60	60	本田 俊夫

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	統計の基礎② データの標準化	事前学修：正規分布の基本概念について確認しておくこと。 事後学修：授業内容をよく復習して理解すること	60	60	本田 俊夫
8	生成AIの利用と倫理（個人演習・体験）	事前学修：参考文献に記載の事前学習資料を参照し、注意事項に沿って生成AIの利用体験 事後学修：特に指定しない	30	0	中島 拓
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（個人演習・体験）				
教科書	特に指定しません。随時プリントを配布します。				
参考文献	なし				
備考	（本田）授業後半に確認のための演習課題を実施する。なお、課題については授業内にフィードバックを行う。 （中島）第8回講義の事前学習資料： https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/IQCS4g_71HSKSqf17iK_19KFAQYW18XgTvNvCtK68A00vuI?e=17Vg2k				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
業務経験： システム開発業務での生成AIツールを利用経験 3年、社内ISMS委員長としてセキュリティ管理経験 7年、自社および顧客サーバー管理経験 20年、システム開発業務 25年 資格： ソフトウェア開発技術者(IPA) 関連性： 情報セキュリティ知識と管理・運用経験、生成AIの基本的な仕組みの理解と利用経験、ITシステムとサービスに対する知識と開発・運用経験からの内部理解	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●									
科目名	情報処理				単位 認定者	氏家 留美子		評価 の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	パソコンの基本操作を修得し、Word・Excel・PowerPointの効率的な使用能力を身につける。 さまざまなICTツールで情報を収集・整理・評価し、ICTを活用した情報分析ができるようになる。 ◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。 ◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。計算式や関数を使える。データにふさわしいグラフの種類を選び作成できる。 ◆PowerPoint：プレゼンテーションの目的や構成について理解し、視認性のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。									
学修者への期待等	基本から応用操作まで、学生が自身のスキルを見つめ直し成長することを期待する。 操作に不慣れな学生は、この機会に基礎を固めること。既にスキルを持つ学生もさらなる向上を目指してほしい。 操作がわからない部分は、演習中に質問して確実に理解を深めること。 教材データを保存するために、USBメモリを授業2回目以降で使用する。授業1回目の時にUSBメモリについては詳しく説明するので、2回目の授業までに各自準備すること。									
回	授業計画					準備学修			事前学修 時間 (分)	事後学修 時間 (分)
1	Word（実技）：ビジネス文書の基礎知識 （ビジネス文書の構成と作成方法）					事前学修：教科書10～17ページを読んでおく 事後学修：教科書95ページ（文書の基本形）を 覚える			30	30
2	Word（実技）：Wordの基本操作（書式設定・印刷設定） 情報セキュリティ：脅威が与える影響とセキュリティ対策					事前学修：教科書27～31ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するセキュリティ関連の 問題を解く			30	30
3	Word（実技）：情報の整理（表を用いた文書作成）					事前学修：教科書39～45ページを読んでおく 事後学修：教科書46ページ(実習03) を操作する			30	30
4	Word（実技）：いろいろな書式設定の活用方法 （段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍 点・段組み・ヘッダーフッター）					事前学修：教科書50～57ページを読んでおく 事後学修：教科書59ページ(実習08) を操作する			30	30
5	Word（実技）：文書の表現力アップ （イラスト・写真・ワードアート・図形描画）					事前学修：教科書60～68ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するWord課題を完成させ る			30	60
6	Word（実技）：レポートなどの長文作成をサポートする 操作 （見出しスタイルの利用・目次作成・検索・置換） 著作権の知識：著作権の概念・著作権侵害・引用のルール					事前学修：教科書6～7ページを読んでおく 事後学修：授業で指示する著作権関連の問題を 解く			30	30
7	PowerPoint（実技）：プレゼンテーションの構成・箇条 書きや表を用いた情報の整理・図形や画像の効果的な利 用法・スライドショーの実施・印刷設定					事前学修：教科書194～222ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するプレゼン課題のテー マを考え、構成を下書きする			30	30
8	PowerPoint（実技）：アニメーションの設定・図解表現 の手法・生成AIを活用した情報収集と内容整理・指示す るテーマで、伝わるプレゼンテーションの課題作成					事前学修：教科書233～237ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するプレゼン課題を完成 させる			30	90
9	Excel（実技）：Excelの基本操作 （四則演算・SUM、AVERAGE関数・書式設定・行列操作・ 表示形式・印刷設定）					事前学修：教科書96・110～123ページを読んで おく 事後学修：教科書108ページ(実習15) を操作す る			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間 (分)	事後学修 時間 (分)
10	Excel（実技）：数式を効率的かつ正確に作る （相対参照と絶対参照の使い分け）	事前学修：教科書139ページを読んでおく 事後学修：教科書140ページ（例題11）を操作する	30	30
11	Excel（実技）：数値を評価するための基本的関数 （MAX・MIN・COUNT・COUNTA）	事前学修：教科書141ページを読んでおく 事後学修：教科書153ページ（実習21）を操作する	30	30
12	Excel（実技）：データを視覚的に分析・評価（グラフ作成）	事前学修：教科書156～161ページを読んでおく 事後学修：教科書164・165ページ（実習24・25）を操作する	30	30
13	Excel（実技）：基準に基づくデータの整理や抽出 （データベースのしくみ・並べ替え・フィルター）	事前学修：教科書168～173ページを読んでおく 事後学修：教科書175ページ（実習29）を操作する	30	30
14	Excel（実技）：データを条件付きで処理・集計 （IF・COUNTIF・SUMIF関数など） 関数のまとめ①（データの評価・集計するための関数の活用）	事前学修：教科書143～145ページを読んでおく 事後学修：教科書144～145ページ（例題14）を操作する	30	30
15	Excel（実技）：特定の値を基に検索とデータ取得 （VLOOKUP関数など） 関数のまとめ②（データの整理・分析するための関数の活用）	事前学修：教科書146ページを読んでおく 事後学修：教科書146ページ（例題15）を操作する	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（実技）			
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 杉本くみ子／大澤栄子 著 実教出版（ISBN：978-4-407-35943-5）			
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。			
備考	「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用方法に関する筆記試験を行う。 「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。内容を確認し、以後の授業で講評する。 情報処理室で授業を実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-0-HSC-02				
	●									
科目名	自然科学概論				単位 認定者	本田 俊夫		評価の 方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語聴覚士にとって欠かすことが出来ない対数、指数、圧力、単位の扱いについて学び音響学の基盤とする。後半では、生理学の基礎となる細胞の性質と代謝、遺伝の概要について解剖・生理の基礎とする。									
到達目標	音響学の基礎概念である力とエネルギー、分子の運動について理解する。また、生体構成物質とそのはたらきについて理解し、生命活動についての知識を深める。									
学修者への 期待等	事前準備として、高校の物理の基礎、化学基礎、生物基礎の教科書の該当単元の内容を読み返しておいてください。授業後は理解を深められるよう復習をしてください。理解できないところは積極的に質問し、解決しておくことを期待します。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	力と運動Ⅰ 力と質量の単位 静力学					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
2	力と運動Ⅱ 慣性・運動の法則					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
3	仕事とエネルギー、運動量					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
4	圧力の単位 圧力、大気圧、分子運動					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
5	温度と熱 熱と分子運動					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
6	波動 音と分子運動					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
7	記法と指数・対数					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
8	対数の計算					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
9	物質の構造					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60
10	溶液 酸と塩基、pHの計算					事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。			30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	溶液と浸透圧	事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。	30	60
12	細胞、生体物質、代謝	事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。	30	60
13	生物体の恒常性Ⅰ 循環器、肝臓・腎臓	事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。	30	60
14	生物体の恒常性Ⅱ 自律神経とホルモン	事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。	30	60
15	生殖と遺伝	事前学修：該当単元について高校の教科書で確認しておくこと。 事後学修：授業内容を復習しておくこと。	30	60
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	特に指定しない			
参考文献	なし			
備考	なし			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-01				
	●	●		●						
科目名	医療概論				単位 認定者	中川 大介 渡邊 弘人 江畑 綾		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	医療とは人間の健康の維持や回復、増進を目的とした諸活動を指す。疾病に対する医学を包含し、保健、福祉を含む。本講義では言語聴覚士として医療に従事するにあたり、多職種との協働をかなえるために、病気と医療の歴史、医療行為の概念を含む臨床医学の基礎、健康状態と社会環境、予防医療、感染症対策、人口・保健統計、医療倫理など医療の概要を学ぶ。									
到達目標	医学・医療に関して具体的にふれることにより、専門を学ぶ学習意欲を高めるとともに、将来の基礎を築く。									
学修者への期待等	医療、リハビリテーションに関することについて、自分の具体的なイメージを作り理解を深めていくことを期待します。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	健康の概念、生活機能と障害					事前学修：関連書籍を読んで講義に臨むこと 事後学修：資料を確認し復習すること		30	60	中川 大介
2	リハビリテーションとQOL					事前学修：関連書籍を読んで講義に臨むこと 事後学修：資料を確認し復習すること		30	60	中川 大介
3	ノーマライゼーションとインクルージョン					事前学修：関連書籍を読んで講義に臨むこと 事後学修：資料を確認し復習すること		30	60	中川 大介
4	医の倫理と臨床倫理					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
5	生命倫理と研究倫理 専門職倫理と守秘義務 個人情報保護					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
6	診療補助行為、チーム医療・多職種連携とは 適宜グループワークを実施する					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
7	地域医療・介護連携と地域包括ケア 医療安全 根拠に基づく医療 適宜グループワークを実施する					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	人口統計 保健統計 適宜グループワークを実施する	事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60	渡邊 弘人
9	疫学とは 適宜グループワークを実施する	事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60	渡邊 弘人
10	健康管理と予防医学 適宜グループワークを実施する	事前学修：関連書籍を読んで講義に臨むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
11	母子保健とは（グループワーク）	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
12	成人・老人保健とは（グループワーク）	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
13	精神保健	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
14	感染症対策 ディスカッション, 実技	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
15	環境保健	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション 実技）				
教科書	特になし。各講義時に、事前にUNIPAに資料をアップロードする。				
参考文献	『言語聴覚士テキスト（第4版）』 大森孝一他 編著 医歯薬出版				
備考	授業課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床現場にて15年以上の経験あり。病院・施設における臨床経験を活かし、学生がこれから学ぶ医療領域の基礎として理解を深め、後学に繋げられる講義とする。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-02				
	●	●		●						
科目名	病理学				単位 認定者	三木 康宏		評価の 方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	病理学とは、病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定することを目的とする分野である。言語聴覚士として、適切なりハビリテーションを提供するためには、患者・利用者の疾病に対する理解が不可欠である。本講義では遺伝疾患、代謝障害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍などの疾患や障害を取り上げ、それぞれの発生機序や診断について学んでいく。									
到達目標	身体の構図と機能を基本とし、病態におけるその変化について学び、そこから、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。									
学修者への期待等	「病理学」は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と密接に関係している。毎回の講義内容について、これまでに修得した基礎医学との関連を見いだすことが重要であり、そこから病態における変化について理解する必要がある。授業の最後に予習ポイントを提示するので、上記関連事項を踏まえながら次の講義に備えてもらいたい。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	病理学とはなにか。病気の発生要因（病因）について					事前学修：教科書第1章を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
2	細胞・組織の変化、特に細胞死について					事前学修：教科書第2章を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
3	組織・細胞の修復について					事前学修：教科書第3章を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
4	萎縮と肥大について					事前学修：教科書第2、10章を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
5	急性炎症と炎症細胞について					事前学修：教科書第5章5-1～5-3を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
6	慢性炎症・感染症について					事前学修：教科書第5章を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
7	免疫機構について					事前学修：教科書第7章7-1～7-3を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
8	免疫と疾患：アレルギーについて					事前学修：教科書第7章7-4を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
9	免疫と疾患：自己免疫疾患、免疫不全について					事前学修：教科書第7章7-5～7-6を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
10	腫瘍学の基礎、良性と悪性の違いについて					事前学修：教科書第9章9-1～9-7を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
11	腫瘍の発生について					事前学修：教科書第9章9-12～9-13を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
12	局所的循環障害について					事前学修：教科書第4章4-1を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
13	全身的循環障害について					事前学修：教科書第4章4-2を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
14	遺伝子と疾患について					事前学修：教科書第8章8-1～8-4を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
15	病理学を再考する					事前学修：配布資料を読む 事後学修：資料を復習する			60	30
アクティブ・ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『シンプル病理学』笹野公伸他編 南江堂									
参考文献	「疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学」系統看護学講座-専門基礎分野、大橋健一、医学書院									
備考	なし									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-1-HDT-03				
	●									
科目名	解剖・生理学				単位 認定者	鈴木 裕一		評価 の方法	授業内 課題等	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	臨床現場では患者・利用者に現れる症状を理解することが求められる。本講義では主に人体の循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器、内分泌、免疫系の構造を含めた人体を、どの場所にありどのような形をしているのかという側面を解剖学的に学び、さらには個々の機能と生理を理解し、人体各部位の相互関係や統合関係を学んでゆく。人体の仕組みと機能について連続的に学修するために解剖学と生理学を統合して学修する。									
到達目標	内臓器官系の役割を理解し、それが如何に人体を支えているかを総合的に捉えることができる。									
学修者への 期待等	単なる記憶でなく、具体的なイメージを作り理解を伴った学びを目指すこと。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	人体の基本構造					事前学修：教科書第 1 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
2	血液					事前学修：教科書第 6 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
3	循環器系(1) ；心臓					事前学修：教科書第 2 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
4	循環器系(2) ；血管					事前学修：教科書第 2 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
5	呼吸器系					事前学修：教科書第 3 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
6	消化器系(1) ；消化管					事前学修：教科書第 4 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
7	消化器系(2) ；肝臓・胆道・膵臓					事前学修：教科書第 4 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
8	腎・泌尿器系					事前学修：教科書第 5 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
9	自律神経					事前学修：教科書第 7 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
10	内分泌系					事前学修：教科書第 7 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
11	皮膚と体温調節					事前学修：教科書第 9 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
12	運動器系					事前学修：教科書第 1 0 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
13	生殖器系					事前学修：教科書第 1 1 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
14	実習；皮膚感覚、味覚・嗅覚					事前学修：教科書第 9 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
15	実習；循環器、呼吸					事前学修：教科書第 2 ・ 3 章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
アクティブ・ ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（									

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-07				
	●	●		●						
科目名	小児科学				単位認定者	峯岸 直子		評価の方法	試験(筆記・レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	言語聴覚士が小児の療育に携わるにあたり、必要な基礎知識を疾患ごとに修得する。小児疾患の原因・病態・診断・検査・治療の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患について学修する。講義終盤で、小児科学と言語聴覚領域との関連を学ぶ。									
到達目標	小児の成長・発達の状況、小児特有の疾患、小児保健に関する理解を深め、言語聴覚士として必要な小児科に関連する知識を習得する。									
学修者への期待等	言語聴覚士として小児に関わる場面を想像しながら、興味を持って積極的に学習してほしい。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	小児の発達・成長 (小児の特徴、小児期の発達・成長、発達評価について)					事前学修：テキストp2-16を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
2	小児保健（育児、乳幼児健診、事故、予防接種、児童虐待について）					事前学修：テキストp16-25を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
3	小児疾患の診断法（診断法、問診、診察法、臨床検査、主要症状による鑑別診断について）遺伝子の基礎知識					事前学修：テキストp25-34を読む 事後学修：遺伝子について知識を再確認する			30	30
4	遺伝疾患と先天異常（単一遺伝子病、多因子遺伝病、染色体の異常、先天異常、先天代謝異常について）					事前学修：テキストp34-46を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
5	新生児疾患（周産期・新生児期、新生児期の疾患・障害について）					事前学修：テキストp46-61を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
6	神経・筋肉疾患（神経系、骨・運動器の主な疾患について）					事前学修：テキストp62-76を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
7	小児の骨疾患・循環器疾患・感染症					事前学修：テキストp76-88, 95-101を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
8	小児の呼吸器・消化器疾患					事前学修：テキストp88-94, 101-114を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
9	小児の内分泌・代謝疾患、免疫・アレルギー疾患					事前学修：テキストp115-127を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
10	小児の膠原病・腎・泌尿器・生殖器疾患					事前学修：テキストp127-145を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
11	小児の血液疾患・悪性腫瘍・心身症・神経症、眼科・耳鼻科疾患、診療の現場と小児を取り巻く環境					事前学修：テキストp145-159を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
12	障害学①（障害児を取り巻く環境、脳性麻痺、知的障害）					事前学修：テキストp162-186を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30
13	障害学② 言語障害、感覚器障害、重複障害児、重症心身障害児など					事前学修：テキストp186-212を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	発達障害学① 発達障害とは、ADHD, ASD, SLD, チック症など	事前学修：テキストp214-224を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習	30	30
15	発達障害学② 発達障害の評価とその実施法	事前学修：テキストp224-248を読む 事後学修：小テストと配布資料を復習	30	30
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学（第3版）』 宮尾 益知/小沢 浩著 医学書院			
参考文献	なし			
備考	授業内課題は採点后返却し、次の授業内で解説する。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は小児科医師として13年間の臨床実務を経験し、その後継続して医学医療系の学生教育を担当してきました。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-12				
	●	●		●						
科目名	臨床歯科医学・口腔外科学				単位認定者	川村 仁 小野寺 健		評価の方法	試験(筆記・レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	顎口腔機能障害を惹起する多彩な口腔病変について、病理学・口腔外科学の観点から体系的に明らかにするために、皮膚と粘膜の構造と機能、顔面・口腔の発生について学ぶ。また口腔組織の構造と機能、歯の発育異常・損傷、智歯、う蝕、歯周病、口腔粘膜病変、口腔腫瘍・嚢胞、口腔奇形、歯列不正・不正咬合、さらに顎の問題として、顎関節疾患、顎変形症の診断と治療について学び、全人的健康のための口腔顎顔面の役割を理解する。講義終盤では顎口腔機能の障害と構音、咀嚼、嚥下障害の関係について学修する。									
到達目標	歯科医学の基礎的知識を習得し、全人的健康における口腔顎顔面の役割を理解し、口腔顎顔面に生ずる病的状態から生ずる構音、咀嚼、摂食障害の機能訓練を行うための基盤を作る。									
学修者への期待等	授業、講義に教科書が利用されています。教科書は基本ですが、その教科書も様々な存在し、教科書のすべてが絶対ではなく、前進の糸口でしかありません。私が学び、皆さんにお伝えすることは、口腔顎顔面領域の問題と認識についての大きな進化の流れをお示しすることであり、皆さんのこれからの前進にお手伝いできればと考えます。教科書に見えない部分も含め、スライド（プリントを準備します）を通し、口腔顎顔面領域の、直面するであろう、想像を超えるであろう様々な問題について、一緒に考えていきます。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	全人的健康のための口腔顎顔面の役割：口腔の健康を冒す病気と闘う口腔顎顔面外科学					事前学修：教科書の序章を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁
2	全人的健康のための口腔顎顔面の役割：基礎歯科医学＆臨床歯科医学					事前学修：教科書の序章を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁
3	口腔粘膜疾患・口腔腫瘍＆嚢胞の臨床					事前学修：教科書の口腔外科学;軟組織の異常・口腔膜疾患・口腔顎領域の嚢胞・口腔顎顔面の腫瘍および類似疾患を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁
4	虫歯・歯周組織炎・智歯を科学する					事前学修：教科書の口腔外科学:口腔顎顔面の外傷・口腔顎の炎症を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁
5	歯列不正。顎関節疾患を科学する					事前学修：教科書の口腔外科学:顎関節の疾患を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁
6	口腔再建とインプラントの臨床					事前学修：教科書嚢の口腔外科学:口腔ケアを読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	口腔顎顔面の奇形&変形の臨床	事前学修：教科書の 口腔外科学：口腔顎 顔面の異常・口腔顎 顔面領域の先天異常 症候群を読む 事後学修：友人と講 義内容を議論	30	30	川村 仁
8	皮膚と粘膜、顔面・口腔の発生	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	小野寺 健
9	口腔組織	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	小野寺 健
10	歯の発育異常	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	小野寺 健
11	う蝕、歯周組織	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	小野寺 健
12	口腔粘膜病変	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	小野寺 健
13	口腔嚢胞	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	小野寺 健
14	口腔腫瘍	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	小野寺 健
15	口腔奇形	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	小野寺 健
アクティブ・ ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学 口腔外科学（第2版）」 夏目 長門編 医学書院				
参考文献	なし				
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員の一人は、大学教員として約50年口腔顎顔面外科学の講義および実学教育を担ってきた

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-13				
	●	●		●						
科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	人間の生命、コミュニケーションに大きくかかわる呼吸器・喉頭・咽頭・口腔・舌・下顎の解剖と機能を学修し、音声言語機能障害をきたす疾患の病態を理解する。さらに、診断に要する検査について、その目的・方法を学び、結果が意味するところを理解する。音声障害や構音障害の発現機序を理解し、検査・評価や訓練方法の理論と手技の基礎を体得する。医師が行う薬物治療、手術治療について学修し、施術後に必要となる言語聴覚士によるリハビリテーションについて理解を深める。									
到達目標	音声障害や構音障害の発現機序を理解し、検査・評価や訓練方法の理論と手技の基礎を体得する。									
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床の基盤となる教科の一つである。復習を怠らず積極的な受講を期待する。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	呼吸器の構造・気道 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
2	呼吸器の構造・肺 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
3	胸郭と胸腔一呼吸運動 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
4	喉頭の構造① 喉頭軟骨 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
5	喉頭の構造② 喉頭の筋 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
6	喉頭の機能① 内喉頭筋と外喉頭筋 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
7	喉頭の機能② 声帯の機能（開大・閉鎖・発声） 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
8	喉頭の神経と血管 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
9	咽頭の構造 概要と咽頭筋 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
10	咽頭の機能 嚥下 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
11	呼吸と発声に関わる検査 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
12	声帯の隆起性病変 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
13	声帯の萎縮性・硬化性病変・機能性発声障害 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
14	喉頭疾患の治療 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
15	喉頭全摘手術後の代用音声 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	病気がみえる④ 呼吸器 MEDIC MEDIA			
参考文献	なし			
備考	課題は、次回講義時にフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として呼吸喉頭病変の患者へのリハビリテーションを含む30年以上の臨床経験をもつ。その景観を活かし、言語聴覚療法と呼吸・発声機能との関係を詳しく講義する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-14					
	●	●		●							

科目名	聴覚系の構造・機能・病態				単位 認定者	渡邊 弘人		評価の方法	試験(筆記)	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		小テスト (中間)	30	%
						授業時間数	30 時間		授業内 課題等	20	%
				授業形態	講義	授業回数	15 回				

授業の概要	人の聴覚器官にはさまざまな役割があり、生活する上で欠かすことができない「音」や「平衡感覚」に深くかかわっている。感受する刺激がどのようなものなのかを知り、聴覚器官内部でどう作用されるのかを理解する。さらに、この作用がうまく働かなくなった場合の影響、難聴・めまいを引き起こす原因となる疾患や病態について学ぶ。特に耳の解剖生理、構造をイントロダクションとし、日常よく耳にする疾患の説明から検査、症状という流れで理解を深めていく。										
到達目標	言語聴覚士に必要な聴覚系リハビリテーションの基礎となる知識を修得する。										
学修者への期待等	聴覚前庭系の解剖と生理は、聴覚系リハビリテーション領域を理解する上で非常に重要な科目であるため、自ら考え学び取る姿勢を期待する。										

回	授業計画	準備学修	事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	聴覚伝音系の解剖と生理① 外耳の解剖と機能、役割 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P4～5を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
2	聴覚伝音系の解剖と生理② 中耳の解剖 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P5～9を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
3	聴覚伝音系の解剖と生理② 中耳の機能と役割 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P5～9を読むこと。 事後学修：関連の国試過去問を解くこと。	30	60
4	聴覚感音系の解剖と生理① 内耳の解剖 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P10～12を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
5	聴覚感音系の解剖と生理② 内耳の機能と役割 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P10～12を読むこと。 事後学修：関連の国試過去問を解くこと。	30	60
6	聴覚後迷路系の解剖と生理 聴覚伝導路の解剖と機能・役割 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P12を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
7	聴覚前庭系の解剖と生理 三半規管と卵形嚢・球形嚢の解剖と機能・役割 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P13～17を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
8	聴覚系と前庭系の解剖と生理と機能 まとめ 外耳から後迷路まで解剖と機能、前庭系の解剖と機能	事前学修：教科書P4～17を読むこと。 事後学修：小テストの内容を復習すること。	30	90
9	聴覚伝音系の病態① 外耳道の疾患（先天的奇形など） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P2～3、62～65を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
10	聴覚感音系の病態② 中耳系疾患（中耳炎など） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P66～95を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	60	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	聴覚感音系の病態① 内耳系疾患（音響外傷など） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P104～115を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
12	聴覚感音系の病態② 内耳系疾患（遺伝系疾患など） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P96～103を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
13	聴覚感音系の病態③ 後迷路系疾患（聴神経腫瘍など） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P122～124を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
14	前庭系の病態① めまい疾患（良性発作性頭位眩暈症など） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：教科書P116～121を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。	30	60
15	聴覚系と前庭系の病態 まとめ 正常機能と病状の関係を中心とした総括 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：関連の国試問題を解くこと。 事後学修：関連の国試問題を解説すること。	30	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）			
教科書	「病気が見えるvol13 耳鼻咽喉科」 医療情報科学研究所（編） メディックメディア			
参考文献	「言語聴覚士テキスト」（最新版） 大森孝一他（編集） 医歯薬出版			
備考	授業内課題は、採点后返却しフィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は、言語聴覚療法分野で15年以上の臨床経験と、言語聴覚士資格を有しており、その経験を活かして学生が聴覚・前庭系の機能・構造・病態について理解を深め、臨床現場に繋げられるような実践的な授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-15				
	●	●		●						
科目名	神経系の構造・機能・病態				単位認定者	平山 和美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	リハビリテーションの対象となる中枢神経、末梢神経の生理的機能、解剖、病態について理解する。特に、外来の刺激を受容し中枢に伝え、中枢から効果器への指令を伝える装置である神経ネットワークの経路を中心に、大脳皮質・大脳辺縁系・小脳・脳幹・脊髄、各神経核の機能と構造を理解し、その損傷による身体への影響をリハビリテーションと関連付け、医用画像の評価を学ぶ。さらに身体の状態に強く関与する自律神経系について学修する。									
到達目標	末梢および中枢神経を構成する、重要な細胞、組織、器官（部位）の構造と機能について説明できる。									
学修者への期待等	教科書、配布資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	細胞					事前学修：教科書 脳・神経 神経系の構造と機能を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
2	組織・器官					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
3	発生					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
4	進化					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
5	末梢神経（全身）					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
6	末梢神経（脳神経）（グループワークを実施）					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
7	脊髄					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
8	脳幹・小脳					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
9	視床					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
10	基底核					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
11	大脳（後頭葉、側頭葉）					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
12	大脳（頭頂葉、前頭葉）					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
13	脳室・膜・血管					事前学修：前回の講義内容の復習 事後学修：特に指定しない			30	0
14	脳画像の見方					事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：配布した資料を見て読むこと			30	30
15	総括					事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：配布した資料を見て読むこと			30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『病気がみえるvol.7 脳・神経（最新版）』 医療情報科学研究所 編 メディックメディア									
参考文献	なし									
備考	なし									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-WOM-02				
	●	●								
科目名	心理学				単位認定者	真 健		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td>授業内課題等</td> <td>30 %</td>	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数		15 回	
授業の概要	言語聴覚療法の現場では自らの気持ちを言語で表現できない利用者と相対し、心と行動を理解することが求められ、心理学の素養はその一助となる。心理学は人の感情や行動の仕組みを科学的に研究する学問であり行動の科学といわれる。授業では、臨床現場で不可欠といえる認知学習心理学、発達心理学、臨床心理学を学ぶための基礎とするため心理学を概観する。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ UNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	心理学とは（心理学と自然科学） ペアディスカッションを行う					事前学修：資料を読んで心を科学的に扱うことについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
2	発達1：遺伝と環境					事前学修：資料を読んで遺伝と環境について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
3	発達2：発達の基本的諸相					事前学修：資料を読んで各年齢段階の発達の特徴について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
4	感覚・知覚・認知					事前学修：資料を読んで感覚・知覚・認知について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
5	学習					事前学修：資料を読んで学習について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
6	記憶					事前学修：資料を読んで記憶について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
7	パーソナリティ1：パーソナリティの理論					事前学修：資料を読んでパーソナリティの理論について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
8	パーソナリティ2：パーソナリティの測定方法					事前学修：資料を読んでパーソナリティの測定方法について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
9	欲求と動機					事前学修：資料を読んで欲求・動機・防衛機制について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
10	注意					事前学修：資料を読んで注意について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	情動・感情	事前学修：資料を読んで情動・感情について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
12	対人認知	事前学修：資料を読んで対人認知について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
13	説得	事前学修：資料を読んで説得について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
14	集団	事前学修：資料を読んで集団について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
15	日常生活上の問題（外見に関する問題） ペアディスカッションを行う	事前学修：資料を読んでルッキズムについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ ペアディスカッション ）			
教科書	特に指定しません。資料は事前にUNIPA上にアップします。			
参考文献	特になし			
備考	毎回事後学修としてUNIPA上のレスポンスシートへの回答を求め、次回の授業でフィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-WOM-07				
	●	●		●						
科目名	認知・学習心理学				単位 認定者	真 健		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	認知心理学とは、知覚、記憶、思考、理解など対象を認識する作用や、学修によって得られた知識に基づく行動のコントロールを含めた認知の過程、生体の情報処理過程を明らかにしようとする学問であり、学習心理学とは経験を通して行動を変容させていく過程を研究する心理学の一領域である。本講義では、学習・記憶・認知について基礎的現象を学び、現象の背後にある原理を学修し、さらには言語聴覚領域との深い関連を学ぶ。									
到達目標	「学習」「記憶」について基礎的知見を理解し、説明できるようになる。 「感覚・知覚・認知」について基礎的知見を理解し、説明できるようになる。 認知心理学のトピックスについて、日常生活と関連づけて説明できるようになる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 理解できなかったこと、疑問に思ったことがあれば授業中に質問すること。 授業内容について、復習を行い、理解できなかった点を明らかにして次回に質問すること。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	心理学と認知心理学（心理学の研究対象、認知心理学の成立背景） ペアディスカッションを行う				事前学修：資料を読んで認知心理学について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30
2	学習（古典的条件づけ、強化と消去、連続強化と部分強化）				事前学修：資料を読んで古典的条件づけについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30
3	学習（道具的条件づけ、強化と弱化、強化プログラム）				事前学修：資料を読んで道具的条件づけについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30
4	技能学習（運動技能学習、認知技能学習、学習曲線）				事前学修：資料を読んで技能学習について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30
5	記憶Ⅰ（記憶過程、記憶の測定法、二重貯蔵モデル）				事前学修：資料を読んで記憶の測定法について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30
6	記憶Ⅱ（短期記憶、長期記憶、処理水準、意味記憶）				事前学修：資料を読んで短期記憶・長期記憶について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30
7	記憶Ⅲ（プライミング、日常記憶） ペアディスカッションを行う				事前学修：資料を読んでプライミングについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30
8	感覚・知覚・認知（感覚・知覚・認知の区別、感覚の種類、感覚順応、視感覚の仕組み）				事前学修：資料を読んで感覚について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30
9	視知覚Ⅰ（恒常性、対比、形の知覚、特徴抽出、図地分離、群化、錯視）				事前学修：資料を読んで形の知覚について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
10	視知覚Ⅱ（奥行き知覚、両眼視差、絵画遠近法、運動知覚、実運動、誘導運動、仮現運動）	事前学修：資料を読んで奥行き知覚・運動知覚について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
11	パタン認知（遮蔽と補完、鋳型照合モデル、特徴分析モデル、視点非依存アプローチ、視点依存アプローチ）	事前学修：資料を読んでパタン認知について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
12	注意（選択的注意、処理容量、前注意的過程、注意の特徴） ペアディスカッションを行う	事前学修：資料を読んで注意の特徴について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
13	心的イメージ（心的イメージの個人差、心的イメージと知覚、心的イメージと心理臨床）	事前学修：資料を読んで心的イメージについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
14	感情・情動Ⅰ（情動の種類、情動の理論）	事前学修：資料を読んで情動の理論について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
15	感情・情動Ⅱ（表情の表出、表情の認知）	事前学修：資料を読んで表情について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ ペアディスカッション ）			
教科書	指定なし。資料は事前にUNIPA上にアップします。			
参考文献	『学習心理学への招待』 篠原彰一（著） サイエンス社 『新・知性と感性の心理』 行場次朗・箱田裕司（編著） 福村出版			
備考	毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートへの回答を求め、次回の授業でフィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						ST-1-LAC-01				
	●	●		●						
科目名	言語学				単位 認定者	小泉 政利		評価 の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		宿題レポート	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題等	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	言語学・言語心理学の基礎知識を学ぶ。言語の一般的な特徴の概観から、言語の音、単語、文、意味の分析へと進み、音韻論としての音素、モーラ、音節、アクセント、音韻過程を概観する。形態論では形態素と形態過程、活用、日本語の特徴を学び、さらに統語論では文の構成要素、受身と使役、意味論では単語の意味と文の意味、語用論で話者の意味を学ぶ。さらには世界の言語として言語の系統、言語数、話者数、危機言語を学び、音韻・単語・統語解析及び談話理解を通してコミュニケーションの運用を考察する。									
到達目標	言語聴覚士（になるため）に必要な、言語学、日本語学、言語心理学の基礎知識を身につける。また、その基礎知識を使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる（⇒ メタ言語能力・メタ認知能力の涵養）。									
学修者への期待等	事前にテキストを熟読して予習し、授業終了後はすぐに復習して、毎回の授業内容をその日のうちに確実に身につけるようにしましょう。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	ガイダンス・言語と言語学					事前学修：教科書第1 講～第3 講で予習する（各講末の問題も解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30
2	音声学（反転授業）					事前学修：問題集セクション1 で予習する（問題を全て解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30
3	音韻論 1：音素（反転授業）					事前学修：教科書第4 講～第6 講で予習する（各講末の問題も解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30
4	音韻論 2：音節（反転授業）					事前学修：教科書第7 講～第9 講で予習する（各講末の問題も解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30
5	音韻論 3：韻律（反転授業）					事前学修：問題集セクション2 で予習する（問題を全て解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30
6	形態論 1：形態素（反転授業）					事前学修：教科書第1 0 講～第1 2 講で予習する（各講末の問題も解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30
7	形態論 2：接辞（反転授業）					事前学修：教科書第1 3 講～第1 5 講で予習する（各講末の問題も解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30
8	形態論 3：語形成（反転授業）					事前学修：問題集セクション3 で予習する（問題を全て解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30
9	統語論 1：統語構造（反転授業）					事前学修：教科書第1 6 講～第1 8 講で予習する（各講末の問題も解く）。 事後学修：配布資料とノートを見返して復習する。			60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
10	統語論 2 : 統語分析 (反転授業)	事前学修: 問題集セクション 4 で予習する (問題を全て解く)。 事後学修: 配布資料とノートを見返して復習する。	60	30
11	統語論 3 : 統語類型 (反転授業)	事前学修: 教科書第 19 講～第 21 講で予習する (各講末の問題も解く)。 事後学修: 配布資料とノートを見返して復習する。	60	30
12	意味論 1 : 命題、モダリティ、ヴォイス (反転授業)	事前学修: 問題集セクション 5 で予習する (問題を全て解く)。 事後学修: 配布資料とノートを見返して復習する。	60	30
13	意味論 2 : テンス、アスペクト (反転授業)	事前学修: 教科書第 22 講～第 24 講で予習する (各講末の問題も解く)。 事後学修: 配布資料とノートを見返して復習する。	60	30
14	意味論 3 : 論理関係 (反転授業)	事前学修: 問題集セクション 6 で予習する (問題を全て解く)。 事後学修: 配布資料とノートを見返して復習する。	60	30
15	語用論 (反転授業)	事前学修: 教科書第 25 講～第 26 講で予習する (各講末の問題も解く)。 事後学修: 配布資料とノートを見返して復習する。	60	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり: キーワード (反転授業)			
教科書	教科書: 『言語学入門』佐久間淳一他著 研究社 問題集: 『言語学基本問題集』佐久間淳一(編) 研究社			
参考文献	『ここから始める言語学プラス統計分析』小泉政利(編著) 共立出版			
備考	課題については採点し、授業内でフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						ST-1-LAC-03				
	●	●		●						
科目名	音声学				単位 認定者	東ヶ崎 祐一		評 価 の 方 法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本講義では、主に調音音声学の原理及び国際音声字母とそれが表す音とを学んだ上で、音声言語の客観的な観察に習熟することがテーマである。音声学概論・各論について講義形式で学んで行くが、併せて国際音声字母の各単音の発音の訓練をする部分も大きな比重を占める。まず音声学の概論として、言語における音声の位置づけ、音声器官の構造とはたらき、国際音声字母と音声記述の原理について概観する。次に、国際音声字母の体系における記述の原理を学び、かつ、個々の音の調音と聴取の訓練を行う。扱う順序は、○母音（第一次基本母音、第二次基本母音、その他の母音）○肺臓気流子音（破裂音、鼻音、摩擦音、その他の子音）○非肺臓気流子音○超分節音である。最後に、音韻論及び音響音声学との関連について概観する。									
到達目標	音声産出のメカニズムと各音声器官の働きを理解したうえで、世界の言語音(特に日本語)を対象に「聞き取り・国際音声記号（IPA）を用いた書き取り・発音」が出来るようになる。									
学修者への期待等	授業後には調音位置・調音方法を復習したうえで発音の復習・練習を繰り返し行うこと。2回目以降は手鏡を持参すること。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	授業ガイダンス 音声学とは？				事前学修：あらかじめ教科書第1、2章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習すること				60	60
2	発声のしくみ				事前学修：あらかじめ教科書第3章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習すること				60	60
3	発音記号を覚えよう（国際音声記号）				事前学修：あらかじめ教科書第4章を読んでおき、内容（特に国際音声記号）について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習すること				60	60
4	発音記号を覚えよう（母音体系）				事前学修：再度教科書第4章を読んでおき、母音体系について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習、母音の発音練習をすること				60	60
5	発音記号を覚えよう（調音位置と調音方法）				事前学修：あらかじめ教科書第5章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習すること				60	60
6	発音記号を覚えよう（破裂音、摩擦音など）				事前学修：再度教科書第5章を読んでおき、母音体系について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習、発音練習をすること				60	60
7	発音記号を覚えよう（鼻音、接近音など）				事前学修：あらかじめ教科書第6章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習、発音練習をすること				60	60
8	発音記号を覚えよう（日本語の音声、撥音・促音の発音）				事前学修：再度教科書第6章を読んでおき、日本語の音声について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習すること				60	60
9	発音記号を覚えよう（日本語に現れない音声、非肺臓気流子音など）				事前学修：国際音声記号の表を再度みておき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って発音練習をすること				60	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
10	さまざまな音声現象	事前学修：あらかじめ教科書第15章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習、発音練習をすること	60	60
11	音声と音素	事前学修：あらかじめ教科書第16章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習すること	60	60
12	音節・モーラ	事前学修：あらかじめ教科書第17章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習すること	60	60
13	アクセント	事前学修：あらかじめ教科書第18章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習・発音練習をすること	60	60
14	イントネーション	事前学修：あらかじめ教科書第19章を読んでおき、内容について把握しておくこと 事後学修：講義内容に沿って復習・発音練習をすること	60	60
15	まとめ	事前学修：教科書・ノート等を見返し、今期の授業内容を振り返ること 事後学修：期末試験に向かって、授業内容をもう一度整理すること。	60	60
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『たのしい音声学』 竹内京子・木村琢也著 くろしお出版			
参考文献	https://onsei.xyz			
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-LAC-05				
	●	●		●						
科目名	音声表記・分析学				単位 認定者	江畑 綾 東ヶ崎 祐一		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		レポート	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	音声を視覚的にとらえる手段のひとつに、音声分析ソフトによるスペクトログラムがある。本演習では、実際にPCを用いてスペクトログラムを作成、観察し、自身の音声の特徴を分析する。さらに、国際音声記号を用いて○母国語としての日本語話者○日本語学修者○器質性構音障がい○機能性構音障がい症例の発音を記述するトレーニングを通し、臨床現場で活用できる速さと正確さを身につける。									
到達目標	・音声の物理的側面を理解し、科学的に分析する手法を身につける。 ・分析により、連続した音声から個々の音の特徴を導くことができる。									
学修者への期待等	スペクトログラムの作成・観察・分析のため、調音位置・調音方法の復習を行うこと。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	日本語話者の正常構音① 日本語で用いられる単音節					事前学修：国際音声記号を復習しておくこと 事後学修：配布資料を復習すること		60	30	江畑 綾
2	日本語話者の正常構音② 複数音節～単語の書き取り					事前学修：テキスト該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配布資料を復習すること		30	30	江畑 綾
3	日本語話者の正常構音③ 短文の書き取り					事前学修：テキスト該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配布資料を復習すること		30	30	江畑 綾
4	障害音声の記述・分析について					事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：配布資料と提示資料を復習すること		30	30	江畑 綾
5	異常構音について① 器質性構音障害にみられる発話とは					事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：配布資料と提示資料を復習すること		30	30	江畑 綾
6	異常構音について② 機能性構音障害にみられる発話とは					事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：配布資料と提示資料を復習すること		30	30	江畑 綾
7	異常構音の聞き取り・書き取り練習① 音節・単語（グループワーク）					事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：配布資料と提示資料を復習すること		30	30	江畑 綾
8	異常構音の聞き取り・書き取り練習② 音節・単語・短文（グループワーク）					事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：配布資料と提示資料を復習すること		30	30	江畑 綾
9	構音症状の聞き取り・書き取り練習① 音節・単語（グループワーク）					事前学修：配布資料を読んでおくこと（特に音声表記） 事後学修：配布資料と提示資料を復習すること		30	30	江畑 綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	構音症状の聞き取り・書き取り練習② 音節・単語・短文 (グループワーク)	事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：配布資料と提示資料を復習すること	30	30	江畑 綾
11	音を目で見てみよう (音声分析方法の概説・ソフトウェアの基本的操作)	事前学修：あらかじめ教科書第7章を読み内容把握、指定のソフトウェアをダウンロード・インストールしておくこと 事後学修：ソフトウェアを自分で操作して、基本的な操作に習熟すること	60	60	東ヶ崎 祐一
12	各母音の音響的特徴と調音位置・調音方法	事前学修：あらかじめ教科書第8.9章を読み、内容把握をしておくこと 事後学修：母音を実際に発音して機械で分析、波形やフォルマントがどのように出るか記録してみること	60	60	東ヶ崎 祐一
13	各子音の音響的特徴と調音位置・調音方法(1)	事前学修：あらかじめ教科書第10, 11章を読み、内容把握をしておくこと 事後学修：子音を実際に発音して機械で分析、波形などがどのように出るか記録してみること	60	60	東ヶ崎 祐一
14	各子音の音響的特徴と調音位置・調音方法(2)	事前学修：あらかじめ教科書第12, 13章を読み、内容把握をしておくこと 事後学修：子音を実際に発音して機械で分析、波形などがどのように出るか記録してみること	60	60	東ヶ崎 祐一
15	連続した音声の分析・ラベリング・考察	事前学修：あらかじめ教科書第14章を読み、内容把握をしておくこと 事後学修：短い文章を発音して機械で分析、個別の音を切り分け、ラベリングしてみること	60	60	東ヶ崎 祐一
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード (グループワーク)				
教科書	『口蓋裂の構音障害(Audio CD)』企画・監修：日本音声言語医学会 インテルナ出版 『たのしい音声学』竹内京子・木村琢也著 くろしお出版				
参考文献	なし				
備考	(江畑・東ヶ崎) 授業内で不定期に小テストを実施します。小テストは採点后返却をしフィードバックを行います。 11回から15回はパソコンを使用する。各自ノートパソコンを持参すること。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は言語聴覚療法分野で5年以上の実務経験と、言語聴覚士資格を有しており、IPA表記や音声分析を、発話事例などの応用を交えた実践的な授業を行います。	

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-1-LAC-06				
	●	●		●						
科目名	音響学				単位 認定者	本田 俊夫 矢入 聡		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	音響学とは、音に関する学問であり、音声や聴覚を専門とする言語聴覚士はその学修が必須である。音響学の入門は音を物理的な視点から波として考察することで、基本的な運動法則とエネルギーの保存原理に基づいて理解することが必要である。本講義では、基本的な音波の性質、音の強さの尺度（デシベルの定義）、音のスペクトル、閉管の共鳴を理解する。音響学は聴覚を通して人間そのものと密接に結びつく。本講義では音響学Ⅰの知識をもとに、聴覚フィルタ、マスキング、臨界帯域などの聴覚特性、音の大きさ・高さの知覚としての感曲線、ラウドネス、補充現象、心理的尺度、場所説と時間説、空間知覚についても併せて学んでいく。									
到達目標	波の基本的な特性を理解し、デシベルやスペクトルなど、音響関連の用語が説明できる。音声の特性やサウンドスペクトログラムの基礎を理解した上で、音声进行分析する実践的なスキルを得る。									
学修者への期待等	物理、対数を履修していなかった人、理数系が苦手な人にとって音響学は難しいと感じる科目ですが、音は生活の中に溢れています。事前に「準備学修」で指定された箇所を熟読するとともに、関連する身近な例を意識しながら授業に臨んでください。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	波の基本的性質 波の基本要素、音速と波長・周波数、縦波・横波					事前学修：教科書 第1章1節「波の基本的性質」で予習すること 事後学修：講義内容について復習し、理解を深める		60	60	本田 俊夫
2	波の性質 合成、反射、定常波と共鳴					事前学修：教科書 第1章2節「定常波と共鳴」で予習すること 事後学修：講義内容について復習し、理解を深める		60	60	本田 俊夫
3	弦の振動、開管・閉管の共鳴、外耳道、声道への応用					事前学修：教科書 第1章2節「定常波と共鳴」で予習すること 事後学修：講義内容について復習し、理解を深める		60	60	本田 俊夫
4	倍音と階音、うなり、ドップラー効果					事前学修：教科書 第1章3節「倍音と階音」で予習すること 事後学修：講義内容について復習し、理解を深める		60	60	本田 俊夫
5	音圧と音の強さ 音の強さと大きさ、音圧、音圧と音の強さの関係、デシベルの式					事前学修：教科書 第2章1節「音圧と音の強さ」で予習すること 事後学修：講義内容について復習し、理解を深める		60	60	本田 俊夫
6	デシベルの計算 音圧比とデシベル、対数の計算					事前学修：教科書 第2章2節「デシベル」、第3節「デシベルの計算」で予習すること 事後学修：講義内容について復習し、理解を深める		60	60	本田 俊夫

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	デシベルの基準値	事前学修：教科書 第2章4節「デシベルの基準値」，5節「デシベルに関する補足事項」で予習すること 事後学修：講義内容について復習し、理解を深める	60	60	本田 俊夫
8	【遠隔（オンデマンド）】純音の式と音の種類	事前学修：教科書 第3章1節「純音の式」，2節「音の種類」で予習すること 事後学修：理解度テストに取り組むこと	30	30	矢入 聡
9	【遠隔（オンデマンド）】色々な音のスペクトル	事前学修：教科書 第3章3節「スペクトルの意味と実例」で予習すること 事後学修：理解度テストに取り組むこと	30	30	矢入 聡
10	【遠隔（オンデマンド）】サウンドスペクトログラム	事前学修：教科書 第3章4節「スペクトル分解の原理」，6節「サウンドスペクトログラム」で予習すること 事後学修：理解度テストに取り組むこと	30	30	矢入 聡
11	【遠隔（オンデマンド）】音のデジタル化	事前学修：教科書 第3章7節「音のデジタル化」で予習すること 事後学修：理解度テストに取り組むこと	30	30	矢入 聡
12	【遠隔（オンデマンド）】音の大きさと高さの知覚	事前学修：教科書 第4章1節「音の大きさの知覚」，2節「音の高さの知覚」で予習すること 事後学修：理解度テストに取り組むこと	30	30	矢入 聡
13	【遠隔（オンデマンド）】マスキングと両耳聴	事前学修：教科書 第4章3節「マスキング」，4節「両耳聴」で予習すること 事後学修：理解度テストに取り組むこと	30	30	矢入 聡
14	【遠隔（オンデマンド）】母音とフォルマント	事前学修：教科書 第5章1節「母音の生成の仕組み」，2節「母音とフォルマント」で予習すること 事後学修：理解度テストに取り組むこと	30	30	矢入 聡
15	【遠隔（オンデマンド）】音響分析	事前学修：教科書 第5章6節「総合分析」，7節「構音障害と音響分析」で予習すること 事後学修：理解度テストに取り組むこと	30	30	矢入 聡
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	『言語聴覚士の音響学入門（2訂版）』 吉田友敬著、海文堂				
参考文献	なし				
備考	課題については、授業内でフィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-LAC-07				
	●	●		●						
科目名	言語発達学				単位 認定者	越中 康治		評価 の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <th>授業内課題等</th> <td>30 %</td>	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数	15 回			
授業の概要	言語聴覚士において正常の言語発達の理解は必須であり、臨床場面において対象者の症状を分析する上で必要な知識である。本講義は、発達とは何かの問いから始め、言語発達の概観、言語発達の生物学的・認知的基礎、社会性の発達、子育てとことば、幼児期の言葉の実際、小学校における言葉の問題、言語発達支援についての知識・理解を深める。講義は言語聴覚領域と教育学の立場から展開する。									
到達目標	言語発達の基礎的事項について説明できるようになる。									
学修者への期待等	授業の中で自分の考えを書いたり、他の学生と話し合ったりする機会（グループワークやペアワークなど）を設けますので、これらの活動に積極的に取り組んでください。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	発達とは何か？（グループワーク・ペアワーク）					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
2	発達心理学の基礎的な理論					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
3	言語発達の理論					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
4	言語発達の概観Ⅰ（胎生期・新生児期の発達）					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
5	言語発達の概観Ⅱ（乳児期の発達）					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
6	言語発達の概観Ⅲ（幼児期前期の発達）					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
7	言語発達の概観Ⅳ（幼児期後期の発達）					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
8	言語発達の概観Ⅴ（児童期以降の発達）					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
9	言語発達の生物学的・認知的基礎					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
10	言語発達と社会性の発達					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
11	子育てと言葉Ⅰ（新生児期・乳児期）					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
12	子育てと言葉Ⅱ（幼児期）					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30
13	就学前施設における言葉					事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。			0	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	小学校における言葉	事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。	0	30
15	言語発達の支援	事前学修： 事後学修：配布資料を用いて復習をする。	0	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク・ペアワーク）			
教科書	なし			
参考文献	『発達心理学の基礎と支援—生涯発達・発達障害・発達臨床の理解—』永房典之（編）八千代出版 2025年			
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）	
教員は保育士（非常勤）として4年間保育に従事した経験を有しており、授業の中では保育現場における事例の紹介なども行います。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LHM-01				
	●	●	●							
科目名	言語聴覚療法管理学Ⅰ				単位 認定者	渡邊 弘人 中川 大介		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	より質の高い言語聴覚療法を提供するため、言語聴覚療法を支えるシステムと制度、保健・医療・福祉に関する制度（医療保険・介護保険制度を含む）を理解するとともに組織運営に関するマネジメントを行う心構えを促し、言語聴覚士の倫理、教育についての理解を深める。									
到達目標	質の高い言語聴覚療法を提供するために必要な職場管理や職業倫理などの基本を理解する。									
学修者への期待等	リハビリテーションを含む医療にかかわるものにとって非常に重要な領域となる。リハビリテーションの諸学者の皆さんには、自分が患者として医療施設で受けた診療経験を思い出し、本講義とリンクして理解を深めてほしい。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	リハビリテーションにおける管理運営とは					事前学修：呈示資料の該当箇所を予習すること。 事後学修：呈示資料を確認すること。		30	30	渡邊弘人
2	リハビリテーションを実施する組織の管理運営 ペアワークを行う。					事前学修：呈示資料の該当箇所を予習すること。 事後学修：呈示資料を確認すること。		30	30	渡邊弘人
3	社会保障制度、医療保険制度とリハビリテーション					事前学修：呈示資料の該当箇所を予習すること。 事後学修：呈示資料を確認すること。		30	30	渡邊弘人
4	介護保険制度、その他制度とリハビリテーション					事前学修：呈示資料の該当箇所を予習すること。 事後学修：呈示資料を確認すること。		30	30	渡邊弘人
5	日本の医療、介護の現状とリハビリテーションの管理 適宜グループワークを実施する					事前学修：地域包括ケアについて調べる。 事後学修：授業の復習をする。		30	30	中川大介
6	医療における組織とは何か、マネージャーの仕事 適宜グループワークを実施する					事前学修：身近な病院の理念、方針を調べる。 事後学修：授業の復習		30	30	中川大介
7	リハビリテーションの業務とは 適宜グループワークを実施する					事前学修：リハビリテーションにおける業務はどのようなものがあるのか調べる。 事後学修：授業の復習		30	30	中川大介
8	言語課報業務のマネジメント 適宜グループワークを実施する					事前学修：言語聴覚士はどのような仕事をするのか調べる。 事後学修：授業の復習をする。		30	30	中川大介

アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク，ペアワーク）
教科書	指定なし
参考文献	指定なし
備考	授業内課題は、採点后返却し、フィードバックを行う。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
言語聴覚士として15年以上の臨床経験がある。臨床経験を活かし、学生が臨床現場となる病院・施設内外でのシステム、管理とその制度などについて理解が深められるよう講義を行う。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-AHB-01				
	●	●		●						
科目名	失語症概論				単位 認定者	中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内 課題等	10 %
						授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	30 回			
授業の概要	失語症領域における言語聴覚士にとって必須の事項を理解する。19世紀後半に端を発する失語症候学の歴史を概観し、現在もなお現場で広く用いられている古典分類の考え方について知識を習得する。失語症の諸症状、失語学の歴史及び新古典分類の各失語症タイプ分類の仕方、症状の特徴、病巣について画像を読み解きながら学ぶ。また、特殊な失語型、純粋例や、失語症の言語治療の原則とその様々な治療方法、さらには失語症の回復と地域とのつながり、失語症友の会活動についても学んでゆく。									
到達目標	失語症の基本的な知識を身に付け、失語症者への理解を深める。併せて国家試験必須事項を理解する。									
学修者への期待等	教科書だけではなく、様々な関係図書にあたり学修することを望む。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	失語症の言語聴覚療法について（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP2-13を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
2	言語の神経学的基盤（脳の構造，認知機能との関連）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のp16-26を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
3	言語の神経学的基盤（その他の言語関連領域）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP27-32を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
4	失語症の原因疾患と脳画像（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP33-39を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
5	失語症の症状（話す，聴く，を中心に行う）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP53-65を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
6	失語症の症状（読む，書く，計算を中心に行う）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP66-70を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
7	失語症の症状（近縁症状、随伴しやすい障害）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP71-87を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
8	失語症候群（古典分類，ブローカ失語，ウェルニッケ失語）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP48-52、90-98を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
9	失語症候群（伝導失語、健忘失語）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP100-106を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
10	失語症候群（超皮質性失語、全失語）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書のP107-117を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60
11	失語症候群（交叉性失語、皮質下性失語）（適宜グループワーク実施）					事前学修：教科書のP119-126を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
12	純粋型（純粋語彙，発語失行）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP128-135を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
13	純粋型（純粋失読，純粋失書，失読失書）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書の136-143を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
14	原発性進行性失語，小児失語（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書の144-155を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
15	失語症の言語療法の全体像（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP159-186を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
16	失語症の評価・診断の目的（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP190-218を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
17	情報の統合と評価のまとめ，鑑別診断（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP218-231を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
18	言語治療の理論と技法（全体的に）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP234-242を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
19	認知神経心理学的アプローチについて（全体像，聴く）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP244-251を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
20	認知神経心理学的アプローチについて（呼称）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP244-251を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
21	認知神経心理学的アプローチについて（復唱）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP244-251を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
22	認知神経心理学的アプローチについて（読む）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP244-251を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
23	認知神経心理学的アプローチについて（書く）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP244-251を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
24	失語症の検査（SLTA 話す～聴く）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP195-199を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
25	失語症の検査（SLTA 読む～書く・計算）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP195-199を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
26	失語症の検査（レーブン色彩マトリックス検査，コース立方体検査）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP195-199を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
27	病院機能別 評価・訓練・支援（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：急性期、回復期、生活期の病院について調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
28	言語治療の実際（語彙，構文，文字・音韻，発語失行）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP280-337を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60
29	実用コミュニケーション．社会的アプローチ（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書のP338-354を読み用語を調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
30	失語症まとめ（適宜グループワーク、ペアワークを行う）	事前学修：講義内で行った国家試験問題を復習しておくこと 事後学修：授業内容を復習すること	60	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク）			
教科書	『標準言語聴覚障害学 失語症学（第4版）』藤田 郁代 編 医学書院 『病気がみえるvol.7 脳・神経（最新版）』医療情報科学研究所 編 メディックメディア 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定			
参考文献	なし			
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として、臨床現場にて15年以上の経験あり。脳卒中後の失語症者にリハビリテーションを実施した。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-04				
	●	●		●	●					
科目名	脳性麻痺				単位認定者	櫻庭 ゆかり 千木良 あき子		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	脳性麻痺は運動障害と発達の問題を包含している。本講義では、多様で複雑な障害像を呈する脳性麻痺を理解するために、原始反射・姿勢反応と運動発達との関連などを学修し、言語発達の問題や構音障害をはじめとする言語障害へのアプローチ、及び摂食嚥下障害に対するアプローチについて学ぶ。さらに、口腔ケア、脳画像による評価、喀痰の吸引についても学ぶ。生涯にわたって変化していく障害像に対し、ライフステージに応じた対応や多職種でのアプローチについて紹介し、言語聴覚士としての支援について考える機会とする。									
到達目標	正常発達を理解したうえで、脳性麻痺の臨床像について説明できるようになる。 健常児と脳性麻痺児の運動の違いを理解し、各類型の姿勢と運動の特徴を説明できるようになる。 障害児(者)の摂食嚥下機能障害に対する評価及び発達療法的対応の基礎知識を習得する。 対象児(者)の生活における困難さを理解し、言語聴覚士としてどんな支援ができるのか考え、表現できるようになる。									
学修者への期待等	障害児(者)にかかわる言語聴覚士について理解する。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	脳性麻痺とは① 定義、原因と臨床像				事前学修：やさしくわかる言語聴覚障害176 - 177を読んでおくこと 事後学修：再読し、説明できるようにする		30	30	櫻庭 ゆかり	
2	脳性麻痺の臨床的病型① 痙直型・アテトーゼ型 適宜グループワークを行う				事前学修：やさしくわかる言語聴覚障害178 - 179の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：再読し、説明できるようにする		30	30	櫻庭 ゆかり	
3	脳性麻痺の臨床的病型② 低緊張型・失調型・混合型 適宜グループワークを行う				事前学修：やさしくわかる言語聴覚障害178 - 179の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：再読し、説明できるようにする		30	30	櫻庭 ゆかり	
4	心身障害児(者)と家族に寄り添う視点を考える				事前学修：障害児の誕生、育児、家族の生活について考えてみてください。 事後学修：講義で得た情報を加えSTとしてできる支援を想像しましょう。		30	30	千木良 あき子	
5	中途障害と心身障害児(者)の違い：形態発達と機能発達、加齢・疾病と機能低下、脳性麻痺の形態発達(口腔)の問題について。講義の他、映像をもとにグループディスカッションを行い、結果を発表し共有する。				事前学修：中途障害と先天的障害について調べてください。 事後学修：講義内容を復習してください。		30	30	千木良 あき子	
6	摂食嚥下機能の定型発達と発達段階評価：昼食時の演習を通し、障害児(者)の食事を経験する。グループディスカッションを行い発表する。				事前学修：教科書の該当部分に目を通しておいってください。 事後学修：講義中の演習をふまえ、夕食時間を楽しみ、課題演習を行いましょう。		30	30	千木良 あき子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	代表的症例（脳性麻痺、知的能力障害、経管依存症、自閉症スペクトラム症）に関する講義を行う。症例に関連する情報に基づき適宜グループディスカッションを行い食の多様性について発表する。	事前学修：教科書等を活用し代表的症例について予習してください。 事後学修：グループディスカッションの発表の準備をしてください。	30	30	千木良 あき子
8	脳性麻痺における口腔ケアの重要性と対応の基本、チームアプローチ	事前学修：口腔ケアについて調べてみましょう。 事後学修：口腔にかかわる職種としてできる支援を考えましょう。	30	30	千木良 あき子
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（演習、グループディスカッション、発表）				
教科書	『赤ちゃんが自分で食べていくためのサポートガイド 摂食機能発達のための口・手・こころの育て方』 向井美恵、千木良あき子、田村文誉（編著） 医歯薬出版				
参考文献	『食べる機能の障害』金子芳洋(編)金子芳洋、向井美恵、尾本和彦(著) 医歯薬出版 『小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版』 田角勝、向井美恵(編著) 医歯薬出版				
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)					
担当教員は摂食機能発達・障害に関する研究に携わった後、地域の病院、施設、学校などで30年以上にわたり脳性麻痺を含む障害児（者）歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションを継続してきました。日本障害者歯科学会専門医及び認定医指導医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の資格を有しています。					

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-05				
	●	●		●	●					
科目名	学習障害・発達障害				単位 認定者	須賀川 芳夫		評価 の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本講義では、学習障害・発達障害の歴史的背景、診断基準、支援の基本的な考え方を学修する。主に発達障害についての概観、知的発達障害・自閉性障害・学習障害・読み書き障害、算数障害、注意欠陥/多動性障害(AD/HD)について取り上げ、それぞれの障害について理解を深める。また、臨床に必要な幼児の発達の基礎、言葉の育ちについて学び、幼児支援に対するアセスメントについて講義を通して学び、支援方法を身につける。									
到達目標	学習障害及び発達障害の定義や特性、支援の方法について理解を深める。									
学修者への期待等	講義内で学んだ発達障害・学習障害について理解し説明することができるようになることを期待する。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	発達障害の概念・定義					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
2	知的発達障害の診断基準と支援/ダウン症とウィリアムス症候群					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
3	自閉スペクトラム症の基本症状					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
4	自閉スペクトラム症当事者の声					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
5	心の理論について					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
6	自閉スペクトラム症の概念と変遷					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
7	自閉スペクトラム症児への支援					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
8	学習障害の定義と下位分類					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
9	読み書きの困難、心理的疑似体験					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30
10	読み書きの困難の評価					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	読み書きの困難への対応・支援	事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。	30	30
12	算数障害のサブタイプと支援：グループワーク	事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。	30	30
13	ADHDの症状と二次障害	事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。	30	30
14	ADHDの基本的な対応	事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。	30	30
15	言葉の育ちに必要なもの・幼児支援のアセスメントなど ：グループワーク	事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で呈示したまとめを再確認すること。	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学（最新版）』深浦 順一 / 藤野 博 / 石坂 郁代編 医学書院 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定			
参考文献	参考書：『健診とことばの相談』中川信子（著）ぶどう社 『教師のため合理的配慮の基礎知識』西村修一・久田信行（著）明治図書			
備考	なし			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は、言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有している。前職は公立学校教員（特別支援学校、小学校）であり、主に特別支援教育を担当してきた。
 [資格等] 言語聴覚士、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許、特別支援教育士 等

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●				ST-2-VDS-03				
科目名	運動障害性構音障害Ⅰ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	運動障害性構音障害とは神経系の病変による、発声発語器官の運動障害によって引き起こされる発声発語の障害で、発話は、複雑、微細、敏速な、極めてレベルの高い巧緻動作であり自動的、無意識的な運動である。また発声発語器官の構造が複雑で、その運動が目には見えず、感覚-運動系の連携のみにより成り立つという特徴をもつ。本講義では、運動障害性構音障害のタイプ分類の特徴を、脳の障害部位と関連付けて学ぶ。									
到達目標	神経系の障害に起因する運動障害性構音障害の原因と特徴を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	理解と記憶は一度だけではなく、繰り返し行うことを望む。また毎回、クラスメートとの確認作業を行う。知識の整理と発展、さらには患者様へ説明を行うためのトレーニングを兼ねるので、真剣に参加してほしい。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	ガイダンス 運動障害性構音障害とは					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
2	発声発語と神経・筋系の仕組み 1 神経					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
3	発声発語と神経・筋系の仕組み 1 呼吸コントロールの生理					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
4	発声発語と神経・筋系の仕組み 2 発声器官の解剖					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
5	発声発語と神経・筋系の仕組み 3 発声のメカニズムと調整					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
6	原因疾患と発話の特徴 1 発話症状					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
7	発声発語器官と神経制御の役割					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
8	神経疾患 1 脳血管障害、脳腫瘍、外傷					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
9	神経疾患 2 神経変性疾患					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
10	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 1. 痙性構音障害 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
11	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 2. 弛緩性構音障害 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30
12	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 3. 失調性構音障害 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
13	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 4. 運動低下性構音障害 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
14	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 5. 運動低下性構音障害 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
15	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 6. 混合性構音障害 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読して説明できるようにすること	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学（最新版）』城本修/原由紀編 医学書院 『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』廣瀬肇/柴田貞雄/白坂康俊著 医歯薬出版 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定			
参考文献	『病気がみえるvol.7 脳と神経（第2版）』医療情報科学研究所 編 メディックメディア			
備考	適宜、資料を配布するので、ファイリングしておくこと。課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。□			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
言語聴覚士として運動障害性構音障害を含む30年以上の臨床経験あり。その経験を活かし、運動障害性構音障害の臨床について、理解が深まるよう基本的な知識と実践を結び付けられるよう講義を行う。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDS-05				
	●	●		●	●					
科目名	摂食嚥下障害Ⅰ				単位 認定者	江畑 綾		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内 課題等	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	摂食嚥下障害の理解を深めるため、健常者の正常嚥下の流れを把握し、嚥下障害患者と比較してどこに違いが生じるのか、どうしてそのような運動、症状になるかについて深く考察していく。嚥下障害が引き起こす病態について理解するとともに、機能的・器質的な症状について把握するため、言語聴覚士が行うことのできる検査など演習を通じて評価の目的と概要について学んでいく。嚥下造影検査の読影、内視鏡検査の評価その他、他職種が実施する検査についても理解を広げ、摂食嚥下リハビリテーションのチームアプローチの基礎について学ぶ。									
到達目標	・成人領域における摂食嚥下のメカニズム、病態を理解する。 ・摂食嚥下障害の評価方法を習得し、問題点を抽出することができる。									
学修者への期待等	・成人嚥下において、正しい知識に基づき評価を行うことができる。 ・言語聴覚士として他職種へ情報提供を行うことができ、コミュニケーションが図れる。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	成人領域に対する言語聴覚士の摂食嚥下リハビリテーション。摂食嚥下機能に関わる器官の解剖①					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
2	摂食嚥下機能に関わる器官の解剖、 (嚥下5期モデルに関わる筋の構成とその機能)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
3	嚥下機能の生理・神経機構 (嚥下5期モデルに関わる神経機構とその機能)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
4	嚥下運動のメカニズム (嚥下反射のメカニズム、嚥下と呼吸の関係)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
5	嚥下障害の症状と原因(摂食嚥下障害を引き起こす疾患とその症状・嚥下障害の2次的問題)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
6	各期での嚥下障害の症状 (嚥下5期モデルにおける嚥下障害の症状と問題)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
7	嚥下障害の評価①(評価とは。評価の流れ。問診など)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
8	嚥下障害の評価②(実技演習) (嚥下機能に関わる諸器官・機能の評価)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
9	嚥下障害の評価③ スクリーニング評価(実技演習) (R S S T・改定水飲み検査・頸部聴診法)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
10	嚥下障害の評価④(実技演習、グループワーク) (フードテスト、水飲みテスト)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
11	嚥下障害の評価⑤ (食事場面観察)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
12	嚥下障害の評価⑥ (嚥下機能検査/嚥下造影検査)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
13	嚥下障害の評価⑦ (嚥下機能検査/嚥下内視鏡検査)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60
14	嚥下障害の評価⑧ (嚥下機能検査/その他の検査)					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。			30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
15	評価のまとめ・検査結果から導出される問題点	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：資料の復習。過去問題を解く。	30	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、実技）			
教科書	『最新言語聴覚学講座 摂食嚥下障害学』 倉智雅子編著 医歯薬出版株式会社 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』 大揚社 2026年7月頃発売予定			
参考文献	なし			
備考	適時小テストを行います。採点后フィードバックを行い返却します。 授業内容は状況に応じて変更する場合があります。適宜グループディスカッションを行います。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり経験してきた。本講義の各内容を、実際の臨床事例に基づく授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-01				
	●	●		●	●					
科目名	成人・小児の聴覚障害				単位 認定者	渡邊 弘人 坂本 幸		評価 の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	多様かつ複雑な状況に置かれている聴覚障害児・者及び平衡機能障害者の個々の場合に適切に対応するために必要な知識と技術について学ぶ。特に、近年の極早期の全人的発達支援を目指す乳幼児への対応について多面的に考察する。また、聴覚障害人口の大きな割合を占めながら、その潜在的ニーズに応え切れていない高齢者への対応の必要性についても検討する。聴覚障害者の心理や認知の特性について学び、障害特性及び個々人の実態に適合した対応の方法について考え、発達段階に応じて変化する認知的・心理的特性との関連を学んでいく。									
到達目標	聴覚障害児・者の個々の場合に適切に対応できるよう、知識と技術について学ぶ。特に、全人的発達支援を目指す乳幼児への対応、難聴者・中途失聴者の抱える課題、高齢者への対応も検討する。									
学修者への期待等	聴覚障害は複雑な障害である。内容を深く理解するためには、準備学修を行った上で各回の講義に臨むと効率的に理解できるであろう。自ら学び取って行く姿勢を期待したい。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	聴覚障害とは何か。 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：テキストP7～14 を読むこと。 事後学修：テキスト・提示 資料を確認すること。		30	30	渡邊 弘人
2	聴覚の機能 聞こえとことば（聴覚の発達） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：テキストP2～7を 読むこと。 事後学修：テキスト・提示 資料を確認すること。		30	30	渡邊 弘人
3	聴覚リハビリテーションの歴史と現状、課題 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：テキストP14～18 を読むこと。 事後学修：テキスト・提示 資料を確認すること。		30	30	渡邊 弘人
4	聴覚障害のリハビリテーションの概要 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：テキストP19～25 を読むこと。 事後学修：テキスト・提示 資料を確認すること。		30	30	渡邊 弘人
5	聴覚障害評価の概要（聴覚検査を含む） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：テキストP74～ 127を読むこと。 事後学修：テキスト・提示 資料を確認すること。		30	30	渡邊 弘人
6	成人聴覚障害の特徴 適宜グループワーク、ディスカッション、発表を行 う。					事前学修：テキストP206～ 221を読むこと。 事後学修：テキスト・提示 資料を確認すること。		30	30	渡邊 弘人
7	成人聴覚障害のコミュニケーション障害の改善 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：テキストP222～ 243を読むこと。 事後学修：テキスト・提示 資料を確認すること。		30	30	渡邊 弘人
8	成人聴覚障害の発症時期別の対応 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：テキストP222～ 243を読むこと。 事後学修：テキスト・提示 資料を確認すること。		30	30	渡邊 弘人
9	聞こえの特性と言語音の特性の係わりを知ってお く。（適宜質疑を行う）					事前学修：教科書第2章を通 読 事後学修：疑問点を記述(次 回質問)		30	20	坂本 幸
10	乳幼児の全発達の見地から、聴覚障害乳児の持つ課 題とその対応、支援上生じる問題について、具体的に 考える。					事前学修：教科書p. 246-252 通読 事後学修：疑問点を記述(次 回質問)		30	20	坂本 幸
11	前言語～言語初期の伝達の内容・相手・行動の発達 と 伝達手段との関わり、及び手指メディアについて 考える。					事前学修：教科書p. 251-269 通読 事後学修：疑問点を記述(次 回質問)		30	20	坂本 幸

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
12	発達段階とそれに見合う聴覚障害児支援を考察する。	事前学修：教科書p. 291-303 通読 事後学修：疑問点を記述(次回質問)	30	20	坂本 幸
13	幼児後期のコミュニケーションや言語への意欲や興味を育てる遊び・活動について具体的に考えてみる。	事前学修：教科書p. 312-324 通読 事後学修：疑問点を記述(次回質問)	30	20	坂本 幸
14	確実な筆記日本語習得と手指メディア活用を考える。	事前学修：教科書p. 303-308 通読 事後学修：疑問点を記述(次回質問)	10	20	坂本 幸
15	自力で教科学習を進める場合に必要な技能や、必要な支援をどこでどのように求めるかについて考える。	事前学修：教科書p. 308-312 通読 事後学修：疑問点を質問・整理する	30	20	坂本 幸
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション、発表）				
教科書	『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』 藤田郁代(編) 医学書院				
参考文献	『言語聴覚士のための聴覚障害学』 喜多村健(編) 医歯薬出版				
備考	(渡邊)授業内課題は、採点后返却し、フィードバックを行う。 (坂本)学習すべき内容に比べて授業時間があまり多くないので、積極的な質問・討論を期待しています。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
臨床経験15年以上の言語聴覚が担当する。臨床経験を活かし、学生が聴覚障害の理解を深め、これから展開される専門領域の講義、演習につながるよう講義する。	

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-HDS-03				
	●	●		●						
科目名	聴力検査 I				単位 認定者	渡邊 弘人		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内 課題等	30 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	演習	授業回数		8 回	
授業の概要	音声言語の入力経路＝聴覚機能に関する検査について、各種の聴力検査の概要とその目的について知る。聴覚検査の基本である純音・語音聴力検査の実技を、各種の聴覚検査の方法・機能・診断的意義の概要、留意点と問題点の講述、検査デモンストレーションを含めて学ぶ。									
到達目標	言語聴覚士が行う聴力検査の概要・目的・実施手順について理解する。									
学修者への期待等	聴力検査を理解するためには、聴覚系の解剖・生理の理解が求められるため、「聴覚系の機能・構造・病態」の講義内で行った内容を復習しておくこと。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	聴覚検査総論 自覚的検査と他覚的検査					事前学修：テキストP41～44を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。			30	60
2	自覚的聴覚検査Ⅰ：純音聴力検査① 原理と目的 適宜グループワークを実施する。					事前学修：テキストP48～49を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。			30	60
3	自覚的聴覚検査Ⅰ：純音聴力検査② オーディオ メータの各種機能 適宜グループワークを実施する。					事前学修：テキストP48～53を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。			30	60
4	自覚的聴覚検査Ⅰ：純音聴力検査③ 実施手順と 注意点 適宜グループワークを実施する。					事前学修：テキストP48～53を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。			30	60
5	聴覚マスキング 聴力検査用マスキング音の種類と 特性 適宜グループワークを実施する。					事前学修：テキストP56～62を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。			30	60
6	聴覚検査演習①：純音聴力検査（気導聴力検査） 適宜グループワークを実施する。					事前学修：テキストP48～54を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。			30	60
7	聴覚検査演習②：純音聴力検査（骨導聴力検査） 適宜グループワークを実施する。					事前学修：テキストP54～56を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。			30	60
8	聴覚検査演習③：オーディオグラムへの記録方法 検 査結果の解釈 適宜グループワークを実施する。					事前学修：テキストP48～49を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。			30	60
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション、演習）									
教科書	『聴覚検査の実際（最新版）』（略：テキスト） 日本聴覚医学会(編) 南山堂 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3 年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定									
参考文献	『基本的聴覚検査マニュアル（改訂3版）』 服部浩 金芳堂									
備考	聴覚演習室で講義・演習を行う予定である。授業内課題は、採点した後に返却してフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
臨床経験15年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が聴力検査についての理解を深め、臨床現場に繋がるよう実践的な講義、演習を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-05				
	●	●		●						

科目名	視覚聴覚二重障害・重複障害				単位 認定者	三科 聡子		評価の方法	試験 （筆記試験）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要	視覚聴覚二重障害及び重複障害の生理・心理・教育についての基本を理解し、その障害特性を踏まえた支援の方法についての基本的視点を習得する。視覚聴覚二重障害や重複障害を有する人への対応（療育・教育）や支援の方法と実際に学ぶ。これらの障害についての生理・心理面における基本的知識、及び教育（療育）的対応における基本事項を理解する。さらに近年の支援状況や今後の課題についても学修する。臨床像を踏まえて、具体的な行動観察、評価の視点、コミュニケーション支援、重度・重複障害者の探索活動の促進への対応を学ぶ。									
到達目標	視覚聴覚二重障害及び重複障害の特性や困難を理解し、説明をすることができる。 臨床の現場では、視覚聴覚二重障害及び重複障害を有する児・者の個々の困難を障害特性との関連から評価・説明ができる。									
学修者への期待等	授業内で配布する資料等を熟読し、不明な点がある場合には、授業の際に質問をするなど解決してください。									

回	授業計画		準備学修		事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	視覚聴覚二重障害の定義		事前学修：特に指定しない 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。		0	60
2	視覚聴覚障害の原因とニーズ及び臨床象		事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。		30	30
3	視覚聴覚二重障害がもたらす影響（情報保障）： ペアワーク		事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。		30	30
4	視覚聴覚二重障害がもたらす影響（コミュニケーション）		事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。		30	30
5	視覚聴覚二重障害がもたらす生活上の困難（社会参加）		事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。		30	30
6	先天性視覚聴覚二重障害が初期発達にもたらす影響（コミュニケーション）		事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。		30	30
7	先天性視覚聴覚二重障害が初期発達にもたらす影響（概念形成）		事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。		30	30
8	視覚聴覚二重障害者への教育に関する現状と課題： グループワーク		事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。		30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
9	視覚聴覚二重障害者への支援に関する現状と課題 ：グループワーク	事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料を確認し、視覚聴覚二重障害に関する内容を総括する。	30	30
10	重複障害の定義	事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。	30	30
11	重複障害の原因と臨床像	事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。	30	30
12	重複障害のコミュニケーション支援	事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。	30	30
13	重複障害の感覚機能の評価と対応	事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。	30	30
14	重複障害の行動観察の評価と対応 ：グループワーク	事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題に取り組む。	30	30
15	重複障害者の支援に関する現状と課題 ：グループワーク	事前学修：資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理するとともに専門用語の意味等を理解して授業に臨む。 事後学修：内容の復習、関連資料を確認し、重複障害に関する内容を総括する。	30	60
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ペアワーク、グループワーク）			
教科書	特に指定はしません。適宜、資料等を配布します。			
参考文献	①『重度・重複障害児の教育 盲ろう児の指導実践に学ぶ』 志村太喜彌 コレール社 1989年 ②『盲ろう者への通訳・介助 光と音を伝えるための方法と技術』 全国盲ろう者協会（編） 読書工房 2008年			
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

20年以上特別支援学校の教員として勤務し、重複障害児教育（盲ろう教育・重度重複障害教育）に携わる。医療型重度障害児施設に勤務し、医療と療育との連携プログラムの作成や医療ケアを必要とする重度重複障害児者の支援に携わる。盲ろう者向け通訳・介助員として盲ろう支持者への情報保障を担い、通訳・介助員の養成及び現任研修を担当している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLH-01				
	●	●		●	●					
科目名	地域言語聴覚療法学Ⅰ				単位認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	現在、国は「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」など複数の医療・福祉サービスが連携することで、誰もが安心して自立した暮らしができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。このようななか言語聴覚士は地域社会でその人らしい生活ができるよう生活機能の維持・向上を目指し、専門的知識と技術をもって関連職種や地域住民と連携することが求められている。本講義では地域リハビリテーションの社会的背景と意義について学修し、地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度、地域における連携と展開について学ぶ。									
到達目標	地域リハビリテーションの基本を知り、地域リハビリテーションにおける言語聴覚療法と言語聴覚士の役割を学ぶ									
学修者への期待等	地域リハビリテーションは、在宅生活を送る患者・利用者にとって大変重要である。リハビリテーションの概念を意識し、当事者意識をもって広義に臨んでもらいたい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	地域リハビリテーションの社会的背景と概念、意義、歴史 適宜グループワークを実施する				事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること				30	30
2	我が国における社会保障制度の変遷 適宜グループワークを実施する				事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること				30	30
3	地域言語聴覚療法とは 言語聴覚士の役割と地域言語聴覚療法の実際 適宜グループワークを実施する				事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること				30	30
4	地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度 適宜グループワークを実施する				事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること				30	30
5	地域における連携 関連職種と言語聴覚士の役割 適宜グループワークを実施する				事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること				30	30
6	地域言語聴覚療法の展開 適宜グループワークを実施する				事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること				30	30
7	地域言語聴覚療法におけるサービス (1) 地域包括ケア・介護予防 適宜グループワークを実施する				事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること				30	30
8	地域言語聴覚療法におけるサービス (2) 通所・入所・在宅 適宜グループワークを実施する				事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること				30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『地域言語聴覚療法学』 編集 半田理恵子 藤田 郁代 医学書院									
参考文献	なし									
備考	課題は、次回講義時にフィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として地域を重視した臨床を30年以上おこなってきた。その経験を活かし、学生が地域で必要となるリハビリテーションの知識、特に言語聴覚療法を中心に、理解が深まるよう講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-CLT-01				
	●	●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅰ（見学実習）				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価の方法	実習先の評価： 知識・人物・適性	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		学内の評価： 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	45 時間			
					授業形態	実習	授業回数		- 回	
授業の概要	リハビリテーションの専門職につくための自覚を持つとともに、臨床の見学を通し、挨拶、時間の順守、態度を含めた社会人としての在り方、対象者の尊厳の理解、対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。 また、臨床現場における言語聴覚士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。実習後には実習報告書の作成と報告会を行って、実習を振り返るとともにそれぞれの体験を分かち合う。さらには個人面談において、臨床実習指導者からのフィードバックを行いながら自らの今後の課題と目標を明確にする。									
到達目標	言語聴覚療法について具体的にイメージできる。社会人としての在り方を理解し、実行できる。言語聴覚士に求められる基本的資質を理解する。									
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動の見学を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってもらいたい。そのうえで、次年度の学修における努力目標を明確にできることを期待する。									
授業計画						準備学修		事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 9月4週～10月1週の間で1週 2. 実習の目的 学内においては、グループワークを通じて、医療従事者としてふさわしい礼節や態度などについて考え、自然にできるよう身に付ける。実習施設において実際の臨床を見学することで、言語聴覚療法に対する認識を高める。また、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。 3. 実習の目標（ねらい） 1) リハビリテーションの専門職に就くための自覚を持つ。 2) 他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。 3) 対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。 4. 実習計画 オリエンテーション 実習前3時間 実習後2時間 計5時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 5) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。						事前学修：前期科目「学習の基礎」「医療概論」の講義資料を確認すること。それ以外の講義中に出された「言語聴覚士の仕事内容」「言語聴覚士の役割」「連携する多職種」について、まとめておくこと。 事後学修：見学実習を通じて学修した「病院・施設の地域での役割」、「言語聴覚士の仕事内容」、「病院内外での言語聴覚士の役割」などについて、自分のまとめた実習報告書や実習報告会での他者の発表をもとに、各領域（失語・高次脳領域、聴覚障害領域、嚥下障害領域、構音障害領域、発達障害領域など）を整理する。		60	90	
教科書	適宜紹介する。									
参考文献	適宜紹介する。									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が見学実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-07				
	●	●		●						
科目名	言語聴覚障害学の基礎				単位 認定者	渡邊 弘人		評価の方法	試験	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	医療・教育・福祉の分野に広くかかわる言語聴覚障害について、成人領域、小児領域、聴覚障害領域で大きく分類し、それぞれの特徴と言語聴覚士の専門性について学ぶ。さらに本講義は学生による専門領域別概要レポートの発表を重視することで、自ら調べ考察する姿勢を育成し、主体的な判断と行動する能力を育む基礎とする。									
到達目標	言語聴覚士の全体像を俯瞰することを目的とする。これから3年間で学ぶ領域について知り、3年後に受ける国家試験の内容・難易度を知る。									
学修者への期待等	講義は、前半（1～7回）と後半（8～15回）に分け、前半は、言語聴覚障害に関わる基本的な人体のしくみ、こどもの発達について解説を行う。各回の講義内にてグループワークを行う。後半は1グループ4～5名に分けて、各グループごとに内容をまとめ発表する形式をとる。発表する領域については、講義開始時に発表する。グループメンバー内で担当領域についてしっかりと話し合い、協力して進めることを期待したい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	言語聴覚士の概要、言語聴覚療法について				事前学修：総論P1～20を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。				30	60
2	基本的な脳のしくみ（解剖と生理と機能）				事前学修：総論P21～44を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。				30	60
3	基本的な聴こえのしくみ（解剖と生理と機能）				事前学修：総論P21～44を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。				30	60
4	基本的な発声・発語のしくみ（解剖と生理と機能）				事前学修：総論P21～44を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。				30	60
5	基本的な嚥下のしくみ（解剖と生理と機能）				事前学修：総論P21～44を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。				30	60
6	基本的なことばの発達				事前学修：総論P21～44を読むこと。 事後学修：教科書・提示資料を確認すること。				30	60
7	言語聴覚士に関わる脳、聞こえ、発声・発語、嚥下、ことばの発達について まとめ（小テストの実施）				事前学修：総論P21～44を読むこと。 事後学修：出題された箇所を確認すること。				30	60
8	失語症について、病態と症状・検査法・訓練法・支援（グループワーク）				事前学修：テキストP268～281、図解言語P24～58を読むこと。 事後学修：教科書を確認すること。				30	60
9	失語症について、病態と症状・検査法・訓練法・支援（ディスカッションとプレゼンテーション）				事前学修：テキストP268～281、図解言語P24～58を読むこと。 事後学修：教科書を確認すること。				30	60
10	聴覚障害について、病態と症状・検査法・訓練法・支援（グループワーク） 前回の内容を踏まえた小テスト				事前学修：テキストP354～370、図解言語P138～148を読むこと。 事後学修：教科書を確認すること。				30	60
11	聴覚障害について、病態と症状・検査法・訓練法・支援（ディスカッションとプレゼンテーション）				事前学修：テキストP354～370、図解言語P138～148を読むこと。 事後学修：教科書を確認すること				30	60
12	音声・構音・嚥下障害について、病態と症状・検査法・訓練法・支援（グループワーク） 前回の内容を踏まえた小テスト				事前学修：テキストP372～403、P413～429 図解言語P60～94を読むこと。 事後学修：教科書を確認すること。				30	60
13	音声・構音・嚥下障害について、病態と症状・検査法・訓練法・支援（ディスカッションとプレゼンテーション）				事前学修：テキストP372～403、P413～429 図解言語P60～94 P162～190を読むこと。 事後学修：教科書を確認すること。				30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	言語発達障害について、病態と症状・検査法・訓練法・支援（グループワーク）前回の内容を踏まえた小テスト	事前学修：テキストP298～311 図解言語P126～136を読むこと。 事後学修：教科書を確認すること。	30	60
15	言語発達障害について、病態と症状・検査法・訓練法・支援（ディスカッションとプレゼンテーション）	事前学修：テキストP298～311 図解言語P126～136を読むこと。 事後学修：教科書を確認すること。	30	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）			
教科書	クリア言語聴覚療法1 言語聴覚障害総論(略:総論) 内山 量史 鈴木 真生(編著) 建帛社 『言語聴覚士テキスト(第4版)』(略:テキスト) 大森孝一他 編著 医歯薬出版 『図解やさしくわかる言語聴覚障害』(略:図解言語) 小嶋知幸 ナツメ社 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2026 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2026 ST基礎科目』医歯薬出版			
参考文献	『明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断』 大塚裕一 医学と看護社			
備考	前半は講義、後半は各グループ(1グループ6～7名)ごとに内容をまとめ発表する形式をとる。発表する領域については、授業開始時に決める。グループ発表をもとにした小テストを実施する。小テストは採点したのちに返却して、フィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、臨床経験が10年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚療法の専門領域を学ぶ前に、直結する基礎知識を講義する。

言語聴覚学科 2年生

(2025年度入学生)

- 年間予定表
- シラバス

2026年度 言語聴覚学科2年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月				1	2	3 入学式	4
	5	6 オリエンテーション	7	8 健康診断	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29 昭和の日	30	1	2
5月	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
6月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
7月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20 海の日	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8月	2	3 定期試験	4 定期試験	5	6 追試験	7 追試験	8
	9	10 特別休暇	11 山の日	12 特別休暇	13 特別休暇	14 特別休暇	15
	16	17	18	19	20 不合格者発表	21	22
	23	24	25	26	27 再試験	28 再試験	29
	30	31	1	2	3	4	5
9月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24	25	26
	27	28	29	30			

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 言語聴覚学科2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12 スポーツの日	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3 文化の日	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
	29	30	1	2	3	4	5
12月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1 元旦	2
1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11 成人の日	12	13	14	15	16
	17	18	19 定期試験	20 定期試験	21 追試験	22 追試験	23
	24	25	26	27 臨床実習Ⅱ	28 臨床実習Ⅱ	29 臨床実習Ⅱ	30
	31	1 臨床実習Ⅱ	2 臨床実習Ⅱ	3 臨床実習Ⅱ	4 臨床実習Ⅱ	5 臨床実習Ⅱ	6
2月	7	8 臨床実習Ⅱ	9 臨床実習Ⅱ	10 臨床実習Ⅱ	11 建国記念日	12 臨床実習Ⅱ	13
	14	15 臨床実習Ⅱ	16 臨床実習Ⅱ	17 臨床実習Ⅱ	18 臨床実習Ⅱ	19 臨床実習Ⅱ	20
	21	22 臨床実習Ⅱ	23 天皇誕生日	24 臨床実習Ⅱ	25 臨床実習Ⅱ	26 不合格者発表	27
	28	1	2	3	4	5	6
3月	7	8	9 再試験	10 再試験	11	12	13
	14	15	16	17 卒業式	18	19	20
	21 春分の日	22 振替休日	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果						科目ナンバリング			
						ST-0-HS0-02			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり、患者の尊厳や意思決定支援・インフォームドコンセント・など実際の倫理的問題に向き合ってきた。倫理の理論的基礎と臨床場面における具体的事案とを結びつけ、学生が自ら倫理的問題を同定・分析・解決する能力を育む授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-0-HSC-01				
	●	●								
科目名	統計と疫学				単位 認定者	鈴木 寿則		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	データと社会との関係性を学び(導入)、データを読み解き、扱うための基礎的な能力(基礎)、データやAIを利活用する際の倫理的・法的・社会的な留意点などの「心得」を学ぶ。さらにはこれを基礎として疫学の全体像を学修して疫学データを読み、健康に関する社会状況を理解する。									
到達目標	1. 医学系研究に必要な統計学の概要を説明できる。 2. 統計学亭視点から研究論文を読み、クリティカルレビューを行うことができる。									
学修者への期待等	授業で取り上げた内容は、その授業の中で理解できるよう集中し、分からない箇所等は質問してください。 また、授業後は各自、ノート等を整理、追加記入をし、復習に重点を置いてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	ガイダンス、研究のプロセス				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
2	データの収集・分析方法の決定				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
3	変数の概要(独立変数・従属変数の考え方)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
4	変数の測定(名義・順序・間隔・比率尺度)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
5	測定値の水準、測定の妥当性・信頼性				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
6	調査の計画と進め方(1)(全数調査と標本調査)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
7	調査の計画と進め方(2)(有意抽出と無作為抽出)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
8	調査の計画と進め方(3)(バイアスの制御)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
9	実験計画の考え方、分散分析				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
10	1変数の分析(1)(度数分布表の作成)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
11	1変数の分析(2)(平均値、中央値、最頻値)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
12	1変数の分析(3)(分散と標準偏差、面積変換)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	
13	2変数の分析(1)(クロス表の集計)				事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	2変数の分析 (2) (相関関係、回帰分析)	事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする	30	30
15	分析結果の一般化 (統計的仮説の立証)	事前学修：該当する教科書の範囲を通読する 事後学修：授業ノートの補充、復習をする	30	30
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード ()			
教科書	『実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方』古野谷亘・長田久雄 (ワールドプランニング, 1992)			
参考文献	なし			
備考	課題等を出した場合のフィードバックはメールによって行う。			

実務経験を有する教員による授業科目 (実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-04				
	●	●		●						
科目名	内科学				単位認定者	鈴木 裕一		評価の方法	授業内課題 (小テスト)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本講義では、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候学、治療等について学ぶ。腹部内臓器の諸疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、アレルギー疾患、その他さまざまな疾患についてリスクを含めた理解を深め、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法を実施する上で知っておくべき知識を身につけ、薬の作用機序についても学修する。									
到達目標	専門分野を実施する上で必要な、さらに医療チームの一員として活躍するのに必要な内科学の知識を得る。									
学修者への期待等	表面的でなく、内容を理解した上での知識を身につけること。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	内科的診断					事前学修：教科書第2章予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
2	治療学					事前学修：教科書第3章；予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
3	循環器疾患（1）心臓疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
4	循環器疾患（2）末梢血管疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
5	呼吸器疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
6	感染症					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
7	消化器疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
8	肝・胆・膵疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
9	アレルギー疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
10	腎・泌尿器疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
11	内分泌疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
12	代謝性疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
13	血液・造血器疾患					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
14	老年病学（1）認知症					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
15	老年病学（2）フレイルとサルコペニア					事前学修：教科書第4章；関連項目予習 事後学修：復習問題の見直し			30	30
アクティブ・ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-05				
	●	●								
科目名	栄養学				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価 の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	栄養は生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。人は適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。摂食嚥下障害を担当する専門職の一つとして、言語聴覚士には栄養とその障害に関する理解と、結果としての飢餓やフレイル、サルコペニアの理解が求められる。本講義では、栄養に関する基礎事項と栄養障害について学修し、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法を実施する上で必要な栄養管理について学ぶ。									
到達目標	栄養、栄養障害の基礎、栄養障害がきたす対象者への影響を理解し、リハビリテーションへ繋がられる。									
学修者への期待等	栄養チームと協働する際、他職種とのディスカッションができるよう、対象者の栄養状態・対策についてセラピストの立場から支援できるように知識を身につけてほしい。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	STにおける栄養知識の重要性、栄養と栄養素（適宜グループワークを行う）					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：再読し説明できるようになること			30	30
2	エネルギー産生の仕組み（適宜グループワークを行う）					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：再読し説明できるようになること			30	30
3	糖質の栄養（適宜グループワークを行う）					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：再読し説明できるようになること			30	30
4	脂質の栄養（適宜グループワークを行う）					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：再読し説明できるようになること			30	30
5	タンパク質・アミノ酸の栄養（適宜グループワークを行う）					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：再読し説明できるようになること			30	30
6	ビタミン・ミネラル（適宜グループワークを行う）					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：再読し説明できるようになること			30	30
7	リハビリテーションと栄養（適宜ディスカッションを行う）					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：再読し説明できるようになること			30	30
8	リハビリテーション栄養ケアプロセス（適宜ディスカッションを行う）					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：再読し説明できるようになること			30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）									
教科書	特に指定しない。UNIPAにて資料を配布する。									
参考文献	なし									
備考	課題については、その都度授業内でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として30年以上の臨床経験をもち、NSTチームにも関わってきた。栄養士との協働を通し栄養を理解しトレーニングを行う重要性を意識したセラピーを行っている。その経験を活かし、言語聴覚療法における栄養学の位置づけを講義する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-06				
	●	●								
科目名	臨床神経学				単位認定者	平山 和美		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本講義では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患（一部損傷含む）を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知り、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。講義は、脳血管障害、変性疾患、臨床神経学各論、遺伝性疾患に大別して医用画像の評価を含めて学んでいく。									
到達目標	重要な神経症候や、疾患の特徴・病態について説明できる。									
学修者への期待等	教科書、配布資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	神経解剖の総復習（神経系の部品、脳の発生と区分、脳幹の3つの縦の系、各部位固有の機能）					事前学修：教科書2-67ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
2	神経解剖の総復習（交叉の問題、脊髄、血管系、抑制の消失と下位中枢神経機能の発現）					事前学修：教科書2-67ページに再度、目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
3	症候学 病歴・意識・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア					事前学修：教科書548-559ページ、182-189ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
4	症候学 脳神経					事前学修：教科書242-279ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
5	症候学 運動					事前学修：教科書190-217ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
6	症候学 体性感覚・自律神経系					事前学修：教科書218-241ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
7	脳血管障害					事前学修：教科書56-147ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
8	脳腫瘍・頭部外傷					事前学修：教科書496-547ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
9	神経変性疾患（筋委縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症）					事前学修：教科書330-371ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
10	神経変性疾患（Parkinson病など）					事前学修：教科書330-371ページに再度、目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0
11	認知症（脳血管性認知症・Alzheimer病など）					事前学修：教科書424-443ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない			30	0

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
12	認知症（Lewy小体型認知症・前頭側頭型認知症など）	事前学修：教科書424-443ページに再度、目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない	30	0
13	末梢神経・筋・神経筋接合部の疾患	事前学修：教科書294-317ページ、および372-398ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない	30	0
14	中枢性脱髄疾患・感染性疾患	事前学修：教科書318-329ページ、および402-423ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない	30	0
15	代謝性疾患、総括	事前学修：教科書398-401ページ、486-495ページ、および402-423ページに目を通しておくこと 事後学修：特に指定しない	30	0
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『病気がみえる 脳・神経 vol.7』医療情報科学研究所 著 メディックメディア			
参考文献	なし			
備考	なし			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-08				
	●									
科目名	精神医学				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数			
授業の概要	精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、領域が広い。脳血管障害の患者の20%以上がうつ状態に陥ることが分かってきた。リハビリテーションの対象として、さらには現代の疾病構造の変化の側面からも、その理解は重要である。本講義では、精神医学の概念や精神症候学、精神障害の分類、治療等について学び、利用者の理解に必要な基本的事項及び言語聴覚療法の臨床で必要とされる精神医学の知識を身につける。									
到達目標	医療専門職の一員であることを意識し、精神医学の基礎知識が理解できるようになる。また、精神医学に対する関心を深め、精神疾患を持つ方々について考え、理解する姿勢を身につけられるようになる。									
学修者への期待等	1. 精神医学に対して苦手意識を持たず、授業に臨んで欲しい。2. シラバスに基づき、事前に教科書の次回授業範囲を一読しておくことを希望する。3. 国家試験および定期試験に関連する事項や近年の精神医学の動向については授業中に繰り返し述べるので、この点を集中して把握し、理解すること。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	精神医学とは グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
2	精神機能の障害と精神症状 グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
3	精神障害の診断と評価 グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
4	脳器質性精神障害 グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
5	症状性精神障害 グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
6	精神作用物質による精神および行動の障害 グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
7	てんかん グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
8	統合失調症およびその関連障害 グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
9	気分（感情）障害 グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30
10	神経症性障害 グループワークを含む					事前学修：事前配布の資料に目を通して おくこと 事後学修：資料を再読し説明できるよう にすること			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	生理的障害および身体的要因に関連した障害 グループワークを含む	事前学修：事前配布の資料に目を通しておくこと 事後学修：資料を再読し説明できるようにすること	30	30
12	成人のパーソナリティ・行動の障害 グループワークを含む	事前学修：事前配布の資料に目を通しておくこと 事後学修：資料を再読し説明できるようにすること	30	30
13	精神遅滞 [知的障害] グループワークを含む	事前学修：事前配布の資料に目を通しておくこと 事後学修：資料を再読し説明できるようにすること	30	30
14	心理的発達の障害 グループワークを含む	事前学修：事前配布の資料に目を通しておくこと 事後学修：資料を再読し説明できるようにすること	30	30
15	精神障害の治療とリハビリテーション グループワークを含む	事前学修：事前配布の資料に目を通しておくこと 事後学修：資料を再読し説明できるようにすること	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	特になし 講義時に配布			
参考文献	特になし 講義時に資料配付			
備考	課題については、次回講義にフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
言語聴覚士として30年以上, 精神障害・精神遅滞・てんかん等を含む対象者にリハビリテーションを行った	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-09					
	●	●									
科目名	リハビリテーション医学				単位 認定者	水尻 強志		評価の方法	試験(筆記)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位				
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	リハビリテーション医学の歴史と定義、全人的復権に関する理念を学修し、各論では脳損傷（脳血管障害、頭部外傷）、神経筋疾患、脊椎損傷、肩関節疾患などの各種疾患のリハビリテーションについて学ぶ。さらには痙縮、疼痛、褥瘡などの合併症の管理方法やリハビリテーション栄養、神経学的評価、リハビリテーション科で行う生理的検査（神経伝送検査、筋電図など）について学び、リハビリテーション専門職として、また言語聴覚士として必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身につける。さらには救急救命の基礎的知識について学び安全なリハビリテーションの実施につなげる。										
到達目標	1. 第一線医療機関で必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身に付ける 2. 嚥下障害の診断と治療を理解する										
学修者への期待等	リハビリテーション科専門医が、日常診療で重要だと考えている内容について講義をする。せっかくの機会であり、遠慮せずに質問をして欲しい。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	リハ医学総論1 高齢社会と高齢者医療				事前学修：テキスト第1章 I 高齢社会と高齢者医療、第5章 関係する諸制度を読むこと 事後学修：配布資料で復習		30	30	水尻 強志		
2	リハ医学総論2 リハビリテーション医学の歴史と定義 生活機能と障害				事前学修：テキスト第1章 II リハビリテーション医学総論を読むこと 事後学修：配布資料で復習		30	30	水尻 強志		
3	リハ医学総論3 廃用症候群とフレイル、運動学習				事前学修：テキスト第1章 II リハビリテーション医学総論を読むこと 事後学修：配布資料で復習		30	30	水尻 強志		
4	各種疾患のリハビリテーション1 中枢神経障害の評価(脳血管障害など)				事前学修：テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方を読むこと 事後学修：配布資料で復習		30	30	水尻 強志		
5	リハ医学総論4 超高齢社会における医療倫理の諸課題－終末期医療、リスクマネジメントと身体抑制				事前学修：テキスト第4章 脳卒中医療に関係する倫理的問題、第3章 脳卒中によくある合併症とその対策を読むこと 事後学修：配布資料で復習		30	30	水尻 強志		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	各種疾患のリハビリテーション2 神経筋疾患、末梢神経障害、小児疾患、脊髄障害、骨関節疾患、義肢・装具支給制度	事前学修：特に指定しない 事後学修：配布資料で復習	0	30	水尻 強志
7	嚥下障害（評価・検査について）	事前学修：特に指定しない 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。	0	30	金成 建太郎
8	嚥下障害（病態に応じたリハビリテーション）	事前学修：特に指定しない 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。	0	30	金成 建太郎
9	嚥下障害（症例提示）	事前学修：特に指定しない 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。	0	30	金成 建太郎
10	各種疾患のリハビリテーション4 切断、義肢・装具	事前学修：特に指定しない 事後学修：配布資料で復習。	0	30	江原 昌宗
11	各種疾患のリハビリテーション5 救命救急	事前学修：特に指定しない 事後学修：配布資料で復習。	0	30	江原 昌宗
12	合併症管理（痙縮、疼痛、褥瘡）	事前学修：特に指定しない 事後学修：当日配布のスライド資料で復習すること	0	30	阿部 理奈
13	ICF（国際生活機能分類）による全人的評価・症例を用いたグループワーク	事前学修：教科書の中でICF（国際生活機能分類）について記した部分を読み、用語を理解する。 事後学修：配布資料で復習すること。	30	30	藤原 大
14	リハビリテーションで行う検査（頭部画像、血液、神経生理学検査など）	事前学修：特に指定しない 事後学修：配布資料で復習すること。	0	30	藤原 大
15	リハビリテーションにおける栄養管理	事前学修：特に指定しない 事後学修：配布資料で復習すること。	0	30	藤原 大
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『脳卒中リハビリテーション』第3版 水尻強志・富山陽介（編） 医歯薬出版				
参考文献	なし				
備考	講義は対面授業で行う予定。ただし、状況によってはオンライン授業に変更することもあり。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

日本リハビリテーション医学会専門医・指導医として、臨床に30年以上携わっている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-10				
	●	●								
科目名	耳鼻咽喉科学				単位認定者	松谷 幸子		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	15 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題等	5 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	耳鼻咽喉科学領域の疾病について理解を深める。耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・気管・食道などの疾病について、その病理や検査・治療法を学ぶ。さらには音、音声の受容器である聴覚前庭系、共鳴腔としての鼻・副鼻腔、口腔、音響エネルギーの導出源としての呼吸系、気管・食道の構造・機能、及び病と検査・病理について学修し、言語聴覚士として必要な耳鼻咽喉科学の基礎を身につける。									
到達目標	1) 耳鼻咽喉科学領域の基本的解剖名は漢字で書ける。2) 代表的な疾患の病態と検査法、治療法を覚える									
学修者への期待等	耳鼻咽喉科領域の構造と働きを学ぶことは患者各々の病態を理解するための基礎です。また検査や治療方法を学ぶことにより患者へのアプローチ方法を考える基礎力を培います。専門用語はあいまいにせず確認し、不明点は積極的に質問する態度を身につけましょう									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	耳科学(1) 聴覚系の解剖と生理 外耳と中耳				事前学修：言語聴覚士テキストp90-91 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
2	耳科学(2) 聴覚系の病態 外耳と中耳の疾患				事前学修：言語聴覚士テキストp94-96 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
3	耳科学(3) 聴覚系の解剖と生理 内耳・後迷路				事前学修：言語聴覚士テキストp91-93 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
4	耳科学(4) 聴覚系の病態 内耳・後迷路の疾患				事前学修：言語聴覚士テキストp96 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
5	耳科学(5) 前庭系の解剖と生理 前庭機能、眩暈				事前学修：言語聴覚士テキストp91, 97-98 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
6	耳科学(6) 前庭系の病態 内耳・後迷路の疾患				事前学修：言語聴覚士テキストp98 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
7	鼻科学(1) 鼻系の解剖と生理				事前学修：言語聴覚士テキストp99 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
8	鼻科学(2) 鼻系の病態 鼻・副鼻腔の疾患				事前学修：言語聴覚士テキストp99-101 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
9	口腔・咽頭科学(1) 口腔・咽頭系の解剖・生理				事前学修：言語聴覚士テキストp101-102 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
10	口腔・咽頭科学(2) 口腔・咽頭系の病態				事前学修：言語聴覚士テキストp102-105 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
11	喉頭科学(1) 喉頭の解剖と生理				事前学修：言語聴覚士テキストp105-109 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
12	喉頭科学(2) 呼吸発声系の病態 喉頭の疾患				事前学修：言語聴覚士テキストp109-111 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
13	気管・食道科学(1) 気管・食道の解剖と生理				事前学修：言語聴覚士テキストp111-112 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
14	気管・食道科学(2) 気管・食道の疾患、嚥下障害				事前学修：言語聴覚士テキストp112-113 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30
15	気管切開、耳鼻咽喉科のまとめ				事前学修：言語聴覚士テキストp382 事後学修：参考文献でプリントの内容の確認				10	30

アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）
教科書	言語聴覚士テキスト第4版 大森孝一他 医歯薬出版
参考文献	『言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科 第2版』編集 鳥山稔、田内光 医学書院
備考	なし

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
医師として臨床経験40年以上あり、その経験を活かし、耳鼻咽喉科領域と言語聴覚療法の関連について、理解が深められるよう講義する。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-11					
	●										

科目名	形成外科学					単位認定者	佐藤 顕光		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	受講態度		20 %	
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要	形成外科は、先天的あるいは後天的な体表の変形を手術的に正常な状態に復して、形態と機能、並びに精神的にもQOLを高め、社会復帰に益することを目標としている。本講義では、唇裂口蓋裂、頭頸部がん、開口障害をきたしうる外傷や熱傷、骨折、疾患による顎顔面変形など、治療対象疾患についての診断、治療原理や術式について学んでいく。さらには、言語聴覚士による手術前後のリハビリテーションについて、構音障害と摂食嚥下障害の評価と訓練を学修する。										
到達目標	頭頸部がんの治療における適切な再建手術について説明できる、口唇裂・口蓋裂について起こりえる障害を説明でき、成長期までに必要な手術について順次説明することが出来る。口蓋裂を呈する先天性疾患を挙げることが出来る。開口障害を呈する頭部顔面外傷を挙げることが出来る。										
学修者への期待等	教科書の記載のみでは理解しづらい形成外科の疾患に関して多くの臨床写真を呈示して理解を深めてもらいたいです。資料では写真は十分に示せません。授業中に集中して勉強しましょう。										

回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	形成外科総論 形成外科とは、創傷治癒と再建外科の基礎知識					事前学修：特にありません。 事後学修：講義資料（国試の過去問など）を復習してください。		0	20	後藤 孝浩
2	頭頸部癌総論 （癌治療の基礎知識、頭頸部再建の基本）					事前学修：特にありません。 事後学修：講義資料（国試の過去問など）を復習してください。		0	20	後藤 孝浩
3	頭頸部再建① （口腔・中咽頭の再建）					事前学修：特にありません。 事後学修：講義資料（国試の過去問など）を復習してください。		0	20	後藤 孝浩
4	頭頸部再建② （下咽頭その他の再建）					事前学修：特にありません。 事後学修：講義資料（国試の過去問など）を復習してください。		0	20	後藤 孝浩
5	唇裂口蓋裂総論① 唇顎口蓋裂総論と疫学、発生学について					事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。		10	30	佐藤 顕光
6	唇裂口蓋裂総論② 学童期までに行われる治療について（唇裂手術、口蓋裂手術、顎裂部骨移植）					事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。		10	30	佐藤 顕光
7	唇裂口蓋裂総論③ 学童期以降に行われる治療について（鼻咽腔閉鎖不全、唇裂鼻修正手術、顎矯正手術）					事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。		10	30	佐藤 顕光

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	唇裂口蓋裂総論③ 学童期以降に行われる治療について（鼻咽腔閉鎖不全、唇裂鼻修正手術、顎矯正手術）	事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。	10	30	佐藤 顕光
9	唇裂口蓋裂総論④ 宮城県こども病院での口唇口蓋裂治療	事前学修：事前に配布される資料に目を通しておいください。 事後学修：資料を復習してください。	20	10	真田 武彦
10	唇裂口蓋裂総論⑤ 社会的問題、合併症の問題、親の心理的問題などについて	事前学修：事前に配布される資料に目を通しておいください。 事後学修：資料を復習してください。	20	10	真田 武彦
11	口蓋裂を有する頭蓋顎顔面異常について 頭蓋顎顔面異常をきたす先天異常とその治療について	事前学修：事前に配布される資料に目を通しておいください。 事後学修：資料を復習してください。	20	10	真田 武彦
12	頭蓋顎顔面外科・後天的顎顔面変形 頭蓋顎顔面外科についてと、開口障害をきたしうる外傷や熱傷について	事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。	10	30	佐藤 顕光
13	口腔・顎・顔面の先天異常，発育異常 ・口蓋裂に伴う顎発達異常と歯の異常について	事前学修：特にありません 事後学修：講義の復習	0	30	中山 孝子
14	咬合異常、顎変形症について	事前学修：特にありません 事後学修：講義の復習	0	30	中山 孝子
15	人工材料による機能回復について	事前学修：特にありません 事後学修：講義の復習	0	30	中山 孝子
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版 器質性構音障害 道健一・今井智子・高橋浩二・山下夕香里 編著 医歯薬出版				
参考文献	『標準形成外科学 第6版』平林慎一、鈴木茂彦（著）医学書院 『嚥下障害の臨床ーリハビリテーションの考え方と実際』小椋脩（著）医歯薬出版 『口唇裂・口蓋裂治療の手引』昭和大学（著）金原出版				
備考	なし				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として、臨床に10年以上携わっている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-WOM-01				
	●	●		●						
科目名	臨床心理学				単位 認定者	真 覚 健		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	臨床心理学とは、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態、あるいは病的状態について支援を行うための学問である。本講義では、臨床心理学の基礎として臨床心理学の概略、心理的問題の分類、心理療法、カウンセリング、心理検査などについて学び、理解を深める。言語聴覚士として利用者とのかかわる中で、利用者の心理を理解し、リハビリテーションの一環として、心理的適応援助につながる知識を身につける。									
到達目標	代表的な心理療法やカウンセリングについて、手続きや背景となる考え方について説明できるようになる。 心理検査法について説明できるようになる。 代表的な心理的問題について、症状の特徴や原因、対応について説明できるようになる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 理解できなかったこと、疑問に思ったことがあれば授業中に質問すること。 授業内容について、復習を行い、理解できなかった点を明らかにして次回に質問すること。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	臨床心理学とは（臨床心理学の対象、関連領域） ペアディスカッションを行う					事前学修：資料を読んで心の健康について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
2	ストレス（ストレスとは、ストレスコーピング）					事前学修：資料を読んでストレスについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
3	心理アセスメント					事前学修：資料を読んで心理アセスメントについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
4	心理検査法Ⅰ（パーソナリティの測定法、質問紙法、投影法、作業検査法）					事前学修：資料を読んでパーソナリティ検査について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
5	心理検査法Ⅱ（心理検査の種類、代表的な心理検査法）					事前学修：資料を読んで心理検査について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
6	カウンセリングの基礎Ⅰ（カウンセリングの対象、カウンセリングの考え方） ペアディスカッションを行う					事前学修：資料を読んでカウンセリングについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
7	カウンセリングの基礎Ⅱ（指示的カウンセリング、来談者中心カウンセリング）					事前学修：資料を読んで指示的カウンセリング、来談者中心カウンセリングについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30
8	交流分析の基礎（自我状態、構造分析、交流パターン分析）					事前学修：資料を読んで交流分析について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
9	行動療法（学習理論と臨床、系統的脱感作、オペラント条件づけ法、モデリング法）	事前学修：資料を読んで行動療法について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
10	認知行動療法（論理療法、認知療法、認知行動療法）	事前学修：資料を読んで認知行動療法の考え方について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
11	認知行動療法（スキーマ、自動思考、認知的技法、行動的技法）	事前学修：資料を読んで認知行動療法の技法について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
12	その他の心理療法（精神分析、遊戯療法、ブリーフセラピー、家族療法）	事前学修：資料を読んで心理療法について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
13	発達障害Ⅰ（ADHD、学習障害）	事前学修：資料を読んでADHD、学習障害について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
14	発達障害Ⅱ（自閉症スペクトラム障害ASD）	事前学修：資料を読んでASDについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
15	その他の心理的問題（強迫神経症、対人恐怖症、摂食障害）	事前学修：資料を読んで神経症について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ペアディスカッション）			
教科書	指定なし。資料は事前にUNIPA上にアップします。			
参考文献	なし			
備考	毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートへの回答を求め、次回の授業でフィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-WOM-03				
	●	●		●						
科目名	生涯発達心理学				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	生涯発達心理学とは、心理学の1分野であり、生涯を通じて成長・発達し続ける人間の、誕生から死までの変化の特徴や、その過程の理解を目指す。本講義では、各発達段階(乳児期・幼児期・思春期・青年期・成人初期・中年期・老年期)における心理特性について知る。生涯発達という視点を重視し、多様な年齢層にある対象者を理解する一助とする。									
到達目標	人間は、一生を通じて成長発達し続ける。誕生から死までの人生を変化の特徴や、その過程を理解する。									
学修者への 期待等	それぞれの過程の発達と課題を説明することができるようになってほしい。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	生涯発達心理学とは 適宜グループワークを実施する。					事前学修：事前配布する資料に目を通すこと 事後学修：再読して説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
2	乳児期 ① (胎児・新生児・乳児の能力、乳児の自己感の発達) 適宜グループワークを実施する。					事前学修：事前配布する資料に目を通すこと 事後学修：再読して説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
3	乳児期 ② (アタッチメントと母子関係の発達、基本的信頼感、乳児期の発達のつまずきとケア) 適宜グループワークを実施する。					事前学修：事前配布する資料に目を通すこと 事後学修：再読して説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
4	幼児期 ①(身体能力・身体機能の発達 母親からの分離 一個体化 適宜グループワークを実施する。					事前学修：事前配布する資料に目を通すこと 事後学修：再読して説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
5	幼児期 ②(対人関係の発達、幼児の遊びの意味、幼児期の発達の課題) 適宜グループワークを実施する。					事前学修：事前配布する資料に目を通すこと 事後学修：再読して説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
6	児童期 ①(社会性、学校、発達のつまずき) 適宜グループワークを実施する。					事前学修：事前配布する資料に目を通すこと 事後学修：再読して説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
7	児童期 ②(読み書きの能力と計算、足場かけ) 適宜グループワークを実施する。					事前学修：事前配布する資料に目を通すこと 事後学修：再読して説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
8	思春期 (心と身体の変化、親子関係、友人関係) 適宜グループワークを実施する。					事前学修：思春期の課題について調べる 事後学修：授業内容を復習		30	30	中川 大介
9	青年期 ①(アイデンティティの模索と確立、時間的展望)					事前学修：青年期の課題について調べる 事後学修：授業内容を復習		30	30	中川 大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	青年期 ②（社会に出るための模索、発達のつまずきとケア）	事前学修：前回講義資料を確認しておくこと 事後学修：授業内容を復習	30	30	中川 大介
11	成人初期（仕事、結婚、親になる、親になれない親）	事前学修：成人初期の課題を調べる 事後学修：授業内容を復習	30	30	中川 大介
12	中年期（クライシス、親子関係の変化、女性のライフサイクル）	事前学修：中年期の課題を調べる 事後学修：授業内容を復習	30	30	中川 大介
13	老年期 ①（心と身体の変化、生きがいと幸福感、死をどう受け止めるか）	事前学修：老年期の課題を調べる 事後学修：授業内容を復習	30	30	中川 大介
14	老年期 ②（家族・社会関係、認知症、施設入所高齢者の心理とケア、ライフレビュー）	事前学修：前回資料を確認しておくこと 事後学修：授業内容を復習	30	30	中川 大介
15	まとめ（発達可塑性、パーソナリティーの変化、ライフサイクルと家族）	事前学修：該当箇所のキーワードを調べる 事後学修：授業内容を復習	30	30	中川 大介
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ペアワーク、グループワーク）				
教科書	『言語聴覚士国家試験必修ポイント2026年ST基礎科目』医歯薬出版				
参考文献	『言語聴覚士のための心理学(第2版)』山田弘幸(編) 医歯薬出版				
備考	国家試験過去問題を常から予習・復習しておくことをお勧めします。授業内の課題は確認後フィードバックする				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医療機関において15年以上の臨床経験を有す。

学修成果						科目ナンバリング				
1基礎力2実践力3人間関係力4生涯学習力5地域理解力						ST-1-WOM-04				
●●										
科目名		聴覚心理学			単位認定者	渡邊 弘人 矢入 聡		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要		音を認識するための聴覚系の処理について、事例を通して理解を深める。音の性質には、物理的側面と心理的側面がある。音の大きさ、高さ、音色は音の3要素と呼ばれ、音を聞くことは、その3要素について心で感じる、思うことであり、心理尺度となる。本講義では、特に聴覚的に感じる大きさ・強さ・高さ（フォン/son・mel）について理解を深め心理学の視点から聴覚についての理解を深めていく。								
到達目標		事例を通して、人間が感じる音の特性にどのようなものがあり、物理的な特性とどう関係するかを理解する。								
学修者への期待等		1年次の科目を含む他の聴覚系授業とのつながりが強い科目です。適宜事例を示しながら授業を進めていきますので、他で学んだ内容の理解を深めたり、ここで学んだ内容を他の科目に応用したりできるよう、興味を持って取り組んでください。								
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	知覚表象形成と音の強さ 聴覚における知覚表象形成、音の強さの表現					事前学修：特に指定しない 事後学修：授業の内容を踏まえdBの計算ができるようにすること		0	60	矢入 聡
2	音の大きさの知覚 音の大きさの表現、音の大きさに影響する要因					事前学修：特に指定しない 事後学修：音の大きさの表現を整理しておくこと		0	60	矢入 聡
3	音の高さの知覚① 音の周波数と高さの対応、音の高さ知覚の理論、音の高さを表現する尺度					事前学修：特に指定しない 事後学修：場所説と時間説についてそれぞれ整理しておくこと		0	60	矢入 聡
4	音の高さの知覚② 音の高さに影響する要因、音楽的高さ、音律					事前学修：特に指定しない 事後学修：音律について授業で紹介した以外のものを調べてみること		0	60	矢入 聡
5	マスキングと聴覚フィルタ マスキングの種類と特徴、臨界帯域と聴覚フィルタ					事前学修：特に指定しない 事後学修：マスキングの種類について整理しておくこと		0	60	矢入 聡
6	音色と楽器音 音色の定義、協和度、楽器音の特徴					事前学修：身近な楽器を1つあげ、どのようにして音が出るか考えてみる こと 事後学修：特に指定しない		60	0	矢入 聡
7	音の定位 音源方向の知覚、音の広がり感、両耳聴の効果					事前学修：日常の音やその到来方向を意識して1日を過ごしてみる こと 事後学修：特に指定しない		60	0	矢入 聡
8	聴覚心理のメカニズム 音の選択的聴取、視聴覚相互作用					事前学修：特に指定しない 事後学修：取り上げた種々の視聴覚相互作用について整理しておく こと		0	60	矢入 聡
9	聴覚心理と言語聴覚療法の関係 (1) 聴覚解剖と生理 グループワークを適宜実施する。					事前学修：テキストP90～93を読む こと。 事後学修：資料・テキストを確認する こと。		30	60	渡邊 弘人

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	聴覚心理と言語聴覚療法の関係 (2) 聴覚検査の構成 グループワークを適宜実施する。	事前学修：テキストP324～337を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。	30	60	渡邊 弘人
11	聴覚心理と言語聴覚療法の関係 (3) 聴覚検査におけるSPL、HL、SLの関係 グループワークを適宜実施する。	事前学修：テキストP324～337を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。	30	60	渡邊 弘人
12	聴覚心理と言語聴覚療法の関係 (4) 聴覚検査における音の大きさの知覚 グループワーク、ディスカッションを適宜実施する。	事前学修：テキストP322～327を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。	30	60	渡邊 弘人
13	聴覚心理と言語聴覚療法の関係 (5) 聴覚検査における音の高さの知覚 グループワークを適宜実施する。	事前学修：テキストP322～327を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。	30	60	渡邊 弘人
14	聴覚心理領域と言語聴覚療法の関係 (6) 聴覚補償機器との関係 グループワークを適宜実施する。	事前学修：テキストP338～353を読むこと。 事後学修：資料・テキストを確認すること。	30	60	渡邊 弘人
15	聴覚心理領域と言語聴覚療法の関係 (7) まとめ グループワークを適宜実施する。	事前学修：過去問集の該当領域の問題を読んで解くこと。 事後学修：資料・テキスト・過去問集を確認すること。	30	60	渡邊 弘人
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）				
教科書	『言語聴覚士テキスト』最新版（略：テキスト） 大森孝一 医歯薬出版 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定：渡邊担当講義で使用				
参考文献	『音響学入門（音響入門シリーズ）』鈴木陽一ほか コロナ社				
備考	第1回～第8回講義は遠隔（オンデマンド）で実施する。 授業内課題は採点后に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床経験15年以上の言語聴覚士が講義を担当する。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚療法領域で聴覚心理について理解を深め、臨床現場や将来の研究活動に繋げられるよう、実践的な講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-WOM-06				
	●	●								
科目名	心理測定法				単位認定者	真覚 健 中川 渡邊 弘人 大介		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	心理測定法とは、心理現象を把握するために用いる統計的な研究手法である。本講義では、心理測定の基礎について、尺度構成法、さまざまな心理測定法、測定値分布の要約、変数間の関係とその要約、検査の妥当性と信頼性、多変量解析、研究デザインと統計的検定を学修し、心理測定法に関する知識を身につける。講義後半には言語聴覚領域との関連の深い事例について、測定の実践を通して理解を深める。									
到達目標	心理学において用いられる主な測定法とデータ解析法の特徴を知る									
学修者への期待等	質疑応答の機会を設けますので、わからないことがありましたら遠慮なく質問してください。 真覚担当分については資料をあらかじめUNIPA上にアップするので、事前に読んで学修しておいてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	心理測定の基礎 ペアディスカッションを行う				事前学修：資料を読んでおくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること		30	30	真覚 健	
2	測定の水準				事前学修：資料を読んでおくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること		30	30	真覚 健	
3	誤差				事前学修：資料を読んでおくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること		30	30	真覚 健	
4	精神物理学的測定法 ペアディスカッションを行う				事前学修：資料を読んでおくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること		30	30	真覚 健	
5	尺度構成法				事前学修：資料を読んでおくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること		30	30	真覚 健	
6	検査の妥当性と信頼性				事前学修：資料を読んでおくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること		30	30	真覚 健	
7	質問紙調査				事前学修：資料を読んでおくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること		30	30	真覚 健	
8	多変量解析と統計的検定				事前学修：資料を読んでおくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること		30	30	真覚 健	
9	言語聴覚療法における研究 (1) 心理統計と言語聴覚療法 グループワーク				事前学修：テキストにある関連する問題を読んでおくこと 事後学修：提示資料を確認すること		30	60	渡邊 弘人	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	言語聴覚療法における研究 (2) データ収集と統計の実際	事前学修：テキストにある関連する問題を読んでおくこと 事後学修：提示資料を確認すること	30	60	渡邊 弘人
11	言語聴覚療法における研究 (3) 研究に使用されるデータとは グループワーク	事前学修：テキストにある関連する問題を読んでおくこと 事後学修：提示資料を確認すること	30	60	渡邊 弘人
12	聴覚領域検査における研究 (4) 研究におけるデータをまとめる ディスカッション	事前学修：テキストにある関連する問題を読んでおくこと 事後学修：提示資料を確認すること	30	60	渡邊 弘人
13	言語聴覚療法研究法 精神物理学的測定法の理解 (過去問題の実施・適宜グループワーク)	事前学修：該当領域内容を参考文献などで調べておくこと 事後学修：授業で行った内容を復習しておくこと	30	30	中川 大介
14	言語聴覚療法研究法 尺度構成法の各実験手法の理解 (過去問題の実施・適宜グループワーク)	事前学修：該当領域内容を参考文献などで調べておくこと 事後学修：授業で行った内容を復習しておくこと	30	30	中川 大介
15	言語聴覚療法研究法 データ解析の理解 (過去問題の実施・適宜グループワーク)	事前学修：該当領域内容を参考文献などで調べておくこと 事後学修：授業で行った内容を復習しておくこと	30	30	中川 大介
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ペアディスカッション、グループワーク、ディスカッション）				
教科書	『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定				
参考文献	参考書：『心理測定法への招待：測定からみた心理学入門』市川伸一編著 サイエンス社				
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
臨床経験15年以上の言語聴覚士が講義を担当する。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚療法領域で使用される心理測定について理解を深め、臨床現場や将来の研究活動に繋げられるよう、実践的な講義を行う。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-LAC-08				
	●	●		●						
科目名	拡大・代替コミュニケーション				単位 認定者	寺本 淳志		評価 の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	拡大・代替コミュニケーションとは、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことなどのコミュニケーションに障害のある人が、言語・非言語問わない残存能力とテクノロジーの活用によって、自分の意思を相手に伝える技法のことを指し、大きく分けてノンテック、ローテック、ハイテックの3つがある。本講義では、運動系、高次脳機能系、さらには小児と成人を大別し、言語聴覚士として、適応の判断と提案、活用の支援に至るまでの能力を身につける。									
到達目標	AACの基本的な考え方を理解し、その適用方法について実践事例を通して理解を深める。パソコン教材等の作成やローテック、ハイテックなツールの実演を通して、具体的な支援の在り方について知る。									
学修者への期待等	事前に各回のトピックに関する参考文献などを読んで学習しておくこと。 授業後は配付資料やノートにより講義で得た知識の確認をすること。また、授業で示された補足資料等に目を通し学びを深めること。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	コミュニケーションの困難とAACの役割について					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
2	AACの定義と変遷					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
3	AACの対象及びAACシステムの概要					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
4	AACシステムの構成要素 1：形式					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
5	AACシステムの構成要素 2：シンボル					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
6	AACシステムの構成要素 3：選択手法					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
7	AACシステムの構成要素 4：方略					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
8	ノンテック/ローテック/ハイテックコミュニケーション：技法やツールの紹介					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
9	各種コミュニケーション方法の適用事例の紹介					事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること			0	60
10	ノンテック/ローテック・コミュニケーションに関する演習					事前学修：演習に向けて配付資料や補足資料等から介入のイメージを掴んで授業に臨むこと			60	0
11	ハイテック・コミュニケーションに関する演習とコミュニケーションソフト作成体験					事前学修：演習に向けて配付資料や補足資料等から介入のイメージを掴んで授業に臨むこと 配付資料やパワーポイントの基本的な使用方法を確認しておくこと			60	0
12	コミュニケーションソフト作成体験					事前学修：自作教材のアイデアを検討しておくこと 事後学修：解説を踏まえてソフト作成作業を進めること			30	60
13	コミュニケーションソフトの発表とディスカッション					事前学修：発表に備えてソフトを作成し、他者に伝える準備をしておくこと 事後学修：修正や改善が必要な個所について作業を行うこと			60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	各種コミュニケーション方法の適用事例の紹介	事後学修：配付資料、補足資料等で復習すること	0	60
15	症例検討（グループワーク）	事前学修：配付資料を基に基礎知識を基に患者像を描けるように学習すること	60	0
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ソフト作成、発表、ペアワーク、コミュニケーションの実演）			
教科書	なし			
参考文献	『言語聴覚療法シリーズ16 改訂 AAC』 久保健彦 編著（2012） 建帛社 『言語聴覚士のためのAAC入門』 知念洋美 編著（2018） 協同医書出版社			
備考	第11回からのコミュニケーションソフト作成体験では「PowerPoint(microsoft社)」を使用してソフトを作成するため、事前に準備をしておくこと。使用できる環境(PC)が整わない場合事前に相談すること。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-LAC-09				
	●	●		●						
科目名	視覚言語論				単位認定者	山本 はづき		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	通常、意思伝達に使われる「話す」「聞く」に依る言語体系を音声言語と呼ぶが、それに並ぶ言語体系として視覚による伝達がある。視覚言語には、文字、動作・表情語、点字、結縄文字、手信号、手旗信号、合図、情報内容が直感されるよう工夫した図形や絵、アイコン、スタンプなど、豊かな様式が広がっている。それらの手段は主たる手段としても補完的にも用いられる。多くの手段を知り活用することを通して、より柔軟な発想をもって言語のリハビリテーションに携わる能力を醸成する。									
到達目標	視覚的な手がかりが必要な方に対し、コミュニケーション方法を習得していただきます。									
学修者への期待等	多様な困難を抱えながら生きる方について、その方の生活をイメージするきっかけになれば幸いです。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	視覚的な手がかりが必要になる方とは					事前学修：シラバスのご確認ください 事後学修：特に指定しない			5	0
2	聴覚障害					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
3	筆談① 種類と方法					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
4	筆談② 要約筆記、ノートテイク					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
5	読話					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
6	読解					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
7	ジェスチャー、イラスト					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
8	マカトン					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	なし									
参考文献	なし									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 オンデマンドのためリアルタイムでの質疑応答ができません。 座学内容については12回目に質疑応答の時間を設けます。いただいたご質問はそちらで回答します。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

人工内耳装用前後の聴覚障害児・者へリハビリテーションを行っていました。現場で行っていた重度聴覚障害児・者との関わりについてお伝えできればと思います。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						ST-1-SER-01				
	●	●		●	●					
科目名	社会保障・教育とリハビリテーション				単位 認定者	熊沢 由美		評価 の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	個人の責任や努力だけでは対応できないリスクに対して、相互に連帯して支え合い、それでもなお困窮する場合には必要な生活保障を行うのが社会保障制度の役割であり、医療・福祉・教育の現場で従事する言語聴覚士は、その基本を理解しておく必要がある。本講義では、社会保障制度の具体的な側面である「社会保険」、「社会福祉」、「公的扶助」、「保健医療・公衆衛生」さらには教育とリハビリテーションについて制度と法律も含めて学修する。									
到達目標	国家試験対策として、社会保障の基礎的な知識を身につけること。 自分と社会保障との関わりについて理解を深めること。									
学修者への 期待等	この授業は、社会保障の制度について学ぶことを中心にした授業です。国家試験に向けて授業内容をよく復習するとともに、社会保障についての報道に関心を持つようにしてください。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	社会保障とは何か					事前学修：社会保障のイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30
2	社会保障の方法と財源構成					事前学修：国の予算についてのニュースを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30
3	社会保障の歴史（１）欧米①救貧法など					事前学修：近代以降の世界史を大まかに確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30
4	社会保障の歴史（２）欧米②社会保障法など					事前学修：近代以降の世界史を大まかに確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30
5	社会保障の歴史（２）日本					事前学修：近代以降の日本史を大まかに確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30
6	社会保険（１）年金保険①制度体系など					事前学修：自分の年金がどのようなになっているのか確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30
7	社会保険（２）年金保険②給付など					事前学修：年金についてのイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30
8	社会保険（３）医療保険					事前学修：自分の保険証がどのようなになっているのか確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30
9	社会保険（４）介護保険					事前学修：介護保険についてのイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
10	社会保険（５）雇用保険	事前学修：雇用保険についてのイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
11	社会保険（６）労働者災害補償保険	事前学修：労災についてのイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
12	公的扶助	事前学修：生活保護についてのイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
13	社会福祉（１）	事前学修：社会福祉、ノーマライゼーションについてのイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
14	社会福祉（２）、社会手当、公衆衛生	事前学修：社会福祉と社会手当、公衆衛生についてのイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
15	教育・リハビリテーションの法制度	事前学修：教育とリハビリテーションについてのイメージを確認しておくこと。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	使用しません。講義資料を配付します。			
参考文献	『社会保障[第２版]（新・社会福祉士シリーズ12）』阿部裕二・熊沢由美編 弘文堂			
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。 課題やレポートがある場合は、次回以降の講義内で適宜フィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LHM-02				
	●	●		●	●					
科目名	言語聴覚療法管理学Ⅱ				単位 認定者	江畑 綾 佐々木 仁		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	言語聴覚療法管理学Ⅰで学んだ制度の知識と倫理を基礎とし、具体的な事案である業務管理、多職種連携と地域連携、医療の質とリスクマネジメント、養成教育と卒後教育等について学ぶ。									
到達目標	言語聴覚士の業務管理の基本的な考え方と実践方法を説明ができ、多職種連携および地域連携における言語聴覚士の役割を理解し、説明できる。医療の質の向上とリスクマネジメントの重要性を理解し、基本的な対応策を提案できる。生涯学習の必要性を認識する。臨床で直面する管理上の課題について、倫理的・制度的観点から適切に判断できるようになる。									
学修者への期待等	言語聴覚療法管理学Ⅰで修得した制度や倫理の知識を、臨床現場における実践的な場面に応用する力を養うことを目指しています。講義内容を単に知識として覚えるのではなく、実際の臨床場面を想定しながら主体的に考え、議論に参加してください。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	言語聴覚士の業務管理(病院・施設の組織、療法士の業務、労務管理、組織マネジメント)					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
2	多職種連携と地域連携(多職種連携のありかたと実際、地域包括ケアシステムなど)(グループワーク)					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
3	医療の質とリスクマネジメント(グループワーク)					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
4	養成教育と卒後教育					事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
5	1. 医療費のしくみと診療報酬制度 2. 言語聴覚士の業務と診療報酬					事前学修：「医療費のしくみ」について調べてみる こと 事後学修：配布資料を復習すること		30	30	佐々木 仁
6	3. 診療報酬の改定と医療機関の経営 4. 医療機関による医療費の違い					事前学修：「診療報酬の改定」について調べてみる こと 事後学修：配布資料を復習すること		30	30	佐々木 仁
7	5. 医療保険の種類と医療費 6. 高額療養制度と保険外併用療養費					事前学修：「医療保険の種類」について調べてみる こと 事後学修：配布資料を復習すること		30	30	佐々木 仁
8	7. 公費負担医療制度 8. 介護保険制度					事前学修：「公費負担医療」について調べてみる こと 事後学修：配布資料を復習すること		30	30	佐々木 仁
アクティブラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード(グループワーク)									
教科書	『世界一わかりやすい介護保険のきほんとしくみ 2024 -2026年度版』イノウ著 ソシム									
参考文献	なし									
備考	授業内課題は、採点后に返却し、フィードバックを行う									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
言語聴覚士として言語聴覚療法の現場で5年以上にわたり業務管理・多職種連携・リスクマネジメント等を実践してきた。その経験は、制度・倫理の知識を基盤としつつ、実際の臨床現場における具体的事案や意思決定の実例を交えた実践的に授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-AHB--02				
	●	●		●						
科目名	高次脳機能障害学				単位 認定者	中川 大介		評価の方法	試験(筆記・レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	高次脳機能障害領域における言語聴覚士にとって必須の事項を理解する。各種高次脳機能障害と関連の深い脳部位について学び、人間の精神活動の階層性及び高次脳機能障害の学問上の定義と行政的な定義について理解する。大脳の左右半球との関連が深い障害（失語症、失行症、半側空間無視、構成障害、地誌的見当識障害など）、脳梁の働きと大脳離断症候群について学修する。また前頭前野、頭頂葉、後頭葉と関連が深い障害について学ぶ。さらに高次脳機能障害について画像情報も含めた評価の基本的な考え方、評価方法について学んでいく。									
到達目標	高次脳機能障害の種類とその概要、及びそのメカニズムについて理解する。									
学修者への期待等	講義内の内容だけではなく、積極的に参考文献などを調べながら知識を定着させることを望む。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	総論 高次脳機能障害とは（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P2～33まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			60	30
2	神経心理学的な考え方（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P35～59まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			60	30
3	失認（視覚性失認について）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P61～87まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			30	30
4	失認（視覚性失認,触覚失認等について）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P89～115まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			30	30
5	視空間障害について（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P118～135まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			30	30
6	身体意識・病態認知の障害について（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P140～159まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			30	30
7	動作・行為の障害（失行を中心に）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P164～187まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			30	30
8	記憶障害（基本概念と分類）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P190～204まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			30	30
9	記憶障害（評価とリハビリテーション）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）					事前学修：教科書P205～215まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
10	前頭葉と高次脳機能障害（主要な高次脳機能障害） （適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書P220～234まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること	30	30
11	前頭葉と高次脳機能障害（評価とリハビリテーション） （適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書P234～239まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること	30	30
12	半球離断症候群（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書P242～255まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること	30	30
13	認知症（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書P260～300まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること	30	30
14	外傷性脳損傷の高次脳機能障害（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書P306～321まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること	30	30
15	認知コミュニケーション障害（外傷性脳損傷，右半球損傷に伴うコミュニケーション障害）（適宜グループワーク，ペアワークを行う）	事前学修：教科書P326～351まで読んでおくこと 事後学修：授業で行ったことを復習すること	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク）			
教科書	「標準言語聴覚障害 高次脳機能障害学（第4版）」阿部 晶子 吉村貴子編 医学書院 「病気がみえるVol.7 脳・神経（最新版）」メディックメディア			
参考文献	なし			
備考	授業内課題は確認後返却する			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

病院にて言語聴覚士として15年以上の経験を有す。脳卒中後の高次脳機能障害者に対してリハビリテーションを行った。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-AHB-03				
	●	●		●						
科目名	言語聴覚障害診断学				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 江畑 綾		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	言語聴覚士が対象者と相対したときの基本的観察点を身につけ、所見報告ができること、また障がいの鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。本講義の前半では、初回面接において収集すべき情報と観察の視点、面接の方法、初診時評価の対象、障害範囲の絞り込みと全体像の把握、言語機能の観察としてはINPUTとOUTPUTの掴み方、及び観察所見の書き方を学修し、後半では聴覚系、高次脳機能系、運動系、小児系の各系ごとに詳細な診断について学んでいく。									
到達目標	言語聴覚士が患者様と相対したときの基本的観察点を身に付け、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。									
学修者への期待等	基礎知識を基に、障害に応じて評価を行い、適切に検査を選定、実施できるようになることを期待する。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	評価・診断の基本概念 言語聴覚障害を診るとは					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
2	評価・診断における臨床推論					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
3	臨床データの解釈 信頼と妥当性 数値化と尺度水準 データの特性と解釈①					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
4	臨床データの解釈 信頼と妥当性 数値化と尺度水準 データの特性と解釈②					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
5	評価・診断の流れ 観察法・質問紙法・検査法・機器を用いた検査 評価プランの立て方					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
6	スクリーニング 成人の言語聴覚障害のスクリーニング					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
7	具体的診断の技術：失語症以外の言語障害と認知症の鑑別のポイント					事前学修：配布資料に目を通しておくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること		30	30	櫻庭 ゆかり
8	具体的診断：面接法と評価の倫理					事前学修：テキストの該当箇所を読むこと 事後学修：提示資料と配布資料を復習すること		30	60	江畑 綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価 ① 医学的評価（呼吸・循環・理学所見など）	事前学修：テキストの 該当箇所を読むこと 事後学修：提示資料と 配布資料を復習するこ と	30	60	江畑 綾
10	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価/診断 ② VF読影（グループワーク）	事前学修：テキストの 該当箇所を読むこと 事後学修：提示資料と 配布資料を復習するこ と	30	60	江畑 綾
11	成人領域の摂食嚥下障害の評価/診断 ③ VE読影（グループワーク）	事前学修：テキストの 該当箇所を読むこと 事後学修：提示資料と 配布資料を復習するこ と	30	60	江畑 綾
12	言語発達障害児に関する評価	事前学修：テキストの 該当箇所を読んで問題 を解くこと 事後学修：提示資料と テキストを確認し、復 習すること	30	60	渡邊 弘人
13	言語発達障害児に関する評価・分析	事前学修：テキストの 該当箇所を読んで問題 を解くこと 事後学修：提示資料と テキストを確認し、復 習すること	30	60	渡邊 弘人
14	聴覚系の評価（検査結果分析） ディスカッションを適宜行う。	事前学修：テキストの 該当箇所を読んで問題 を解くこと 事後学修：提示資料と テキストを確認し、復 習すること	30	60	渡邊 弘人
15	聴覚系の評価（聴覚補償機器の適応基準） グループワークを適宜行う。	事前学修：テキストの 該当箇所を読んで問題 を解くこと 事後学修：提示資料と テキストを確認し、復 習すること	30	60	渡邊 弘人
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）				
教科書	「言語聴覚士国家試験 必修ポイント 2026 ST専門科目」 医歯薬出版 「言語聴覚士国家試験 必須ポイント 2026 ST基礎科目」 医歯薬出版 「2027年版言語聴覚士国家試験 過去問題3年間の解答と解説」 大揚社 2026年7月頃発売予定				
参考文献	なし				
備考	課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床経験5年以上の言語聴覚士が講義を担当する。その経験を活かして、学生が言語聴覚療法の言語障害学的診断について理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な講義を行う

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-AHB-04				
	●	●		●	●					
科目名	失語症・高次脳機能障害				単位 認定者	中川 大介 中村 裕子		評価 の 方法	試験（筆記・ レポート）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内 課題等	10 %
						授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	失語症・高次脳機能障害のメカニズムについて学ぶ。また、検査方法を身につけ言語症状を記録し、そのデータを評価・分析の上、結果をまとめる演習を行う。高次脳機能障害の各検査（知能検査、記憶検査、注意検査、視知覚検査）を学生相互に実施し、記録の仕方、評価・分析を行い結果をまとめることができるようになることを目指す。さらに症状や重症度に則した訓練プログラムを立案し具体的な訓練法の学習を行う。さらには指導・助言、その他の援助に関する知識・技能・態度を養う									
到達目標	根拠に基づいた訓練法を立案することができ、且つ謙虚な態度で失語症・高次脳機能障害者と向き合うことのできる高い人間性を備えた言語聴覚士像を目指す。									
学修者への期待等	教科書や国家試験問題などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解する。自主的に検査演習に取り組み検査の意義や目的、検査結果から症例を分析してまとめることができることを望む。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	認知神経心理学的アプローチの言語処理について （イントロダクション、聞く）					事前学修：教科書3の P4-17まで学習すること 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	中川 大介
2	認知神経心理学的アプローチの言語処理について （呼称、復唱）					事前学修：教科書3の P17-28まで学習すること 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	中川 大介
3	認知神経心理学的アプローチの言語処理について （読解）					事前学修：教科書3の P28-34まで学習すること 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	中川 大介
4	認知神経心理学的アプローチの言語処理について （音読）					事前学修：教科書3の P34-38まで学習すること 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	中川 大介
5	認知神経心理学的アプローチの言語処理について （書字）					事前学修：教科書3の P39-46まで学習すること 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	中川 大介
6	標準失語症検査①聴く（適宜グループワーク実施）					事前学修：教科書4の 該当箇所を学習すること 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	中川 大介
7	標準失語症検査②話す（呼称～語の列挙）					事前学修：教科書4の 該当箇所学習すること 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	中川 大介
8	標準失語症検査③読む					事前学修：教科書4の 該当箇所を学習すること 事後学修：講義内容を 復習すること		30	30	中川 大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	標準失語症検査④書く・計算	事前学修：教科書4の 該当箇所を学習する こと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
10	認知神経心理学的アプローチの言語処理について (掘り下げ検査)	事前学修：教科書3の P61-69まで学習する こと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
11	高次脳機能障害のリハビリテーション	事前学修：教科書2の 第1章を学習すること 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
12	面接、観察、検査における情報収集 スクリーニング グ	事前学修：該当箇所 について調べること 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
13	知能検査 WAIS-IV 目的、概要、積木模様～行列 推理	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
14	知能検査 WAIS-IV 単語～知識	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
15	知能検査 WAIS-IV バランス～絵の完成	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
16	注意・意欲検査 CAT/CAS 意欲について	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
17	注意・意欲検査 CAT/CAS Span～SDMT	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
18	注意・意欲検査 CAT/CAS 記憶更新検査～CPT	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
19	注意検査 TMT-A・B、仮名ひろい検査	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
20	記憶検査 WMS-R 論理的記憶Ⅰ～視覚性再生Ⅱ	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
21	記憶検査 リバーミード行動記憶検査 姓名～物語	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介
22	記憶検査 リバーミード行動記憶検査 絵～持ち物	事前学修：検査につ いて調べておくこと 事後学修：講義内容 を復習すること	30	30	中川 大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
23	視空間認知検査 VPTA	事前学修：検査について調べておくこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	中川 大介
24	視空間認知検査 BIT行動性無視検査	事前学修：検査について調べておくこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	中川 大介
25	遂行機能検査 BADS 規則変換カード～鍵探し検査	事前学修：検査について調べておくこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	中川 大介
26	遂行機能検査 BADS 時間判断検査～DEX	事前学修：検査について調べておくこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	中川 大介
27	認知症と他の高次脳機能障害（失語症を含む）の障害傾向の相違性を学び、症状の観察・評価の視点を理解する。	事前学修：認知症について教科書を読んでおくこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	中村 裕子
28	認知症の人の高次脳機能の残存機能の観察・評価の方法を、演習を通して学ぶ（DSM 第5 版、その他を使用）	事前学修：認知症の評価について学習しておくこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	中村 裕子
29	認知症の人の日常生活自立度や症状の進行度合の評価法について、演習を通して学び、臨床実践に活かす。	事前学修：認知症の日常生活自立度、進行度合いについて学習しておくこと 事後学修：講義内容を復習しておくこと	30	30	中村 裕子
30	認知症による高次脳機能障害で生ずる生活困難状況と、BPSD 状況の判別法を演習を通して学び、臨床に活かす	事前学修：左記内容について学習しておくこと 事後学修：講義内容を学習しておくこと	30	30	中村 裕子
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク：1～26コマ、実践法・手法の演習：27～30コマ）				
教科書	1.『標準言語聴覚障害学 失語症学（第4版）』 藤田 郁代編 医学書院 2.『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学（第4版）』 藤田 郁代、阿部 晶子 編 医学書院 3.『なるほど！失語症の評価と治療』 小嶋知幸（編著）金原出版 4.「標準失語症検査マニュアル」日本高次脳機能障害学会編 株式会社新興医学出版社				
参考文献	1.『失語症学』（2006） 西村書店 2.『認知症ケア実践学』（2023）中央法規出版				
備考	課題については、次回講義時にフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士としての臨床経験15年以上有する教員が担当する。臨床経験を活かし失語症・高次脳機能障害臨床の実践と必要な知識について、学生の理解が深まるよう講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-01				
	●	●		●	●					
科目名	言語発達障害総論				単位 認定者	須賀川 芳夫		評価の方法	試験(筆記・レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	言語発達障害児に言語療法を行う際に必要な基礎知識を学ぶ。言語発達・言語発達障害についての基礎と概要について述べ、評価-プログラム立案-言語療法という一連の流れを演習を通して学修する。さらには個別自立課題等の適切な教材を考え作成できることを目指す。									
到達目標	小児領域で必要な諸検査の実施・評価について学び、これらに生かして必要な支援・訓練を考えていけるようになる。									
学修者への期待等	積極的に演習に参加し、検査法や訓練法をしっかりと身につけていってください。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	検査法1 S-M社会生活能力検査(検査概要と採点練習) : スキルを身につける					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
2	検査法2 発達検査(遠城寺式など) : スキルを身につける					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
3	検査法3 グッドイナフ人物画知能検査 : スキルを身につける					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
4	検査法4 PVT-R(実技と採点練習): 相互演習					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
5	検査法5 PVT-R(実技と採点練習): 相互演習					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
6	検査法6 質問応答関係検査(実技と採点練習) : 相互演習					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
7	検査法7 質問応答関係検査(実技と採点練習) : 相互演習					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
8	検査法8 KABC 2(実技と採点練習): 相互演習					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
9	検査法9 KABC 2(実技と採点練習): 相互演習					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
10	検査法10 KABC 2(実技と採点練習): 相互演習					事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	検査法11 KABC 2 (実技と採点練習) : 相互演習	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
12	検査法12 KABC 2 (実技と採点練習) : 相互演習	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
13	検査法13 WISC-V (実技と採点練習) : グループワーク	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
14	検査法14 WISC-V (実技と採点練習) : 相互演習	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
15	検査法15 WISC-V (実技と採点練習) : 相互演習	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
16	検査法16 WISC-V (実技と採点練習) : 相互演習	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
17	検査法17 WISC-V (実技と採点練習) : 相互演習	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
18	検査法18 田中ビネー知能検査V (検査概要と採点練習) : 相互演習	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
19	検査法19 田中ビネー知能検査V (検査概要と採点練習) : 相互演習	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
20	検査法20 LC-R、LCSA (検査概要と国家試験問題) : スキルを身につける	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
21	支援法1 インリアルアプローチ : グループワーク	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
22	支援法2 インリアルアプローチ : グループワーク	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
23	支援法3 ABA (応用行動分析)	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
24	支援法4 ABA (応用行動分析)	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
25	支援法5 マカトン法: スキルを身につける	事前学修: テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修: 授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-02				
	●	●		●						
科目名	言語発達障害評価学				単位 認定者	須賀川 芳夫		評価の方法	試験(筆記・レポート)	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	70 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語発達を促すために、評価は大変重要な位置を占める。適切な評価に必要な観察上の視点を身に着け、情報収集、必要な検査を選択する能力を養い、検査の実際を経て結果を考察し評価のまとめに至る一連の流れを学修する。									
到達目標	言語障害を言語形式 - 指示内容関係、基礎的プロセス、コミュニケーション態度の3つの視点から捉え、言語障害の病態を理解できるようになる。									
学修者への期待等	S-S法を中心に取り組んでいきます。積極的に演習に参加し、言語発達の捉え方、考え方をしっかりと身につけていってください。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	言語発達について 言語発達の基礎（S－S法を中心に）					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
2	検査法 1 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
3	検査法 2 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
4	検査法 3 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
5	検査法 4 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
6	検査法 5 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
7	検査法 6 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
8	検査法 7 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
9	検査法 8 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30
10	検査法 9 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	検査法10 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
12	検査法11 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
13	検査法12 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
14	検査法13 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
15	検査法14 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（相互演習、実技）			
教科書	資料を配布する			
参考文献	国リハ式〈S-S法〉言語発達遅滞検査マニュアル 改訂第4版、言語発達遅滞の言語治療（診断と治療社）			
備考	課題について、次回講義時にフィードバックを行う			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は、言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有している。前職は公立学校教員（特別支援学校、小学校）であり、主に特別支援教育を担当してきた。
 [資格等] 言語聴覚士、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許、特別支援教育士 等

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-03				
	●	●		●						
科目名	小児の構音障害				単位 認定者	須賀川 芳夫		評価の 方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	構音の発達は、言語発達や運動発達に伴ってその障害の様相が大きく異なる。授業では機能性構音障害、器質性の障害である口蓋裂言語を取り上げそれぞれの検査とリハビリテーションの実践について学び、評価・訓練・指導・助言、その他の援助に関する知識・技能・態度を修得する。									
到達目標	器質性構音障害、機能性構音障害の病態、および評価・訓練の基本的考え方を理解する。									
学修者への期待等	・ 構音障害に対する訓練を検討するには、誤り方のメカニズムを把握する必要がある。その第1歩は、対象児の発する語音を正しく表記することにある。授業を通して、音声表記の習熟に努めてほしい。 ・ 構音操作や訓練手技など、体験的な習得を心がけてほしい。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	機能性構音障害とは／日本語の語音 機能性構音障害の概念、特徴／日本語の語音の表記 法(音声記号)：スキルを身につける					事前学修：IPAに目を通しておくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
2	構音障害の種類、機能性構音障害でみられることが 多い構音障害等					事前学修：テキストを一読しておくこ と。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
3	構音のための検査1 新版構音検査（単語検査） ：スキルを身につける					事前学修：音声記号を復習しておくこ と。 事後学修：単語検査の結果を整理すること。			30	30
4	構音のための検査2 新版構音検査（単語検査のま とめ、音節検査、音検査）：スキルを身につける					事前学修：前時までの内容を振り返って おくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
5	構音のための検査3 新版構音検査（類似運動検査、 口腔顔面の随意運動検査）：スキルを身につける					事前学修：前時までの内容を振り返って おくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
6	訓練1 基本的な訓練の流れ：手技の体得					事前学修：テキストを一読しておくこ と。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
7	訓練2 語音別の訓練法：手技の体得					事前学修：前時までの内容を振り返って おくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
8	舌運動訓練、幼児および保護者への支援 ：手技の体得					事前学修：前時までの内容を振り返って おくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
9	器質性構音障害の基礎知識 定義と疾患 ：適宜グループワークを行う					事前学修：テキストを一読しておくこ と。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
10	口蓋裂の基礎知識(疫学と言語障害) ：適宜グループワークを行う					事前学修：テキストを一読しておくこ と。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30
11	口唇口蓋裂の問題点：適宜グループワークを行う					事前学修：テキストを一読しておくこ と。 事後学修：配布された資料を復習すること。			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
12	舌・口唇の形態異常と機能障害 ：適宜グループワークを行う	事前学修：テキストを一読しておくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。	30	30
13	治療方針・手術：適宜グループワークを行う	事前学修：テキストを一読しておくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。	30	30
14	口腔腫瘍 1 口腔腫瘍の治療と問題点、リハビリテーション評価	事前学修：テキストを一読しておくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。	30	30
15	口腔腫瘍 2 口腔腫瘍術後のリハビリテーションとその注意点	事前学修：テキストを一読しておくこと。 事後学修：配布された資料を復習すること。	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（スキルを身につける、手技の体得、グループワーク）			
教科書	「STクリア言語聴覚療法 5 小児発声発語障害」、「STクリア言語聴覚療法 6 成人発声発語障害」			
参考文献	『わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法』山下夕香里ほか(著) 学苑社 『構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 』阿部雅子(著) 金原出版			
備考	課題について、次回講義時にフィードバックを行う			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有している。前職は公立学校教員（特別支援学校、小学校）であり、主に特別支援教育を担当してきた。

〔資格等〕 言語聴覚士、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許、特別支援教育士 等

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDS-01				
	●	●		●	●					
科目名	音声障害				単位認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	それぞれの音声障害の特徴と治療法について学修し、音声障害の評価・訓練・指導・助言、そのほかの援助に関する知識と技能・態度を修得する。さらに無喉頭音声の種類と代替音声に言及し、広く発声発語領域の癌の術後のリハビリテーションについて学修する。									
到達目標	それぞれの音声障害の成り立ちについて理解し、検査や評価、プログラムの立案、訓練を行うことができる。									
学修者への期待等	予習と復習を繰り返し行うこと。授業は演習を含むので、積極的に参加することを望む。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	音声障害の発生メカニズムと分類①(発声器官の解剖・生理・声帯振動と呼吸様) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
2	音声障害の発生メカニズムと分類②(声帯振動と呼吸様式) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
3	器質性音声障害 1 (声帯結節・声帯ポリープ・ポリープ様声帯・声帯溝症他) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
4	器質性音声障害 2 (ポリープ様声帯・声帯溝症他) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
5	器質性音声障害 3 (声帯のう胞、喉頭肉芽腫他) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
6	器質性音声障害 4 (喉頭乳頭腫、喉頭がん他) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
7	神経学的音声障害 1 (喉頭麻痺) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
8	神経学的音声障害 2 (痙攣性発声障害他) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
9	神経学的音声障害 3 (脳血管疾患に伴う音声障害) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
10	神経学的音声障害 4 (神経変性疾患に伴う音声障害) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
11	機能的音声障害 (過緊張性発声障害・心因性失声症) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
12	機能的音声障害 (音声衰弱症・変声障害他) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
13	喉頭所見をとる検査 (喉頭鏡、ストロボスコーピー、高速度撮影他) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
14	生理学的検査 1 電気声門図 グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
15	生理学的検査 2 空気力学的検査 (平均呼气流率、MPT) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30
16	生理学的検査 3 空気力学的検査 (発声指数, ゆらぎ他) グループ学習を含む					事前学修：事前配布の資料を読むこと 事後学修：再読して説明できるようになること			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
17	生理学的検査 4 (強さの検査 声門下圧) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
18	音声の評価法 1 (GRBAS尺度) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
19	音声の評価法 2 (モーラ法、VHI, VRQOL) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
20	気管切開の音声障害 1 (気管切開のメカニズム) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
21	気管切開の音声障害 2 (スピーチカニューレ) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
22	無喉頭音声 1 人工喉頭 (笛式人工喉頭、電気式人工喉頭) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
23	無喉頭音声 2 (食道音声・気管食道瘻) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
24	症状対処的音声治療 1 (プッシングメソッド・声の配置法) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
25	症状対処的音声治療 1 (プ外喉頭筋へのアプローチ他) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
26	包括的音声治療 (アクセント法) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
27	包括的音声治療 (共鳴強調訓練) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
28	包括的音声治療 (発声機能拡張訓練) グループ学習を含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
29	評価と訓練 1 評価から訓練へ グループディスカッションを含む	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
30	評価と訓練 2 症例検討	事前学修: 事前配布の資料を読むこと 事後学修: 再読して説明できるようになること	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり: キーワード (グループ学習 グループディスカッション)			
教科書	『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学』城本 修、原 由紀 編 医学書院			
参考文献	なし			
備考	課題は、次回の講義時にフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として運動障害性構音障害を含む30年以上の臨床経験あり。その経験を活かし、音声障害の臨床について、理解が深まるよう基本的な知識から実践まで講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDS-02					
	●	●		●	●						
科目名	吃音概論				単位認定者	藤島 省太		評価の方法	試験(筆記)	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	20	%
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	吃音の基礎的知識を得るとともに、原因論及び吃音の指導・訓練法（環境調整法、遊技療法、流暢性促進訓練など）について学修し、評価・訓練・指導・助言、その他の援助に関する知識・技能・態度など実践的支援能力の修得を目指す。										
到達目標	吃音の基礎的知識を得るとともに、吃音の諸相に応じた対処について説明ができるようになること。また、将来吃音のある方に遭遇した場合を想定して、言語聴覚士としてどのようなアドバイスや対処を行なうかを具体的に説明できるようになること。										
学修者への期待等	日頃から社会の動向を注視するとともに、身近な「ことば」に関する話題（音声言語・非音声言語、またヒトの言語・ヒト以外の動物の言語を問わず）について思索を深めておくこと。その上で、①「ヒトが話す」ということの意味は？②「ことば」にしょうがいがあるということはどういうことか？③言語聴覚士として「『ことば』の仕事に携わる」際に、自分が何を大切に仕事をしなくてはならないか？ということ絶えず自問自答してほしい。今年度は学修者との対話を積極的に採り入れていきたいと考えているので、自発的な発言を期待している。										
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	吃音のアウトライン（「ヒトが『話す』という行為」の意味について。『吃音』とは何か？）：ペアワーク・グループワーク					事前学修：「ヒトが『話す』という行為」を何故行なうのか？話すことのメリット・デメリットについて事前に考えておくこと 事後学修：授業後の気づき、新たな知見について整理する			60	60	
2	吃音の歴史（人類の歴史における吃音観の変遷について）					事前学修：歴史上著名な人物について歴史の教科書等を用いて振り返っておくこと 事後学修：授業で紹介した「吃音のある歴史上の人物」の業績と吃音との関連性を整理してみる			60	60	
3	吃音の諸相（『吃音』とはどのような状態か？）：ペアワーク・グループワーク					事前学修：一般的な「話しにくさ」と「吃音」という事象の違いについて考えておくこと 事後学修：授業を受けてみて改めて「吃音」とはどんなものか整理してみる			60	60	
4	吃音の発生のメカニズム（吃音研究における原因に関する諸説）					事前学修：発生の生理・心理的メカニズムについて概観しておくこと 事後学修：吃音発生の要因について整理してみる			60	60	
5	吃音の捉え方（吃音研究における鑑別・診断に関する諸説）：グループワーク					事前学修：「言葉がつかえる」場合どこから「吃音」かを考えてみること 事後学修：「吃音」と確定するために必要なことは何かを整理してみる			60	60	
6	幼児期の吃音の諸相①（幼児期の吃音とは）：ペアワーク					事前学修：乳幼児期の定型発達の全体像と一般的な言語発達の特徴について検討しておくこと 事後学修：幼児期の吃音の一般的な特徴について整理する			60	60	
7	幼児期の吃音の諸相②（幼児期の吃音への具体的対処）：ケースワーク・意見交換					事前学修：幼児期の発達過程において言語やコミュニケーション上に生じる問題を想定してみること 事後学修：授業で紹介した事例から幼児期の吃音について考えたことを整理してみる			60	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	学童期の吃音の諸相①（学童期の吃音とは）：ペアワーク	事前学修：学童期の定型発達の全体像と一般的な言語発達の特徴について検討しておくこと 事後学修：学童期における吃音およびそこから派生する問題について整理する	60	60
9	学童期の吃音の諸相②（学童期の吃音への具体的対処）：ケースワーク・意見交換	事前学修：学童期の発達過程において言語やコミュニケーション上に生じる問題を想定してみること 事後学修：授業で紹介した事例から学童期の吃音について考えたことを整理してみる	60	60
10	中高生期の吃音の諸相：ケースワーク・意見交換	事前学修：中高生期（思春期）の定型発達の全体像とその特徴について検討しておくこと 事後学修：中高生期（思春期）における吃音およびそこから派生する問題について整理する	60	60
11	成人期の吃音の諸相：ペアワーク・グループワーク	事前学修：現代社会で生活する上で社会人がかかえる諸課題について情報収集を行なっておくこと 事後学修：現代社会で生活する上で吃音がどのような影響を及ぼしているか整理する	60	60
12	セルフ・ヘルプについて：ペアワーク・グループワーク	事前学修：『セルフ・ヘルプ』という概念の歴史的背景等について検討しておくこと 事後学修：『セルフ・ヘルプ』という概念と『セルフ・ヘルプ・グループ』発生の関連について整理してみる	60	60
13	言友会について	事前学修：吃音のある人の自助（セルフ・ヘルプ）グループである『言友会』についてインターネット等を活用して情報収集しておくこと 事後学修：『言友会』活動の歴史について整理してみる	60	60
14	言友会活動とセルフ・ヘルプ：ペアワーク・グループワーク	事前学修：『セルフ・ヘルプ・グループ言友会』の活動意義について検討しておくこと 事後学修：吃音問題解決における『セルフ・ヘルプ』と『セルフ・ヘルプ・グループ』の異同について整理してみる	60	60
15	まとめ（吃音問題の今後の展望）：質疑応答	事前学修：これまでの授業内容を振り返り疑問点等を整理しておくこと 事後学修：将来言語聴覚士として仕事をする場合吃音のある方と接する際に大切にしたいことなどを整理してみる	60	60
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ペアワーク、グループワーク、ケースワーク、意見交換、質疑応答）			
教科書	なし（随時資料を配布する）			
参考文献	・『吃音臨床入門講座；心理・医療・教育の視点から学ぶ』早坂菊子ほか 学苑社 ・『学齢期吃音の指導・支援 改訂第2版』小林宏明 学苑社 ・『吃音の基礎と臨床』バリーギター著, 長澤泰子監訳 学苑社			
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

教育相談業務、スーパー・バイズおよび吃音者のセルフ・ヘルプ・グループの立ち上げから運営まで長年携わっている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDS-04					
	●	●		●	●						
科目名	運動障害性構音障害Ⅱ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価 の方法	試験(筆記・ レポート)	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30	%
						授業時間数	60 時間				
				授業形態	演習	授業回数	30 回				
授業の概要	運動障害性構音障害について、タイプ別の訓練法を学び、訓練・指導・助言そのほかの援助に関する知識・技能・態度を修得する。姿勢の変化による発話への影響を知るため、寝返りから座位、さらには移乗動作も同時に演習する。運動障害性構音障害Ⅰで学修した知識を基に、症例の問題点を整理し、訓練プログラムを立案、運動生理学の知識を取り入れ、訓練プログラムの実施へとつなげていく。										
到達目標	各タイプごとの特徴を理解し、タイプに沿った訓練を実施できる。										
学修者への 期待等	演習を含む。実技は繰り返しの練習がすべてであるので、怠らずに行ってほしい。										
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)	
1	運動障害性構音障害の分類と特徴3（運動過多性）					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：再読して説明できるように すること			30	30	
2	運動障害性構音障害の分類と特徴4（運動過多性の 特徴と訓練）					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：再読して説明できるように すること			30	30	
3	運動障害性構音障害の分類と特徴5（混合性）					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：再読して説明できるように すること			30	30	
4	発話の検査 発話特徴抽出検査					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
5	異常構音のディクテーション① 痙性と弛緩性 グループワークを行う					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
6	異常構音のディクテーション② 運動低下性と失調 性 グループワークを行う					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
7	発声発語器官の検査1（実技）呼吸に関わる検査					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
8	発声発語器官の検査2（実技）発声発語器官の範囲 に関わる検査					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
9	発声発語器官の検査3（相互演習）発声発語器官の 速さに関わる検査（実技）					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
10	発声発語器官の検査4（相互演習）発声発語器官の 筋力に関わる検査（実技）					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
11	発声発語器官の検査5（相互演習）発声発語器官の 反射・筋緊張に関わる検査（実技）					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
12	発声発語器官の検査6（演習）SLTA - STの演習と記 録（実技）					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	
13	発声発語器官の検査7（演習）SLTA - STのまとめ （実技）					事前学修：事前資料に目を通しておく こと 事後学修：検査できるようにすること			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	検査結果の分析 1 全体評価から読み取れる問題点の抽出 (実技)	事前学修：資料に目を通し、自らの考えをまとめる 事後学修：考察結果を説明できるようにする	30	30
15	検査結果の分析 2 全体評価から読み取れる問題点のまとめ (実技)	事前学修：資料に目を通し、自らの考えをまとめる 事後学修：考察結果を説明できるようにする	30	30
16	機能訓練法 1 機能訓練の意義と原則 痙性の障害 弛緩性の障害 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
17	機能訓練法 2 機能訓練の意義と原則 失調性の障害 運動低下性 運動過多性 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
18	機能訓練法 3 各器官の粗大運動の機能訓練 呼吸訓練 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
19	機能訓練法 4 各器官の粗大運動の機能訓練 口唇 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
20	機能訓練法 5 各器官の粗大運動の機能訓練 下顎 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
21	機能訓練法 6 各器官の粗大運動の機能訓練 舌 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
22	機能訓練法 7 筋緊張のコントロール (手技) (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
23	機能訓練法 8 構音動作訓練 (破裂音, 摩擦音) (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
24	機能訓練法 9 構音動作訓練 (破擦音, 鼻音, 接近音) (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
25	機能訓練法 10 音の産生 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
26	発話訓練 1 統合般化 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
27	発話訓練 2 プロソディー訓練 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
28	発話訓練 3 発話速度の調節法 (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
29	代償的手段の紹介 ノンテクとローテク (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
30	代償的手段の紹介 ローテクとハイテク (実技)	事前学修：資料に目を通す 事後学修：トレーニングを復習する	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード (グループワーク 実技)			
教科書	『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 (最新版)』城本 修、原 由紀 編 医学書院 『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』廣瀬肇他著 医歯薬出版 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3 年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定			
参考文献	『スピーチ・リハビリテーション第 1 巻～第 5 巻』 西尾正輝編 インテルナ出版			
備考	課題は、次回の講義時にフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として運動障害性構音障害を含む30年以上の臨床経験あり。その経験を活かし、運動障害性構音障害の臨床について、理解が深まるよ実践的な訓練・支援法を中心に講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●		●	●	ST-2-VDS-06					
科目名	摂食嚥下障害Ⅱ				単位 認定者	江畑 綾 花渕 静		評価の方法	試験(筆記)	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	30	%
						授業時間数	60 時間				
					授業形態	演習	授業回数		30 回		
授業の概要	対象者の問題を、摂食嚥下機能検査・食事場面の観察・診療情報・他部門情報など総合的・包括的にとらえる。さらに対象者の問題点を整理し、予後を見据えた訓練プログラムの立案が行えるよう理解を深める。そのために必要な訓練手技について、目的・方法・対象・注意点を、講義と演習を行い、さらにはトレーニングの一環として機能的口腔ケアと喀痰などの吸引について学び、演習を通して修得する。指導・助言について具体的な症例をもとに演習を行う。嚥下障害に対する手術的な治療法についても触れ、言語聴覚士が行う術後のリハビリテーションについて学ぶ。										
到達目標	対象者の問題を、総合的かつ包括的に抽出し、対象者に適した訓練プログラムを立案することができる。摂食嚥下障害の治療の知識、リハビリテーション手技を獲得する。										
学修者への期待等	各手技に対してリスク管理を行いながら、実施できる。そして、各病態を理解し、個々のケースに合わせて、代償法や訓練プログラムなどを立案し実施できることを期待します。										
回	授業計画					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	嚥下に関連する筋の解剖、神経生理、メカニズムの復習					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。		30	60	江畑 綾	
2	嚥下機能評価①（嚥下造影検査・画像の評価）グループワーク					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。		30	60	江畑 綾	
3	嚥下機能評価②（嚥下内視鏡検査）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。		30	60	江畑 綾	
4	嚥下機能評価③（嚥下内視鏡検査・画像の評価）グループワーク					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。		30	60	江畑 綾	
5	嚥下機能評価④（その他の検査）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。		30	60	江畑 綾	
6	評価内容の解釈、訓練の考え方、組み立て					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。		30	60	江畑 綾	
7	間接練習①（口唇、舌、咀嚼筋の機能訓練）（相互演習）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。		30	60	江畑 綾	
8	間接練習②（アイスマッサージ（咽頭、皮膚））（相互演習）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。		30	60	江畑 綾	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	間接練習③ (Pushing ex 嚥下体操) (相互演習)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
10	間接訓練④ (嚥下反射誘発手技 ブローイング訓練 頭部拳上訓練) (相互演習)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
11	直接訓練① (直接訓練実施の留意点) (相互演習)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
12	直接訓練② (姿勢調整・介助法) (相互演習)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
13	直接訓練③ (頸部回旋 頭頸部屈曲位) (相互演習)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
14	直接訓練④ (交互嚥下 複数回嚥下 息こらえ嚥下)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
15	直接訓練⑤ (増粘剤入水分について) (演習)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
16	直接訓練⑤ (嚥下食、段階的摂食訓練)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
17	吸引について、呼吸リハビリテーションについて	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
18	各疾患別対応方法① (脳血管疾患)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
19	各疾患別対応方法② (神経筋疾患)	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
20	口腔ケア基礎知識 (歯・舌・粘膜の清掃用品の取り扱い)	事前学修：日本歯科医師会HP (歯とお口のことならなんでもわかるテーマパーク8020) を読んでおくこと。 事後学修：演習内容を振り返り、口腔ケアの手技・手順および安全管理上の留意点について整理する。	30	60	花刈 静
21	口腔ケア相互演習 (口腔清掃、口腔内吸引時の留意点)				花刈 静

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
22	各疾患別対応方法③（悪性腫瘍）	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
23	各疾患別対応方法③（器質性疾患）	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
24	各疾患別対応方法④（廃用症候群、気管切開患者）	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
25	症例検討①（脳血管疾患）	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
26	症例検討②（脳血管疾患）グループディスカッション1	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
27	症例検討③（脳血管疾患）グループディスカッション2	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
28	症例検討④（神経筋疾患）	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
29	症例検討⑤（神経筋疾患）グループディスカッション1	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
30	症例検討⑥（神経筋疾患）グループディスカッション2	事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること。関連過去問をとくこと。	30	60	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、グループディスカッション、実技、相互演習）				
教科書	『標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学』椎名英貴/倉智雅子編 医学書院 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定				
参考文献	なし				
備考	授業内容は状況に応じて変更する場合があります。課題についてのフィードバックは、採点后、口頭や課題上に記載する形で行う。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として臨床現場で5年以上にわたり摂食嚥下障害の機能検査・食事観察・多職種連携などによる包括的評価から訓練プログラム立案・実施一連の実践を積んできた経験を授業に活かし、臨床事例と結びつけた実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-02				
	●	●		●	●					
科目名	聴能・発語訓練演習				単位認定者	渡邊 弘人 坂本 幸		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	「コミュニケーション障害の軽減に有効な支援」という観点から、個々人にとって現実的な聴能・発語の役割の見極めと、そのための支援を考える。幼児・学童期の全発達に対する聴覚活用・発語の現実的な支援と、不足部分の補償方法について、実践例を交えて考察する。さらには聴覚補償（補聴器・人工内耳等の適応・フィッティングと活用）について学び、聴覚学習についての理解を深める。									
到達目標	1. 「コミュニケーション障害の軽減に有効な支援」を目指す立場から、個々人にとって現実的な聴能・発語の役割の見極めと、それに基づく支援を考える。 2. 聴覚活用・発語に対する幼児期・学童期の「現実的な」支援を知り、不足部分・領域の補償方法を検討する。特に書記言語習得上の課題と視覚情報、特に手指メディアの活用を考慮する 3. 聴覚補償（補聴器・人工内耳等の適応・フィッティングと活用）について学ぶ。 4. 幼児期の聴能・発語支援の特性…①理解・コミュニケーション中心の係わり ②聴覚障害幼児の聴覚学習と幼児聴力検査の相互的関わりについて具体的に考える。 5. 聴覚活用とコミュニケーション支援の統合：コミュニケーション補助手段(読話、手指言語、幼児の文字獲得と日本語学習、コミュニケーションスキル)への誘導をどうするかを見ていく。									
学修者への期待等	不明事項や不審点についての、積極的な質問や意見を期待しています。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	「聴能・発語訓練」の変遷と「聴覚学習」。聴覚障害児・者にとって「聞く・話す」訓練が持つ意義。				事前学修：教科書 p. 14-17 通読 事後学修：疑問点を記述(次回質問)		20	20	坂本 幸	
2	小児の「聴覚学習」とは、どんな場合に、何をどうすることか、目的は何かについて具体的に考察する。				事前学修：教科書p. 5-7、114-127 事後学修：疑問点を記述(次回質問)		20	20	坂本 幸	
3	小児の「聴覚発達」「聴覚学習」と聴力検査・診断との関わり（学習と評価の発達のプロセスを見る。）				事前学修：教科書p. 16、280-282 事後学修：疑問点を記述(次回質問)		20	20	坂本 幸	
4	聴覚補償の適応と選択、「聴覚活用」評価の概略。				事前学修：教科書 第5章を見ておく 事後学修：疑問点をメモ(次回質問)		20	20	坂本 幸	
5	補聴器の仕組みや音響特性の概略を知り、幼児への装用指導と効果の評価、機器調整の概要を学ぶ。				事前学修：教科書p. 145-154、155-161 事後学修：疑問点をメモ(次回質問)		40	20	坂本 幸	
6	発語指導と言語の聴覚的理解の基礎となる日本語の音韻構成の指導と「かな文字」導入の関係を知る。				事前学修：事前の配布資料を通読 事後学修：疑問点を記述(次回質問)		20	20	坂本 幸	
7	補聴援助システム、および情報保証の概略を学び、実践上生じる種々の課題について見ていく。				事前学修：教科書p. 197-203 を通読 事後学修：疑問点を質問・整理する		20	20	坂本 幸	
8	ライフステージごとの聴覚障害適宜グループワーク、ディスカッションを行う。				事前学修：テキストの該当箇所を読むこと。 事後学修：資料、テキストを用いて復習すること。		30	60	渡邊 弘人	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	前言語期の聴覚学習について 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：テキストの該当箇所を読むこと。 事後学修：資料、テキストを用いて復習すること。	30	60	渡邊 弘人
10	幼児期の聴覚・発語について 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：テキストの該当箇所を読むこと。 事後学修：資料、テキストを用いて復習すること。	30	60	渡邊 弘人
11	学童期以後の支援 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：テキストの該当箇所を読むこと。 事後学修：資料、テキストを用いて復習すること。	30	60	渡邊 弘人
12	難聴者・中途失聴者の支援・訓練 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：テキストの該当箇所を読むこと。 事後学修：資料、テキストを用いて復習すること。	30	60	渡邊 弘人
13	読話学習の概要（成人向） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：テキストの該当箇所を読むこと。 事後学修：資料、テキストを用いて復習すること。	30	60	渡邊 弘人
14	コミュニケーション支援について①(手話・読話など) 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：テキストの該当箇所を読むこと。 事後学修：資料、テキストを用いて復習すること。	30	60	渡邊 弘人
15	コミュニケーション支援について②(さまざまなコミュニケーション手段) 適宜グループワークを行う。	事前学修：テキストの該当箇所を読むこと。 事後学修：資料、テキストを用いて復習すること。	30	60	渡邊 弘人
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）				
教科書	①「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」藤田郁代(著)医学書院				
参考文献	①『教育オーディオロジーハンドブック』大沼直紀(著・監修)ギアーズ教育新社 ②「言語聴覚学講座 聴覚障害学」中川尚志・廣田栄子(編)医歯薬出版 ③『補聴器のフィッティングの考え方(第3版)』小寺一興 診断と治療社 ④『補聴器ハンドブック』Dillon, H. 中川雅文(監訳) 医歯薬出版				
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床経験15年以上の言語聴覚士が講義を担当する。臨床経験を活かし、学生が聴覚障害者の支援について理解を深め、臨床現場につながるような講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●	●	ST-2-HDS-04				
科目名	聴力検査Ⅱ				単位 認定者	渡邊 弘人		評価 の方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	30 %
				授業形態	演習 <th>授業時間数</th> <td>15 時間</td> <td></td> <td></td>	授業時間数	15 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	基本的聴覚検査の実技演習として、純音聴力検査:気導検査・骨導検査(含マスキング)、語音聴力検査:語音了解閾値検査・語音弁別検査、補充現象等の検査: ABLB検査・SISI検査を実施し、理論と実践をつなげていく。さらには平衡機能障害の検査を学び、演習を通して習熟する。									
到達目標	言語聴覚士が行う聴力検査の概要・目的・実施手順について理解する。									
学修者への期待等	聴力検査を理解するためには、聴覚系の解剖・生理の理解が求められるため、「聴覚系の機能・構造・病態」の講義内で行った内容を復習しておくこと。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	聴覚検査総論 自覚的検査と他覚的検査					事前学修:教科書P153～154を読むこと。 事後学修:提示資料・教科書を確認して 復習すること。			30	60
2	自覚的聴覚検査Ⅰ:語音聴力検査 原理と目的 適宜グループワークなどを実施する。					事前学修:教科書P77～92を読むこと。 事後学修:提示資料・教科書を確認して 復習すること。			30	60
3	自覚的聴覚検査演習Ⅱ:語音聴取閾値検査・語音弁 別検査 適宜グループワークなどを実施する。					事前学修:教科書P77～92を読むこと。 事後学修:提示資料・教科書を確認して 復習すること。			30	60
4	自覚的聴覚検査演習Ⅲ:内耳機能検査(SISI検査 ABLB検査) 適宜グループワークなどを実施する。					事前学修:教科書P70～76を読むこと。 事後学修:提示資料・教科書を確認して 復習すること。			30	60
5	自覚的聴覚検査演習Ⅳ:自記オーディオメトリ検査 適宜グループワークなどを実施する。					事前学修:教科書P63～69を読むこと。 事後学修:提示資料・教科書を確認して 復習すること。			30	60
6	他覚的聴覚検査:ティンパノメトリ、OAE、ABR、 ASSR 適宜グループワークなどを実施する。					事前学修:教科書P93～103、121～141を 読むこと。 事後学修:提示資料・教科書を確認して 復習すること。			30	60
7	乳幼児聴覚検査:BOA、VRA、COR、ピープショウ検 査、遊戯聴力検査 適宜グループワークなどを実施 する。					事前学修:教科書P142～156を読むこと。 事後学修:提示資料・教科書を確認して 復習すること。			30	60
8	平衡機能検査:重心動揺検査、眼振検査 適宜グループワークなどを実施する。					事前学修:配布された資料の該当か箇所 を読むこと。 事後学修:提示資料を確認して復習する こと。			30	60
アクティブ・ ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり:キーワード(グループワーク、ディスカッション、演習)									
教科書	『聴覚検査の実際(最新版)』 日本聴覚医学会(編) 南山堂 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定									
参考文献	『基本的聴覚検査マニュアル(改訂3版)』 服部浩 金芳堂									
備考	聴覚演習室で講義・演習を行う予定である。授業内課題は、採点した後に返却してフィードバックを行 う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床経験15年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が聴力検査についての理解を深め、臨床現場に繋がるよう実践的な講義、演習を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-06				
	●	●		●						
科目名	補聴器・人工内耳				単位 認定者	松谷 幸子 渡邊 弘人		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	補聴器及び人工内耳の仕組みとその臨床応用について理解を深める。聴覚障害は生じる時期に必要な支援が異なる。特に聴覚障害児については精神発達を理解し、発話機能も含めた教育的配慮を学修する必要がある。補聴器と人工内耳の仕組みについて学修を進め、その臨床応用を学ぶ。具体的には、使用する対象者を考慮し、補聴器・人工内耳を装着するまでの検査、評価の流れを解説し、装着を開始してからの必要な支援について理解を深める。									
到達目標	補聴器および人工内耳の仕組みとその臨床応用について理解を深める									
学修者への期待等	言語聴覚士が取り扱う専門領域の一つになる。聴覚障害領域の各講義との関連が深いので結び付けながら学習すること									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	聴覚障害とリハビリテーション。聴覚障害とは？ リハビリテーションの概要と言語聴覚士の役割					事前学修：言語聴覚士テキストp260-262事後学修はプリント確認		15	30	松谷 幸子
2	聴覚スクリーニング 新生児聴覚スクリーニング、乳幼児健診					事前学修：言語聴覚士テキストp327,P356事後学修はプリント確認		15	30	松谷 幸子
3	小児聴覚障害の検査と評価（１） 聴覚障害の評価の概要と検査の種類					事前学修：言語聴覚士テキストP324-328事後学修はプリント確認		15	30	松谷 幸子
4	小児聴覚障害の検査と評価（２） 乳幼児・学童の聴覚検査、言語・発達の評価					事前学修：言語聴覚士テキストp327-336事後学修はプリント確認		15	30	松谷 幸子
5	補聴器（１） 補聴器の仕組み 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと 事後学修：配布資料を確認し復習すること		30	60	渡邊 弘人
6	補聴器（２） 補聴器の適合 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと 事後学修：配布資料を確認し復習すること		30	60	渡邊 弘人
7	人工内耳（１） 人工内耳の仕組み					事前学修：言語聴覚士テキストp345-348事後学修はプリント確認		15	30	松谷 幸子
8	人工内耳（２） 人工内耳のマッピングとリハビリテーション					事前学修：言語聴覚士テキストp349-351事後学修はプリント確認		15	30	松谷 幸子
9	人工聴覚器 骨導インプラント、人工中耳、脳幹インプラントなど					事前学修：言語聴覚士テキストp351-353		15	30	松谷 幸子
10	小児聴覚障害の指導・訓練（１） 小児の発達と学習方法、プログラム立案					事前学修：言語聴覚士テキストp355-362事後学修はプリント確認		15	30	松谷 幸子
11	小児聴覚障害の指導・訓練（２） 乳児期、幼児期、学童期の指導 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと 事後学修：配布資料を確認し復習すること		30	60	渡邊 弘人
12	重複障害 視覚聴覚二重障害、重複障害の概要と評価・指導 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと 事後学修：配布資料を確認し復習すること		30	60	渡邊 弘人
13	拡大代替コミュニケーション 読話、キューサイン、指点字 適宜グループワークを行う					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと 事後学修：配布資料を確認し復習すること		30	60	渡邊 弘人

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
14	成人聴覚障害の聴覚評価、管理 成人の選別聴力検査、評価、聴覚管理 適宜グループワークを行う	事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと 事後学修：配布資料を確認し復習すること	30	60	渡邊 弘人
15	成人聴覚障害の特徴と支援、情報保障	事前学修：言語聴覚士テキストp363-370事後学修はプリント確認	15	30	松谷 幸子
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ グループワーク ）				
教科書	なし				
参考文献	『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』第2版 中村 公枝 他著 医学書院 『言語聴覚士のための聴覚障害学』 喜多村健(編) 医歯薬出版				
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、言語聴覚士として、15年以上の臨床経験がある。その経験を活かし、学生たちがこれまで学んで来た聴覚障害領域の知識・技術について、総括できるよう講義する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLH-02				
		●		●	●					
科目名	地域言語聴覚療法学Ⅱ				単位 認定者	江畑 綾 中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	15 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	地域言語聴覚療法学Ⅰで学んだ地域言語聴覚療法におけるサービスを基礎とし、失語症・高次脳機能障害・摂食嚥下障害などの実際、小児の地域生活を支えるシステムと支援の実際、さらには災害リハビリテーションについて学び、言語聴覚士の地域での役割について学修する。									
到達目標	・失語症・高次脳機能障害・摂食嚥下障害を持つ対象者への地域支援の実際を理解し、説明できる ・小児の地域生活を支えるシステムと具体的な支援方法を理解し、説明できる ・災害時における言語聴覚士の役割とリハビリテーション支援の実際を理解し、説明できる ・地域における多職種・多機関との連携方法を理解し、言語聴覚士としての役割を説明できる ・対象者とその家族の地域生活を支援するための具体的な方策を、事例に基づいて提案できる									
学修者への期待等	各障害領域における具体的な支援の実際や、小児から成人・高齢者まで幅広い対象者への地域支援、さらには災害時の対応まで、多様な場面での言語聴覚士の役割を理解してください。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	地域言語聴覚療法とは、地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度、多職種連携（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中川 大介
2	地域言語聴覚療法における失語症への対応（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中川 大介
3	地域言語聴覚療法における高次脳機能障害への対応（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中川 大介
4	地域言語聴覚療法における認知症への対応（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中川 大介
5	地域言語聴覚療法における摂食嚥下障害への対応（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
6	地域言語聴覚療法における発声発語障害への対応（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
7	小児の地域生活を支えるシステム、取り組み（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
8	災害リハビリテーション（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、グループディスカッション）									
教科書	『地域言語聴覚療法学』編集 半田理恵子 藤田郁代 医学書院									
参考文献	なし									
備考	授業内課題は採点后に返却しフィードバックを行う									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
言語聴覚士として5年以上の臨床経験あり。その経験を活かし、地域支援における言語聴覚療法の実践について講義する

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
						ST-2-CLT-02					
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価 の方法	実習先評価： 知識・人物・適正	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	4 単位		学内評価： 準備・報告書等	50	%
				授業形態	実習	授業時間数	180 時間				
						授業回数	- 回				
授業の概要	実習前指導と合わせ、学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能と考察する能力を向上させることを目的とする。対象者の多様なニーズを汲み取り、全体像を把握するため、臨床実習指導者の指導のもとより臨時的に観察し、必要な検査を実施し、神経心理学敵特徴など問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。さらに、カンファレンスへの参加やカルテの作成などを通じて臨床現場の多様な業務を理解する。 実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価を踏まえ今後の課題と目標について話し合う。										
到達目標	適切な検査法を選択・実施し、総合的な評価ができる。さらに評価内容をまとめ、的確に説明することができる。										
学修者への期待等	自らの足りないところを明確にし、次の努力目標としてほしい。										
授業計画						準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 1月4週～2月3週の間で3週 2. 実習の目的 学内において、言語聴覚障害の状態を把握するための評価方法などをグループワークなどを通じて学修を深める。実習施設において、学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能及び考察能力を向上させる。 3. 実習の目標（ねらい） 1) 治療プログラムの立案ができる。 2) 治療目標の設定ができる。 3) 言語病理学的診断を行い、問題点を抽出できる。 4. 実習計画 オリエンテーション 実習前8時間 実習後7時間 計15時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査を選択し実施する。 5) 長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 7) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。						事前学修：今まで学修してきた基礎科目、専門科目について、復習すること。特に評価実習において、患者様を評価することを念頭に人体のしくみや疾病とその治療方法、心理学、言語学、音声学、言語聴覚障害管理学、失語・高次脳機能障害学、言語発達障害学、発声発語・摂食嚥下障害学、聴覚障害学、地域言語聴覚療法学など、各領域について講義資料やしようしたテキストを用いて行うこと。 事後学修：評価実習を通じて学修した「評価の実践」、「治療プログラムの立案」、「治療目標」「言語病理学的診断、問題点の抽出」などについて、自分のまとめた症例報告書や症例報告会での他者の発表をもとに、担当した症例を振り返りを行うこと。			120	120	
教科書	特に指定しない。										
参考文献	適宜紹介する										
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が評価実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-3-SOC-01				
	●	●		●						
科目名	医療英会話と英文抄読				単位 認定者	小松 義隆 江畑 綾		評価の方法	授業内 課題等	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	2 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	国際化が進む現在、言語聴覚療法の現場や国際学会、海外の講師を招いた研修会などで、英会話が必要となる場面がある。本科目では、医療場面における会話のロールプレイを通してヒアリングとスピーチの能力を高める。また言語聴覚療法の臨床や、研究・研鑽の場面で、英語文献が必要になることがある。本科目では英語の学修を基礎として、言語聴覚領域の英語論文を読解する能力を身につけるため英文抄読について学修する。									
到達目標	医療場面における基本的な英会話表現を理解し、ロールプレイを通じて実践的に使用することができる 医療場面で必要とされる英語表現を用いて、簡潔かつ適切に話すことができる 英語論文の要旨 (Abstract) や主要な部分を読解し、内容を把握することができる									
学修者への期待等	本科目では、積極的に英会話のロールプレイに参加し、間違いを恐れずに発言することを期待します。また、英語論文の抄読を通じて、最新の研究成果や臨床知見に触れ、生涯学習の基盤を築いてください。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	Unit 1 受診の予約 (Dialogue～Listening Exercise)					事前学修：音声を聞きながらUnitの内容を予習 (p.7～12) 事後学修：学修した内容をまとめUNIPAに提出する。		60	30	小松 義隆
2	Unit 2 受診 (Dialogue～Listening Exercise)					事前学修：音声を聞きながらUnitの内容を予習 (p.13～21) 事後学修：学修した内容をまとめUNIPAに提出する。		60	30	小松 義隆
3	Unit 3 問診・医師による診断 (Dialogue～Listening Exercise)					事前学修：音声を聞きながらUnitの内容を予習 (p.22～27) 事後学修：学修した内容をまとめUNIPAに提出する。		60	30	小松 義隆
4	Unit 4 薬の服用 (Dialogue～Listening Exercise)					事前学修：音声を聞きながらUnitの内容を予習 (p.28～32) 事後学修：学修した内容をまとめUNIPAに提出する。		60	30	小松 義隆
5	Unit 5 薬の服用 (Dialogue～Listening Exercise)					事前学修：事前学修：音声を聞きながらUnitの内容を予習 (p.33～38) 事後学修：学修した内容をまとめUNIPAに提出する。		60	30	小松 義隆
6	Unit 6 胃の検査 (Dialogue～Listening Exercise)					事前学修：事前学修：音声を聞きながらUnitの内容を予習 (p.39～45) 事後学修：学修した内容をまとめUNIPAに提出する。		60	30	小松 義隆

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	Unit 7 検査結果・入院(Dialogue～Listening Exercise)	事前学修：事前学修：音声を聞きながらUnitの内容を予習(p. 46～49) 事後学修：学修した内容をまとめUNIPAに提出する。	60	30	小松 義隆
8	学修した医療英会話表現に関するテスト（筆記）	事前学修：これまで学修した医療英会話表現の復習。 事後学修：なし	60	0	小松 義隆
9	英文抄読の導入、研究論文とは、研究論文の構成	事前学修：研究論文を1つ読んでくること 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
10	言語聴覚療法に関連する英語文献の単語、文法など(聴覚障害)（グループワーク）	事前学修：英語のabstractを読んでくること 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
11	言語聴覚療法に関連する英語文献のreading(聴覚障害)（グループワーク）	事前学修：分からない単語を調べてくること 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
12	言語聴覚療法に関連する英語文献の単語、文法など(高次脳機能障害)（グループワーク）	事前学修：分からない単語を調べてくること 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
13	言語聴覚療法に関連する英語文献のreading(高次脳機能障害)（グループワーク）	事前学修：分からない単語を調べてくること 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
14	言語聴覚療法に関連する英語文献の単語、文法など(嚥下機能障害)（グループワーク）	事前学修：分からない単語を調べてくること 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
15	言語聴覚療法に関連する英語文献のreading(嚥下機能障害)（グループワーク）	事前学修：分からない単語を調べてくること 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『Introduction to Medical English』 稲富百合子・Dion Clingwall 2018 松柏社				
参考文献	TED-ed, japantoday.comなどネット上の英語記事				
備考	9～15回目 英和辞書を用意すること。課題・小テストは、採点後に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-05					
	●	●									
科目名	音と聴力				単位認定者	渡邊 弘人		評価の方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト（中間）	30	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数		15 回		
授業の概要	音とは物の振動がその振動を媒介するものによって伝えるものである。空気などの気体、水などの液体、氷などの固体など、様々なものが媒介となる。振動したものが聴覚として伝わることで、動物はそれを「音」と認識する。音の物理的側面を理解し専門的な知識を学ぶ基礎とする。										
到達目標	聴覚機構の解剖生理と各種聴覚検査、聴覚心理学的現象との関係を明確にし、理解を深める。										
学修者への期待等	国家試験にもよく出題される領域なので、積極的な受講を望む。										
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	外耳・中耳の解剖生理と純音聴力検査の関係、役割と意義（気導聴力検査） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	
2	外耳・中耳・内耳の解剖生理と純音聴力検査の関係、役割と意義（気導聴力検査と骨導聴力検査） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	
3	中耳機能検査 インピーダンスオージオメトリ検査の役割と意義 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	
4	中耳機能検査と聴覚生理との関係 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	
5	内耳機能検査 SISI検査とABLB検査の役割と意義 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	
6	自記オージオメトリ検査の役割と意義 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	
7	内耳機能検査と聴覚生理との関係～場所説と頻度説～ 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	
8	聴覚解剖・生理、各種検査のまとめ 小テストの実施					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと 事後学修：小テストの問題を使用して復習すること。			30	60	
9	内耳機能と聴覚生理（聴覚心理学・聴覚フィルタ） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	
10	ABR・ASSRの役割と意義 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。			30	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	乳幼児聴力検査：BOA、VRA、COR、ピープショウ、遊戯聴力検査 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
12	平衡機能検査：重心動揺検査、眼振検査 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
13	音の強さと音圧レベルの関係 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
14	聴覚心理学と聴力検査の関係 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
15	まとめ（重要ポイントの振り返り） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）			
教科書	「言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST専門科目」医歯薬出版 「言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST基礎科目」医歯薬出版			
参考文献	なし			
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

臨床経験15年以上の言語聴覚士が講義を担当する。臨床経験を活かし、学生が聴覚障害領域で必要となる知識、技術について理解を深め、臨床現場につながる講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-06				
	●	●								
科目名	運動生理学の基礎				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価 の方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	言語聴覚士が担当する構音や嚥下は運動であることを理解し、運動前後でどのように人体は変化するか、呼吸・筋・心臓・エネルギー産生など解剖・生理学を復習しながら安全で有効な言語聴覚療法を実現する基礎とする。									
到達目標	運動を、感覚・神経及び生理学的な側面から説明できる。									
学修者への 期待等	学習には、他者への説明や実験的な要素が含まれる。積極的に参加してほしい。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	恒常性とスポーツ 細胞外液とからだの内部環境				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
2	細胞外液の恒常性 グループワークを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
3	ATP合成① 3つのしくみとミトコンドリア グ ループワークを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
4	ATP合成② 合成速度と合成量 グループワークを 含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
5	ATP合成③ 解糖系は酸素を要することなくATPをつ くる グループワークを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
6	ATP合成④有酸素系は酸素を用いてATPをつくる。 グループワークを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
7	骨格筋の構造と働き① 筋原線維と運動 グループ ワークを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
8	骨格筋の構造と働き ② 持久性の高さとATPのつ くりかた。筋膜と腱 グループワークを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
9	呼吸器系とスポーツ 呼吸器の構造 グループワー クを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
10	呼吸器の働き グループワークを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
11	呼吸器系と運動トレーニング グループワークを含 む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30
12	心臓と血管の構造 グループワークを含む				事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるように すること				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
13	心臓と血管の働き グループワークを含む	事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるようにすること	30	30
14	体液の量と組成 グループワークを含む	事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるようにすること	30	30
15	血液の成分と働き グループワークを含む	事前学修：配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明ができるようにすること	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	『1から学ぶスポーツ生理学（第3版）』 中里 浩一 ナップ			
参考文献	『病気がみえるvol.7 脳と神経（第2版）』医療情報科学研究所 編 メディックメディア			
備考	課題は、次回講義時にフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として30年の臨床経験をもち、摂食嚥下障害や構音障害に運動生理学に基づいたセラピーを行ってきた。その経験を活かし、言語聴覚療法との関連を理解しやすいように講義する。

言語聴覚学科 2024年度以前入学生カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

【基礎力】

人間の尊厳について理解し、専門職としての基盤となる知識を身につけている。

①歴史や文化、現代社会についての教養を身につけ、人間としての在り方や、多様な生き方について理解できる。

②言語聴覚士としての基礎的な知識と、専門性を理解し応用できる能力を身につけている。

【実践力】

臨床現場において治療・援助・指導を行うための技術を身につけ、実践することができる。

①臨床現場で活用し得る幅広い知識と高度な技術を身につけている。

②言語聴覚士として、他者の心身の痛みや苦悩への共感を持ち、倫理観に基づいて行動することができる。

【人間関係力】

社会人また言語聴覚士として高いコミュニケーション能力を身につけ、他者と協働することができる。

①高いコミュニケーション能力と豊かな人間性を身につけ、他者の考えや立場を理解することができる。

②多職種連携の重要性を理解し、チーム医療の一員として他者と連携、協働することができる。

【生涯学習力】

多くの学問分野に接して幅広い見識と専門的知識と技術の向上を図ることができる。

①リハビリテーション専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。

②自己の専門領域を生涯にわたって、学術的に探求することができる。

【地域理解力】

地域社会における言語聴覚士の使命と役割を理解し、専門性を活かして地域に貢献することができる。

①地域に貢献する言語聴覚士としての専門性と責任を自覚し、積極的に行動することができる。

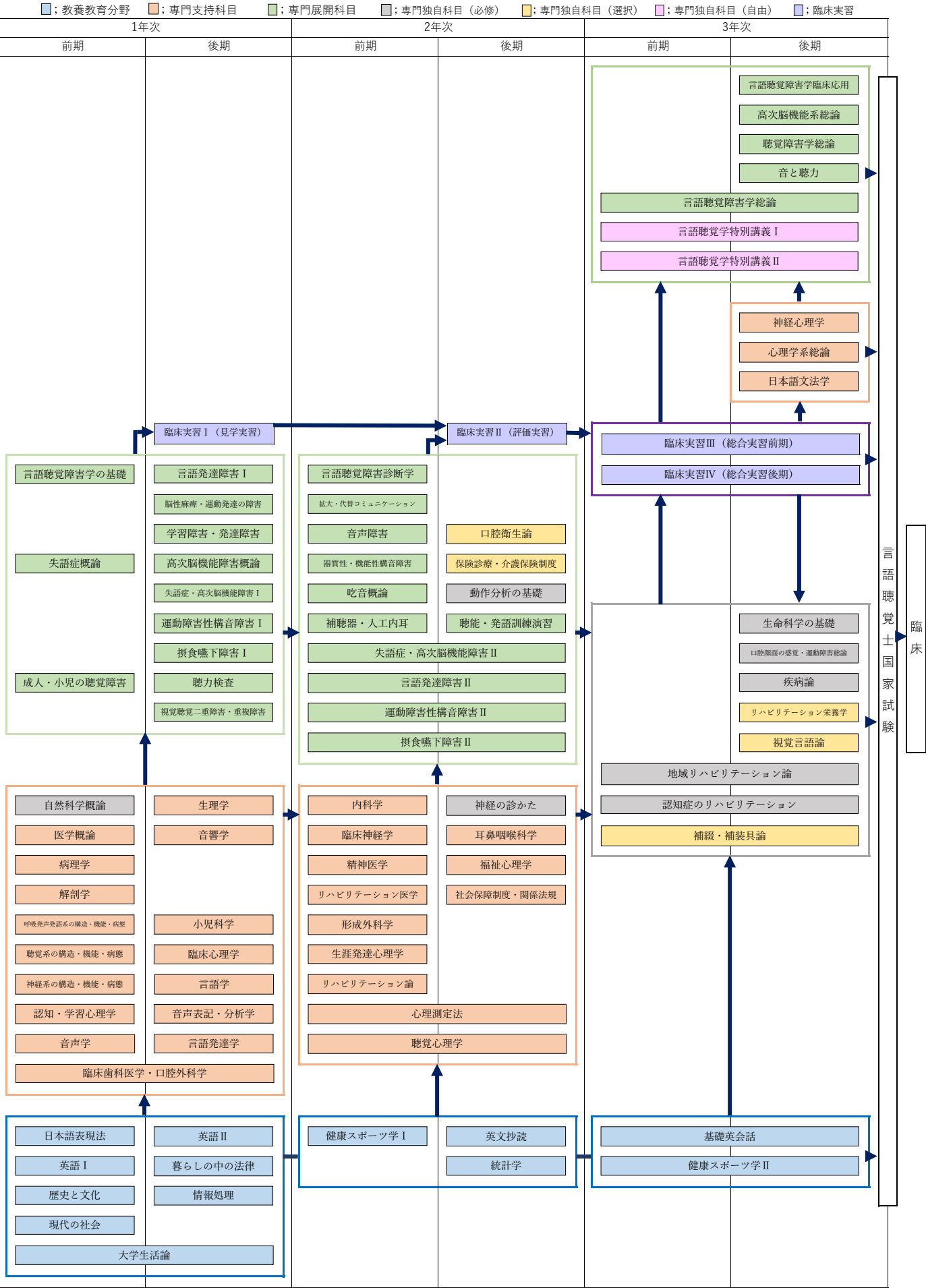
②進歩する医療と高齢社会の中で、時代や地域のニーズに応えることができる。

学修成果：1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。

●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分		授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果															単位数							
				1 年次					2 年次					3 年次					必修	選択	自由					
				前期	後期	1	2	3	4	5	前期	後期	1	2	3	4	5	前期				後期	1	2	3	4
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●		●	●															1		
		英語Ⅰ	15		○	●																		1		
		英語Ⅱ	15			○																		1		
		英文抄読	15								○		●		●									1		
		基礎英会話	10														○		●	●		●		1		
	人間と社会	歴史と文化	10		○		●																	1		
		現代の社会	10		○		●																	1		
		暮らしの中の法律	10			○	●																	1		
	人間と科学	大学生生活論	15			○	●			●	●													1		
		情報処理	15																					1		
統計学		15																					1			
健康スポーツ学Ⅰ		15								○	○	●	●		●								1			
健康スポーツ学Ⅱ		10															○		●		●		1			
専門教育分野	基礎医学	医学概論	15		○		●	●		●														1		
		病理学	15		○		●	●		●														1		
		解剖学	15			○	●	●		●														1		
		生理学	15				○	●	●		●													1		
	臨床医学	内科学	15								○		●		●									1		
		臨床神経学	15									○		●		●								1		
		小児科学	15			○	●	●		●														1		
		精神医学	15									○		●		●								1		
		リハビリテーション医学	15									○		●		●								1		
		耳鼻咽喉科学	15										○		●		●							1		
	臨床歯科医学	形成外科学	15									○		●		●								1		
		臨床歯科医学・口腔外科学	15			○		●	●		●													1		
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態	15			○		●	●		●													1		
	音声・言語・聴覚医学	聴覚系の構造・機能・病態	15			○		●	●		●													1		
		神経系の構造・機能・病態	15			○		●	●		●													1		
		臨床心理学	15			○		●	●	●	●													1		
	心理学	生涯発達心理学	15								○		●	●	●									1		
		神経心理学	15														○		●	●		●		1		
		心理測定法	15											●	●	●								1		
		福祉心理学	15											●	●	●								1		
	言語学	認知・学習心理学	15			○		●	●		●													1		
		心理学系総論	15														○		●		●			1		
		言語学	15			○		●	●		●													1		
	音声学	日本語文法学	15															○		●		●		1		
		音声学	15			○		●	●		●													1		
		音声表記・分析学	15				○		●	●		●												1		
	音響学	音響学	15			○		●	●		●													1		
		聴覚心理学	15								○		●		●									1		
		言語発達学	15			○		●	●		●													1		
	社会福祉・教育	社会保険制度・関係法規	15									○		●	●	●								1		
		リハビリテーション論	15										○		●		●							1		
		言語聴覚障害学の基礎	15			○		●		●														1		
言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学の基礎	15			○		●		●														1			
	言語聴覚障害学診断学	15								○		●		●									1			
	言語聴覚障害学総論	15														○		●		●			1			
	言語聴覚障害学臨床応用	15															○		●		●		1			
	失語症概論	15			○		●	●		●													1			
	高次脳機能障害概論	15				○	●	●		●													1			
	失語症・高次脳機能障害Ⅰ	15				○	●	●		●													1			
	失語症・高次脳機能障害Ⅱ	30																					2			
	高次脳機能系総論	15															○		●		●		1			
	言語発達障害Ⅰ	15			○		●		●														1			
言語発達障害学	言語発達障害Ⅱ	30															○		●		●		2			
	脳性麻痺・運動発達障害の障害	15			○		●		●														1			
	学習障害・発達障害	15			○		●		●														1			
	拡大・代替コミュニケーション	15									○		●	●	●								1			
発声発語・嚥下障害学	音声障害	15																					1			
	器質性・機能的構音障害	15									○		●		●								1			
	運動障害性構音障害Ⅰ	15			○		●		●														1			
	運動障害性構音障害Ⅱ	30									○		●	●	●								2			
	吃音概論	15																					1			
	摂食嚥下障害Ⅰ	15			○		●		●														1			
	摂食嚥下障害Ⅱ	30									○		●	●	●								2			
	成人・小児の聴覚障害	15			○		●		●														1			
聴覚障害学	聴能・発語訓練演習	15									○		●	●	●								1			
	聴力検査	15			○		●		●														1			
	視覚聴覚二重障害・重複障害	15			○		●		●														1			
	補聴器・人工内耳	15									○		●		●								1			
	聴覚障害学総論	15																					1			
	音と聴力	15															○		●		●		1			
臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	5日			○		●		●														1			
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	15日									○		●	●	●								3			
	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	20日																					4			
	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	20日																					4			
専門独自科目	自然科学概論	15			○		●																1			
	生命科学の基礎	15																					1			
	口腔顔面の感覚・運動障害総論	15																					1			
	地域リハビリテーション論	15																					1			
	認知症のリハビリテーション	15																					1			
	神経の診かた	15																					1			
	動作分析の基礎	15																					1			
	疾病論	15																					1			
	口腔衛生論	15																					1			
	リハビリテーション実習学	15																					1			
	保険診療・介護保険制度	15																					1			
	保険診療・介護保険制度	15																					1			
	視覚言語論	15																					1			
	補綴・補装具論	15																					1			
	言語聴覚学特別講義Ⅰ	30																					2			
	言語聴覚学特別講義Ⅱ	30																					2			



■科目名称、開講時期の変更に伴う読替対応表（言語聴覚学科）
（2024年度以前に入学の学生適用）

令和7年度入学生より、教育課程（カリキュラム）が変更になりましたが、令和6年度以前に入学した学生は、入学時の教育課程（カリキュラム）に基づき履修します。

ただし、以下にご留意ください。
令和6年度以前に入学した学生が、①令和7年度以降に1年次科目を再履修する場合 ②令和8年度以降に2年次科目を再履修する場合 ③令和9年度以降に3年次科目を再履修する場合 には、下記読替表に従って履修することとなります。

なお、不明な点は教員に相談し、特に再履修をする場合は履修間違いのないよう気を付けてください。

※網掛け部分は変更なしの科目です。

令和6年度以前に入学した学生の教育課程（カリキュラム）													令和6年度以前に入学した学生が再履修する場合の読替科目													旧カリキュラム履修者の履修方法		
科目区分		授業科目の名称	授業回数	履修年次						単位数			授業科目の名称	授業回数	履修年次						単位数							
				1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期						必修	選択	自由	前期	後期	前期				後期	前期			
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○						1			日本語表現法	15	○						1				変更なし			
		英語Ⅰ	15	○						1			英語	15	○						1				科目名称変更			
		英語Ⅱ	15		○					1			(科目廃止)												別途開講			
		英文抄読	15				○			1			(科目廃止)												別途開講			
	人間と社会	基礎英会話	10						○	1			(科目廃止)												別途開講			
		歴史と文化	10	○						1			歴史と文化	8	○						1				授業概要並びに授業回数の変更			
		現代の社会	10	○						1			現代の社会	8	○						1				授業概要並びに授業回数の変更			
		暮らしの中の法律	10		○					1			法律入門	8		○					1				科目名称並びに授業概要、授業回数の変更			
	人間と科学	大学生生活論	15		○					1			学習の基礎	8	○						1				科目名称並びに授業概要、配当時期、授業回数の変更			
		情報処理	15		○					1			情報処理	15		○					1				変更なし			
		統計学	15				○			1			統計と疫学	15				○			2				科目名称及び授業概要を変更。内容で不足する分は別途開講。読替で付与する単位数は1単位となる。			
		健康スポーツ学Ⅰ	15				○			1			運動生理学の基礎	15				○			2				科目名称並びに授業概要、配当時期の変更。内容で不足する分は別途開講。読替で付与する単位数は1単位となる。			
		健康スポーツ学Ⅱ	10						○	1			(科目廃止)												別途開講			
専門教育分野	専門支持科目	基礎医学	医学概論	15	○					1			医療概論	15	○						1				科目名称並びに授業概要の変更			
			病理学	15	○						1			病理学	15	○						1				変更なし		
			解剖学	15	○						1			解剖・生理学	15	○						1				科目名称並びに授業概要、配当時期の変更。不足する分は別途開講		
			生理学	15		○					1																	
		臨床医学	内科学	15				○			1			内科学	15				○			1				授業概要並びに配当時期の変更。内容で不足する分は別途開講		
			臨床神経学	15				○			1			臨床神経学	15				○			1				授業概要の変更		
			小児科学	15		○					1			小児科学	15		○					1				変更なし		
			精神医学	15				○			1			精神医学	15				○			1				変更なし		
			リハビリテーション医学	15				○			1			リハビリテーション医学	15				○			1				授業概要の変更		
			耳鼻咽喉科学	15					○		1			耳鼻咽喉科学	15					○		1				変更なし		
			形成外科学	15				○			1			形成外科学	15				○			1				変更なし		
		臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	15		○					1			臨床歯科医学・口腔外科学	15		○					1				変更なし		
		音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	15	○						1			呼吸発声発語系の構造・機能・病態	15	○						1				変更なし		
			聴覚系の構造・機能・病態	15	○						1			聴覚系の構造・機能・病態	15	○						1				変更なし		
			神経系の構造・機能・病態	15	○						1			神経系の構造・機能・病態	15	○						1				配当時期の変更		
		心理学	臨床心理学	15		○					1			臨床心理学	15				○			1				配当時期の変更		
			生涯発達心理学	15				○			1			生涯発達心理学	15					○		1				配当時期の変更		
	神経心理学		15						○	1			神経心理学	15						○	1				配当時期並びに授業概要の変更			
	心理測定法		15					○		1			心理測定法	15				○			1				変更なし			
	福祉心理学		15					○		1			(科目廃止)												別途開講			
	認知・学習心理学		15	○						1			認知・学習心理学	15		○					1				配当時期の変更			
	心理学系統論		15						○	1			(科目廃止)												別途開講			
	言語学	言語学	15		○					1			言語学	15		○					1				変更なし			
		日本語文法学	15						○	1			日本語文法学	8						○	1				授業回数並びに配当時期の変更			
	音声学	音声学	15	○						1			音声学	15	○						1				配当時期の変更			
		音声表記・分析学	15		○					1			音声表記・分析学	15		○					1				変更なし			
	音響学	音響学	15	○						1			音響学	15	○						1				配当時期の変更			
		聴覚心理学	15				○			1			聴覚心理学	15				○			1				授業概要の変更			
	言語発達学	言語発達学	15		○					1			言語発達学	15		○					1				変更なし			
	社会福祉・教育	社会保障制度・関係法規	15				○			1			社会保障・教育とリハビリテーション	15				○			1				科目名称並びに授業概要、配当時期の変更			
		リハビリテーション論	15				○			1			(科目廃止)												別途開講			
専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学の基礎	15	○						1			言語聴覚障害学の基礎	15	○						2				授業概要並びに配当時期の変更。読替で付与する単位数は1単位となる。			
		言語聴覚障害学診断学	15				○			1			言語聴覚障害学診断学	15				○			1				配当時期の変更			
		言語聴覚障害学総論	15						○	1			言語聴覚障害学総論	30							○	2			授業回数並びに授業概要の変更。読替で付与する単位数は1単位となる。			
		言語聴覚障害学臨床応用	15						○	1			(科目廃止)												別途開講			
		失語・高次脳機能障害学	失語症概論	15	○						1			失語症概論	30	○						2				授業概要並びに授業回数、配当時期の変更。読替で付与する単位数は1単位となる。		
			高次脳機能障害概論	15		○					1			高次脳機能障害学	15				○			1				科目名称並びに授業概要、配当時期の変更。内容で不足する分は別途開講		
			失語症・高次脳機能障害Ⅰ	15		○					1			失語症・高次脳機能障害	30				○			2				科目名称並びに授業概要、回数、配当時期の変更。不足する分は別途開講		
			失語症・高次脳機能障害Ⅱ	30				○			2																	
			高次脳機能系総論	15						○	1			(科目廃止)												別途開講		
		言語発達障害学	言語発達障害Ⅰ	15		○					1			言語発達障害学総論	30				○			2				科目名称並びに授業概要、回数、配当時期の変更。不足する分は別途開講		
			言語発達障害Ⅱ	30				○			2															科目名称並びに授業概要、授業回数の変更。内容で不足する分は別途開講。		
			脳性麻痺・運動発達の障害	15		○					1			脳性麻痺	8		○					1				科目名称並びに授業概要、授業回数の変更。内容で不足する分は別途開講。		
	学習障害・発達障害		15		○					1			学習障害・発達障害	15		○					1				変更なし			
	発声発語・嚥下障害学	拡大・代替コミュニケーション	15				○			1			拡大・代替コミュニケーション	15				○			1				配当時期の変更			
		音声障害	15				○			1			音声障害	30				○			2				授業回数並びに配当時期、授業概要の変更。読替で付与する単位数は1単位となる。			
		器質性・機能的構音障害	15				○			1			(科目廃止)												別途開講			
		運動障害性構音障害Ⅰ	15		○					1			運動障害性構音障害Ⅰ	15		○					1				授業概要の変更			
		運動障害性構音障害Ⅱ	30				○			2			運動障害性構音障害Ⅱ	30				○			2				授業概要の変更			
		吃音概論	15				○			1			吃音概論	15					○		1				授業概要の変更			
		摂食嚥下障害Ⅰ	15		○					1			摂食嚥下障害Ⅰ	15		○					1				配当時期並びに授業概要の変更			
		摂食嚥下障害Ⅱ	30				○			2			摂食嚥下障害Ⅱ	30				○			2				授業概要の変更			
	聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	15	○						1			成人・小児の聴覚障害	15	○						1				授業概要の変更			
		聴能・発語訓練演習	15					○		1			聴能・発語訓練演習	15					○		1				変更なし			
		聴力検査	15		○					1			(科目廃止)												別途開講			
		視覚聴覚二重障害・重複障害	15		○					1			視覚聴覚二重障害・重複障害	15		○					1				変更なし			
		補聴器・人工内耳	15				○			1			補聴															

言語聴覚学科 3年生

(2024年度入学生)

- 年間予定表
- シラバス

2026年度 言語聴覚学科3年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月				1	2	3 入学式	4
	5	6 オリエンテーション	7	8 健康診断	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29 昭和の日	30	1	2
5月	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
	10	11	12	13 臨床実習Ⅲ	14 臨床実習Ⅲ	15 臨床実習Ⅲ	16
	17	18 臨床実習Ⅲ	19 臨床実習Ⅲ	20 臨床実習Ⅲ	21 臨床実習Ⅲ	22 臨床実習Ⅲ	23
	24	25 臨床実習Ⅲ	26 臨床実習Ⅲ	27 臨床実習Ⅲ	28 臨床実習Ⅲ	29 臨床実習Ⅲ	30
	31	1 臨床実習Ⅲ	2 臨床実習Ⅲ	3 臨床実習Ⅲ	4 臨床実習Ⅲ	5 臨床実習Ⅲ	6
6月	7	8 臨床実習Ⅲ	9 臨床実習Ⅲ	10	11	12	13
	14	15	16	17 臨床実習Ⅳ	18 臨床実習Ⅳ	19 臨床実習Ⅳ	20
	21	22 臨床実習Ⅳ	23 臨床実習Ⅳ	24 臨床実習Ⅳ	25 臨床実習Ⅳ	26 臨床実習Ⅳ	27
	28	29 臨床実習Ⅳ	30 臨床実習Ⅳ	1 臨床実習Ⅳ	2 臨床実習Ⅳ	3 臨床実習Ⅳ	4
7月	5	6 臨床実習Ⅳ	7 臨床実習Ⅳ	8 臨床実習Ⅳ	9 臨床実習Ⅳ	10 臨床実習Ⅳ	11
	12	13 臨床実習Ⅳ	14 臨床実習Ⅳ	15	16	17	18
	19	20 海の日	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10 特別休暇	11 山の日	12 特別休暇	13 特別休暇	14 特別休暇	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5
9月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24	25	26
	27	28	29	30			

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 言語聴覚学科3年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12 スポーツの日	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3 文化の日	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
	29	30	1	2	3	4	5
12月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22 定期試験	23 定期試験	24 追試験	25 追試験	26
	27	28	29	30	31	1 元旦	2
1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11 成人の日	12 不合格者発表	13	14	15	16
	17	18 再試験	19 再試験	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
2月	7	8	9	10	11 建国記念日	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23 天皇誕生日	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
3月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17 卒業式	18	19	20
	21 春分の日	22 振替休日	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-0-HCU-03				
	●	●		●						
科目名	基礎英会話				単位 認定者	ジョーンズ ドミニク		評価の方法	授業内課題 (小テスト) 等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	言語聴覚療法の現場や国際学会、海外の講師を招いた研修会など、英会話が必要となる場面がある。本 科目では、英語でのあいさつや、基本的な会話、医療場面における会話のモデルなど、ロールプレイを通 してヒアリングとスピーチの能力を高める。									
到達目標	日常シーンから医療の現場まで、種々の場面で必要とされる基礎英会話力を養成する。 ゆっくりであれば、公共の場面で必要な英語を、聴いたり話したりすることが出来るようになる。 英語の基礎的な語彙や対話文を習得し、活用できるようになる。									
学修者への 期待等	毎回の授業に集中し、90分間のうちに問題を解決しましょう。グループ・ワークやロール・プレイなど の場面では、臆せず英語を声に出す姿勢を期待します。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	Unit 1 Talking about yourself ① Where are you from? グループワーク・ペアワー ク・ロール・プレイを中心に活動する					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
2	Unit 1 Talking about yourself ② What do you study? グループワーク・ペアワー ク・ロール・プレイを中心に活動する					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
3	Unit 4 Talking about daily life ① What do you usually do? グループワーク・ペア ワーク・ロール・プレイを中心に活動する Review Quiz(1)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
4	Unit 4 Talking about daily life ② When do you do things? グループワーク・ペア ワーク・ロール・プレイを中心に活動する					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
5	Unit 6 Describing People ① What do they look like? グループワーク・ペア ワーク・ロール・プレイを中心に活動する Review Quiz(2)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
6	Unit 6 Describing People ② What are they like? グループワーク・ペアワー ク・ロール・プレイを中心に活動する					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
7	Unit 9 Talking about the future ① What do you want to do in the future?グループ ワーク・ペアワーク・ロール・プレイを中心に活動 する Review Quiz(3)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
8	Unit 9 Talking about daily life ② What will happen in the future?グループワー ク・ペアワークを中心に活動する					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
9	Unit 10 Talking about the past ① What did you do? グループワーク・ペアワーク・ ロール・プレイを中心に活動する Review Quiz(4)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15
10	Unit 10 Talking about the past ② How did it happen? グループワーク・ペアワー ク・ロール・プレイを中心に活動する					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深 める			15	15

アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（練習、グループワーク、ロール・プレイ）
教科書	『The English Course Speaking Starter, 2nd Edition』 Gary Ireland, Max Woollerton著 The English Company
参考文献	授業内で指示する
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。遅刻は授業開始10分以内とする。状況により、遠隔授業に変更する場合がある。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-0-HSC-03				
		●		●						
科目名	健康スポーツ学Ⅱ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価の 方法	試験(筆記・レ ポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	健康増進や体力増進等に関する運動の効果とその方法について、データと生理学から学ぶ。また、生活習慣病と運動や食生活の関係、疾病の状態や健康の状態、加齢による体力の衰えなどによる運動の選択などに関しても具体的に学んでいく。さらに、運動療法の背景として運動学習の基礎について学ぶ。またリズム運動や軽度な運動を自ら体験し、介護予防の場面で運動指導を行えるよう、留意点も踏まえて学修する。									
到達目標	運動の効果を理論的に理解し、説明ができる。また、介護予防の場面で適切な運動を提案できることを目標とする。									
学修者への 期待等	運動にかかわるセラピストの一人としての実感を持ってほしい。積極的な参加を望む。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	体液・血液とスポーツ グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
2	神経組織とスポーツ①中枢神経と末梢神経 グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
3	神経組織とスポーツ②神経細胞と筋肉 グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
4	神経組織とスポーツ③中枢神経と運動 グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
5	内分泌系とスポーツ①内分泌とは グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
6	内分泌系とスポーツ②内分泌系と運動とトレーニング グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
7	循環器系とスポーツ①心臓と血管の構造 グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
8	循環器系とスポーツ②心臓と運動トレーニング グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
9	ウェイトコントロール 身体組成 グループ討議を含む グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
10	ウェイトコントロール 減量と増量 グループ討議を含む グループ討議を含む					事前学修：テキスト該当ページに目を通して おくこと 事後学修：再読し説明できるようにすること			30	30
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ グループ討議									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として30年以上の臨床経験をもち、摂食嚥下や運動障害性構音訓練のトレーニングに運動生理学を重視してきた。その経験を活かし、学生が言語聴覚療法の運動訓練について理解が深まるよう実践的な講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-PCL-03				
	●	●		●						
科目名	神経心理学				単位認定者	中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	大脳の構造（脳溝・脳回・脳葉とその細部）と機能について学ぶ。画像を撮影する装置（CT、MRI、SPECTなど）の特徴を知る。言語聴覚療法を行う上で、直面する頻度の高い、脳画像の読影の知識を修得する。正常例を基に水平断、冠状断、矢状断から部位を同定できるように学ぶ。脳画像に関しては、各高次脳機能障害、各失語症に対応する画像の見方について学修し、実際の同定を行う。									
到達目標	リハビリテーション実施に必要な脳・神経の症状、症状の観察ポイント・観察方法、評価・分析、訓練、予後予測などにつなげるための考え方について理解を深める									
学修者への期待等	2年次に学んだ「神経の診かた」から各脳画像（CT、MRI）の特徴や各障害や症状がどのように現れるかを理解する。医療職として広い分野に関連する重要な科目である。しっかり復習して臨んでほしい。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	中枢神経系の構造・機能①（大脳）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読み、構造を大まかに理解すること。 事後学修：講義資料を復習すること			30	60
2	中枢神経系の構造・機能②（脳葉）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読み、構造を大まかに理解すること。 事後学修：講義資料を復習すること			30	60
3	中枢神経系の構造・機能③（間脳、視床など）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読み、構造を大まかに理解すること。 事後学修：講義資料を復習すること			30	60
4	中枢神経系の構造・機能④（大脳基底核など）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読み、構造を大まかに理解すること。 事後学修：講義資料を復習すること			30	60
5	中枢神経系の構造・機能⑤（大脳辺縁系など）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読み、構造を大まかに理解すること。 事後学修：講義資料を復習すること			30	60
6	小脳の構造・機能、脳神経（Ⅰ-Ⅵ）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読み、構造を理解すること。また、脳神経の役割について予習すること。 事後学修：講義資料を復習すること			60	60
7	脳神経（Ⅶ-Ⅻ）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読み、構造を理解すること。また、脳神経の役割について予習すること。 事後学修：講義資料を復習すること			60	60
8	脳血管（灌流域、走行）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：教科書の該当箇所を読み、わからない語を調べておくこと。 事後学修：講義資料を復習すること			30	60
9	脳画像（1）CT、MRIの特徴（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：脳画像の種類について調べ、その特徴を把握しておくこと。 事後学修：講義資料を復習すること。			30	60
10	脳画像（2）水平断①（健常例の読影、病巣）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：脳画像の種類について調べ、その特徴を把握しておくこと。 事後学修：講義資料を復習すること。			30	60
11	脳画像（3）水平断②（病巣と症状）（適宜グループワーク、ディスカッションを行う）					事前学修：脳画像の種類について調べ、その特徴を把握しておくこと。 事後学修：講義資料を復習すること。			30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
12	脳画像 (4) 冠状断① (健常例の読影、病巣) (適宜グループワーク、ディスカッションを行う)	事前学修：脳画像の種類について調べ、 その特徴を把握しておくこと。 事後学修：講義資料を復習すること。	30	60
13	脳画像 (5) 冠状断② (病巣と症状) (適宜グループワーク、ディスカッションを行う)	事前学修：脳画像の種類について調べ、 その特徴を把握しておくこと。 事後学修：講義資料を復習すること。	30	60
14	脳画像 (6) 矢状断① (健常例の読影、病巣) (適宜グループワーク、ディスカッションを行う)	事前学修：脳画像の種類について調べ、 その特徴を把握しておくこと。 事後学修：講義資料を復習すること。	30	60
15	脳画像 (7) 矢状断① (病巣と症状) (適宜グループワーク、ディスカッションを行う)	事前学修：脳画像の種類について調べ、 その特徴を把握しておくこと。 事後学修：講義資料を復習すること。	30	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード (ディスカッション、グループワーク)			
教科書	『CD-ROMでレッスン 脳画像の読み方 (最新版)』石原 健司著 医歯薬出版 『病気がみえるvol.7 脳と神経 (最新版)』医療情報科学研究所 編 メディックメディア			
参考文献	なし			
備考	授業内で実施した課題については、採点后に返却する。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、15年以上の臨床経験あり。脳卒中など中枢神経疾患に対するリハビリテーションを実施した。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-1-PCL-07				
		●		●						
科目名	心理学系総論				単位 認定者	渡邊 弘人 江畑 綾		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト（中間）	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	心理学は行動と心的処理過程の科学である。我々の行動と心的世界は極めて多様であるために心理学の領域も広汎であり、多くのアプローチが存在する。言語聴覚士は心理的な葛藤や、脳損傷による知覚・認知・学習の困難、発達に問題を抱えるさまざまな年齢層の人々を担当する職業であることから、心理学の素養が欠かせない。生涯発達心理学や臨床心理学をはじめ、福祉心理学、高次脳機能の基盤となる脳の領域に踏み入った神経心理学、知覚、学習と記憶、思考、理解等を研究する認知心理学、さらには心理現象を把握するために用いる統計的な研究手法を学ぶ心理測定法など、これまで学んできた心理学を包括的に概観し、それぞれのポイントと相互関連性について学修する。									
到達目標	心理学は多岐にわたる領域である。特に言語聴覚士が理解しておかなければならない生涯発達心理学、認知学習心理学、聴覚心理学、心理測定法などについて再度確認し、学修を深める。									
学修者への期待等	国家試験にも出題される重要な分野であるため、1.2年生で学んだ本領域の知識を再確認し、理解を深めてほしい。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	認知学習心理学① 古典的条件付けと道具的条件付け 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
2	認知学習心理学② 学習と思考 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
3	認知学習心理学③ 知覚 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
4	認知学習心理学④ 記憶 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
5	聴覚心理学① 音の心理学単位 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
6	聴覚心理学② 音の心理的現象 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
7	心理測定法① 測定法 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	認知・学習心理学、聴覚心理学、心理測定法のまとめ 小テストを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：小テスト問題を復習すること。	30	60	渡邊 弘人
9	生涯発達心理学① 研究法 グループワーク・ディスカッション	事前学修：テキストの関連箇所を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
10	生涯発達心理学② 研究法と新生児期 グループワーク・ディスカッション	事前学修：テキストの関連箇所を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
11	生涯発達心理学③ 幼児期・児童期 グループワーク・ディスカッション	事前学修：テキストの関連箇所を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
12	生涯発達心理学④ 青年期から老年期 グループワーク・ディスカッション	事前学修：テキストの関連箇所を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
13	臨床心理学① 心理検査 グループワーク・ディスカッション	事前学修：テキストの関連箇所を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
14	臨床心理学② 行動療法・認知行動療法 グループワーク・ディスカッション	事前学修：テキストの関連箇所を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
15	臨床心理学③ 心理療法 グループワーク・ディスカッション	事前学修：テキストの関連箇所を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）				
教科書	『2027年版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2026 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2026 ST基礎科目』医歯薬出版				
参考文献	なし				
備考	課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、言語聴覚士として、15年以上の臨床経験がある。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚療法に特に関わる心理学領域について、理解を深め、臨床現場につながる講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●		●		ST-1-LGS-02					
科目名	日本語文法学				単位 認定者	阪口 慧		評価の 方法	試験(筆記)	80	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数		15 回		
授業の概要	失語症や言語発達など、言語の障害と発達のリハビリテーションのために、日本語文法の理解は欠かせない。本講義では、言語学で学んだ統語論を、日本語に特化して学んでいく。言葉の単位として文章一段落一文一文節一単語を学び、文や文節の成分がどのように関わって文を組み立てているのかを学修する。品詞は、動詞（活用や種類を含む）、形容詞、形容動詞、名詞（代名詞）、副詞、連体詞、接続詞及び感動詞、さまざまな助動詞については、その意味や活用、接続の仕方を学修する。助詞は格助詞、接続助詞、副助詞及び終助詞の四種類に分類し、品詞の見分けがつきにくい語については、特にその判別の仕方を学ぶ。さらに敬語について、尊敬語、謙譲語及び丁寧語の三つの種類に分けて学んでいく。										
到達目標	日本語文法を中心に学習し、言語学、音声学の総体的な知識を習得する。										
学修者への期待等	・日本語を中心に日本語の文法、言語学的知識、音声学の知識を習得することを目指す。言語聴覚士国家試験で出題されるトピックを中心に、問題を解くために必要な言語学的・音声学の知識がどのようなものかを説明する。また、概念の理解度を確認するために、アクティブラーニングの一環としてペアワーク、グループワークを行うため、学修者には積極的な議論への参加を通して、言語学・音声学の理解度を高めることが期待される。 ・前回授業の復習と次回授業の予習、1～2年次で学習した内容の振り返りで60分程度の準備学修を期待する。										
回	授業計画					準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	ガイダンス 言語聴覚士に必要な日本語文法・言語学・音声学の知識					事前学修：シラバス確認＋苦手分野3点と到達目標を設定 事後学修：全体像を200字要約し、用語リスト10語＋復習計画を作る				60	30
2	日本語の音声学・音韻論(1)（音素・異音） 講義の知識をもとに分析演習を実施（過去問）					事前学修：音素・異音、最小対を予習し最小対5組を探す 事後学修：重要語10語を例付きで整理し、最小対を3組自作して確認				60	30
3	日本語の音声学・音韻論(2)（モーラ・音節） 講義の知識をもとに分析演習を実施（過去問）					事前学修：モーラと音節の違いを予習し単語20語のモーラ数を数える 事後学修：短文5文をモーラ単位に区切り、つまずき点を1つ言語化				60	30
4	日本語の音声学・音韻論(3)（アクセント） 講義の知識をもとに分析演習を実施（過去問）					事前学修：アクセント核・高低の基本を予習し単語10語の型を調べる 事後学修：単語10語を録音→型と一致するか自己評価し修正点をメモ				60	30
5	日本語の音声学・音韻論(4)（音韻現象） 講義の知識をもとに分析演習を実施（過去問）					事前学修：代表的音韻現象を予習し例語を各2つ集める 事後学修：環境条件まで書き足し、現象ごとに1行ルールを作る				60	30
6	日本語の形態論・語構成(1)（形態素・複合語） 講義の知識をもとに分析演習を実施（過去問）					事前学修：形態素と複合語を予習し複合語10語の切れ目を考える 事後学修：10語を形態素分割し、境界の根拠を各1行で説明				60	30
7	日本語の形態論・語構成(2)（語構成のプロセス） 講義の知識をもとに分析演習を実施（過去問）					事前学修：派生・複合・借用・短縮等を予習し各3例集める 事後学修：分類表に整理し、迷う語3つの理由を言語化				60	30
8	日本語の形態論・語構成(3)（品詞） 講義の知識をもとに分析演習を実施（過去問）					事前学修：品詞分類基準を予習し短文5文に品詞ラベル付け 事後学修：基準に沿って修正し、誤りやすい品詞の注意点を3点整理				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
9	日本語の文法(1)(活用・音便) 講義の知識をもとに分析演習を実施(過去問)	事前学修:活用体系と音便を予習し動詞10語の活用表を作る 事後学修:指定形(連用形・テ形等)変換練習を行い誤りを修正して保存版化	60	30
10	日本語の文法(2)(助詞・節) 講義の知識をもとに分析演習を実施(過去問)	事前学修:助詞分類と節の基本を予習し助詞で意味が変わる例文を3つ作る 事後学修:例文を改善し、誤用が及ぼす影響(意味/文法/語用)を各1行で整理	60	30
11	日本語の文法(3)(敬語・正用と誤用) 講義の知識をもとに分析演習を実施(過去問)	事前学修:敬語3分類と誤用例を予習し誤用5例を修正してみる 事後学修:平叙文10文を場面別に敬語化し、選択理由を1文添える	60	30
12	言語学的知識の補完(1)(理論言語学・社会言語学) 講義の知識をもとに分析演習を実施(過去問)	事前学修:理論言語学/社会言語学の基本用語10語を定義下書き 事後学修:定義を更新し、臨床での関連(評価・配慮点)を2例追記	60	30
13	言語学的知識の補完(2)(認知言語学・カテゴリ) 講義の知識をもとに分析演習を実施(過去問)	事前学修:カテゴリ化・プロトタイプ等を予習し身近なカテゴリで例を考える 事後学修:語彙/意味訓練に応用できる課題案を3つ作り狙いを明記	60	30
14	言語学的知識の補完(3)(言語学一般) 講義の知識をもとに分析演習を実施(過去問)	事前学修:言語学一般を概観し国家試験で問われそうな論点10個メモ 事後学修:重要語・論点を1枚に統合しセルフ小テスト10問を作って解く	60	30
15	全体総括と復習(及び模擬試験解説と検討)	事前学修:模擬/国家試験問題を解き、誤答と質問3点を整理 事後学修:誤答を原因分類し、最終復習リストを優先順で作成	60	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり:キーワード(分析演習)			
教科書	プリントにて対応(PDFなどを配布する)			
参考文献	・言語学基本問題集(佐久間淳一編 研究社) ・これから始める人のための入門書 言語学入門(佐久間淳一・加藤重広・町田健 著 研究社)			
備考	授業の進度や学修者の理解状況で順序や内容を変更することがあります。 課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-LSG-03				
		●		●						
科目名	言語聴覚障害学総論				単位 認定者	渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	実習を経て評価の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、その評価に必要な知識を総括する。本講義では、原疾患である神経疾患、呼吸器・循環器疾患、悪性新生物、遺伝子疾患などの病態理解とともに、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、構音障害の言語病理学的症状、聴覚障害や摂食嚥下障害について、検査法の基本的な名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施できる知識を横断的にとらえ直す。									
到達目標	言語聴覚士の専門領域について、臨床実習で経験した内容と知識を結び付け、理解を深める。									
学修者への期待等	患者、利用者から学ばせてもらったことを最大限活かせるよう、積極的に講義に臨んでもらいたい。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	障害を引き起こす疾患① 脳血管障害～嚥下障害～ 症例検討 適宜ディスカッションを行う					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
2	脳血管障害～嚥下障害～ 他職種との症例検討（合同講義） カンファレンスを想定したディスカッション					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人 佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
3	脳血管障害～嚥下障害～ 他職種との症例検討（合同講義） 評価・初回対応のグループ発表					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人 佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
4	障害を引き起こす疾患② 神経変性疾患 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	中川 大介
5	障害を引き起こす疾患③ 悪性新生物 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	中川 大介
6	悪性新生物が引き起こす運動系障害の概説 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	中川 大介
7	障害を引き起こす疾患④ 遺伝子疾患 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	遺伝子疾患が引き起こす聴覚障害の概説と検査 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	渡邊 弘人
9	言語発達障害に対する検査の名称と意義① 実施方 法について(適宜グループワーク・ディスカッショ ン)	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	江畑 綾
10	言語発達障害に対する検査の名称と意義② 実施方 法について(適宜グループワーク・ディスカッショ ン)	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	江畑 綾
11	言語発達障害に対する検査の名称と意義③ 実施方 法について(適宜グループワーク・ディスカッショ ン)	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	江畑 綾
12	発声発語に対する検査の名称と意義、実施方法(グ ループワーク、ディスカッション)	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	江畑 綾
13	嚥下障害に対する検査の名称と意義、実施方法(グ ループワーク、ディスカッション)	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	江畑 綾
14	高次脳機能障害に対する検査の名称と意義① 実施 方法について(適宜グループワーク・ディスカッ ション)	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	中川 大介
15	高次脳機能障害に対する検査の名称と意義② 実施 方法について(適宜グループワーク・ディスカッ ション)	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	中川 大介
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション 演習）				
教科書	なし				
参考文献	① 『言語聴覚士国家試験必修ポイント2026 ST専門科目』 医歯薬出版株式会社 ② 『言語聴覚士国家試験必修ポイント2026 ST基礎科目』 医歯薬出版株式会社				
備考	授業内課題は、採点后に返却しフィードバックを行う。 2、3回は歯科衛生学科「口腔リハビリテーション演習」と合同で講義を行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、言語聴覚士として、15年以上の臨床経験がある。その経験を活かして、学生が言語聴覚障害に関わる領域について総括できるよう講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●		ST-2-LSG-04				
科目名	言語聴覚障害学臨床応用				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 江畑 綾		評価の 方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	実習を経て訓練の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、訓練に必要な知識を総括する。本講義では、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、発声発語障害などの言語病理学的な症状や摂食嚥下障害について、対応し得る訓練法の名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施するための知識と手技をとらえ直す。									
到達目標	臨床実習で経験したリハビリテーション方法について、各専門領域ごと訓練法の知識と結び付け、理解を深める。									
学修者への期待等	臨床実習で学んだことを醸成するためには、積極的に学ぶ姿勢が大切である。国家試験にも関連する内容のため欠席せずに受講してもらいたい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	発声発語器官の解剖				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	櫻庭ゆかり	
2	発声発語器官の神経				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	櫻庭ゆかり	
3	発声発語器官の感覚				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	櫻庭ゆかり	
4	発声発語器官の感覚・運動障害				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	櫻庭ゆかり	
5	発声発語器官の運動障害 グループワークを行う。				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	櫻庭ゆかり	
6	聴覚障害の評価① 外耳・中耳 適宜ディスカッションを行う。				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊弘人	
7	聴覚障害の評価② 内耳 適宜ディスカッションを行う。				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊弘人	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	聴覚障害の対応① 補聴器 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	渡邊弘人
9	聴覚障害の対応② 人工内耳 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	渡邊弘人
10	失語症① 病巣、症状 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	渡邊弘人
11	失語症② 検査・評価、分析、訓練 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	渡邊弘人
12	高次脳機能障害 病巣、症状 評価・検査、訓練 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料 を読み、問題を解く こと。 事後学修：提示資料 と配布資料を確認 し、復習すること。	30	60	渡邊弘人
13	小児の発達 言語機能、運動、心理	事前学修：関連教科 書を読むこと 事後学修：関連過去 問題を解くこと	30	60	江畑綾
14	言語発達遅滞① 疾病分類、病態	事前学修：関連教科 書を読むこと 事後学修：関連過去 問題を解くこと	30	60	江畑綾
15	言語発達遅滞② 評価、分析、検査、訓練	事前学修：関連教科 書を読むこと 事後学修：関連過去 問題を解くこと	30	60	江畑綾
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）				
教科書	なし				
参考文献	『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3 年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定				
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、言語聴覚士として、20年以上の臨床経験がある。経験を活かし、学生が学んできた基本的な言語聴覚療法よりも臨床を意識した講義を行い、臨床現場につながるように展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-AHB-05				
		●		●						
科目名	高次脳機能系総論				単位認定者	平山 和美 中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	「失語症概論」、「高次脳機能障害概論」、「失語症・高次脳機能障害Ⅰ」、「失語症・高次脳機能障害Ⅱ」で学修した各論の内容を総括する。高次脳機能障害は脳の病変によって生じる多様な障害である。これらの障害を呈することは、日常・社会的コミュニケーションを行う上で大きな影響を与え、QOLの低下に密接にかかわる。人の認知・行動と高次脳機能の関係について学修するとともに、それぞれの、あるいは合併した障害が対象者の生活にどのような弊害を及ぼすか、脳の局在も含めて総合的に理解する。									
到達目標	高次脳機能障害領域の症状や機序、評価法について説明できる。病態に応じたリハビリテーションを立案できる。									
学修者への期待等	各病態を大きな枠の中に整理し直して、よく理解することに務めてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	総論（基本的な考え方と注意点）				事前学修：教科書第1章を 読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
2	視覚認知の障害（対象認知）				事前学修：教科書第17章から 26章を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
3	視覚認知の障害（空間、行為関わる認知）				事前学修：教科書第27章から 31章を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
4	聴覚認知の障害				事前学修：教科書第32章から 37章を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
5	体性感覚認知の障害				事前学修：教科書第38章から 43章を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
6	身体意識・病態認知の障害				事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
7	行為の実行の障害				事前学修：教科書第44章から 51章を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
8	行為の抑制の障害				事前学修：教科書第52章から 59章を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
9	出来事記憶の障害				事前学修：教科書第60章から 61章および63章から68章 を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	
10	言語性短期記憶・意味記憶、記憶障害の診察				事前学修：教科書第62章および 69章から72章を読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
11	器質的な疾患に伴う幻覚と錯覚	事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない	30	0	平山 和美
12	器質的な疾患に伴う妄想	事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない	30	0	平山 和美
13	前頭葉関連症状：感情・意欲・遂行機能の障害	事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない	30	0	平山 和美
14	失語以外の高次脳機能障害の総括	事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない	30	0	平山 和美
15	失語症の総括 適宜グループワークを行う	事前学修：失語症の部分を復習しておくこと 事後学修：授業内で行ったところを復習すること	60	60	中川 大介
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	「高次脳機能障害の理解と診察」 平山 和美編著 中外医学社				
参考文献	言語聴覚士国家試験 ST専門基礎科目 医歯薬出版				
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員の一人は、脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-06					
		●		●	●						
科目名	聴覚障害学総論				単位 認定者	渡邊 弘人		評価の 方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト （中間）	30	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数		15 回		
授業の概要	各聴覚障害領域の総まとめとして、今まで学んできた各論をつなげて横断的に学修し、聴覚障害領域についての理解を深める。聴覚障害を引き起こす疾患が聴器のどの部分に影響を及ぼすのか、解剖学的、生理学的に理解を深める。特に伝音難聴や感音難聴では原因による症状が異なるため、聴器メカニズムの深い理解を要する。聴覚障害を補償するための方法として補聴器や人工内耳が挙げられるが、年代によって聴覚障害者への支援が異なるため、総合的な聴覚領域のリハビリテーション支援について理解を深めていく。										
到達目標	聴覚領域を理解するためには欠かすことのできない解剖生理と疾患を結び付けて理解を深める。										
学修者への 期待等	国家試験領域でもよく出題される領域なので復習をしっかりと行い、積極的に受講してほしい。										
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)	
1	伝音機構に障害を及ぼす疾患① 外耳の症状と解剖と生理との関係 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	
2	伝音機構に障害を及ぼす疾患② 中耳の症状と解剖と生理との関係 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	
3	伝音機構に障害を及ぼす疾患③ 外耳・中耳の遺伝性疾患 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	
4	感音機構に障害を及ぼす疾患① 内耳の症状と解剖と生理との関係 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	
5	感音機構に障害を及ぼす疾患② 内耳の遺伝性疾患 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	
6	感音機構に障害を及ぼす疾患③ 内耳の薬物性疾患 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	
7	伝音・感音機構に影響するウイルス・感染症疾患 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	
8	伝音・感音機構に影響する外耳・中耳・内耳疾患 まとめ（小テストを実施する。）					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：小テストの問題を復習すること。			30	60	
9	後迷路性障害を引き起こす疾患 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	
10	補聴器の仕組み、周波数特性測定と調整、補聴援助システム 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。			30	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	人工聴覚器（人工内耳・人工中耳・BAHA） 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。	30	60
12	成人の聴覚障害の特徴と支援 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。	30	60
13	小児の聴覚障害の特徴と支援 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。	30	60
14	視覚聴覚二重障害・重複障害に対する評価、支援 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。	30	60
15	外耳・中耳・内耳・後迷路性疾患、補聴器、人工内耳、成人・小児の聴覚障害 まとめ 適宜ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料の該当箇所を読むこと。 事後学修：配布資料と提示資料を用いて復習すること。	30	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）			
教科書	『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2026 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2026 ST基礎科目』医歯薬出版			
参考文献	なし			
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は、言語聴覚士として、15年以上の臨床経験がある。その経験を活かし、学生たちがこれまで学んで来た聴覚障害領域の知識・技術について、総括できるよう講義する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-07				
		●		●						

科目名	音と聴力				単位 認定者	渡邊 弘人		評価の 方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト （中間）	30	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数		15 回		

授業の概要	聴覚検査の構成は、音刺激を耳が受信し、その反応を計測することで得られる。すなわち音の性質と耳の性質の両方の特性を利用したものである。そのため両方の理解を深めることで臨床像の把握ができる。本講義では、外耳・中耳・内耳に音が入力されたときの増強作用と聴覚フィルタ理論、強音に対する防御作用、後迷路性で起こる音の周波数分析とカクテルパーティー効果、両耳聴効果などについての理解を深め、音と聴力を双方向的に総括する。										
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

到達目標	聴覚機構の解剖生理と各種聴覚検査、聴覚心理学的現象との関係を明確にし、理解を深める。										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

学修者への期待等	国家試験にもよく出題される領域なので、積極的な受講を望む。										
----------	-------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	授業計画					準備学修					事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	外耳・中耳の解剖生理と純音聴力検査の関係、役割と意義（気導聴力検査） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60
2	外耳・中耳・内耳の解剖生理と純音聴力検査の関係、役割と意義（気導聴力検査と骨導聴力検査） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60
3	中耳機能検査 インピーダンスオージオメトリ検査の役割と意義 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60
4	中耳機能検査と聴覚生理との関係 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60
5	内耳機能検査 SISI検査とABLB検査の役割と意義 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60
6	自記オージオメトリ検査の役割と意義 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60
7	内耳機能検査と聴覚生理との関係～場所説と頻度説～ 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60
8	聴覚解剖・生理、各種検査のまとめ 小テストの実施					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：小テスト問題を使用し、復習すること。					30	60
9	内耳機能と聴覚生理（聴覚心理学・聴覚フィルタ） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60
10	ABR・ASSRの役割と意義 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。					30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	乳幼児聴力検査：BOA、VRA、COR、ピープショウ、遊戯聴力検査 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
12	平衡機能検査：重心動揺検査、眼振検査 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
13	音の強さと音圧レベルの関係 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
14	聴覚心理学と聴力検査の関係 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
15	まとめ（重要ポイントの振り返り） 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）			
教科書	「言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST専門科目」 医歯薬出版 「言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST基礎科目」 医歯薬出版			
参考文献	なし			
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

臨床経験15年以上の言語聴覚士が講義を担当する。臨床経験を活かし、学生が聴覚障害領域で必要となる知識、技術について理解を深め、臨床現場につながる講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-03					
		●	●	●							
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価の方法	実習先評価： 知識・人物・適正	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位		学内評価： 準備・報告書等	50	%
						授業時間数	180 時間				
					授業形態	実習	授業回数		- 回		
授業の概要	診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。										
到達目標	指導者の指導の下、評価（方法の選択、問題点抽出など）、目標設定、訓練（プログラムの立案、プログラムの実施、介入考察）を実施できること。										
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってもらいたい。そのうえで、今後の学修における努力目標を明確にできることを期待する。										
授業計画						準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 5月3週～6月2週の間で4週 2. 実習の目的 学内において、グループワークを通じて、評価内容や訓練プログラムを深め、より良い訓練内容、支援について考察する。臨床施設においては、診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、治療の実施から効果判定までの臨床課程を経験する。 3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、評価方法を選択し、実施できる。 2) 問題点を抽出し、ICFに基づいて整理できる。 3) 長期目標、短期目標の設定及び訓練プログラムの立案ができる。 4) 臨床実習指導者の指導のもと、治療プログラムを実施することができる。 5) 治療プログラムの妥当性や症例の全体像、一連の言語聴覚療法介入に関する考察をまとめることができる。 4. 実習計画 オリエンテーション 実習前25時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 9) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。						事前学修：これまで学修してきた専門基礎分野、専門分野の内容について、特に臨床実習にて患者・利用者に評価・訓練することを想定して知識・技術を復習すること。 事後学修：総合実習前期で学修した内容について振り返り、良かった点、改善すべき点を明確にし、総合実習後期に向けて整理すること。			90	90	
教科書	特に設定しない。										
参考文献	適宜紹介する。										
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が総合実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-04				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価の方法	臨床実習施設 評価	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位		学内評価	50 %
						授業時間数	180 時間			
					授業形態	実習	授業回数		- 回	
授業の概要	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の言語聴覚療法を提供しながら、臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになることを目標とする。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。さらには、実習後の症例報告作成と発表を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。									
到達目標	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。									
学修者への期待等	これまでの学修してきた内容の総括なるのが臨床実習Ⅳであるため、一つ一つの事柄に真摯に向き合い、自身の課題を見つけてもらいたい。									
授業計画						準備学修		事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)	
1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 6月4週～7月4週の間で4週 2. 実習の目的 「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、臨床実習施設では、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上をめざす。実習後、学内において、症例報告作成及び発表・ディスカッションを通じて、臨床現場で身につけた知識の習熟を図る。 3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、再評価を行うことができる。 2) 症例再評価をもとに、チームアプローチ、予後予測、転帰に絡めた支援の方法などを考察できる。 3) 臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになる。 4. 実習計画 オリエンテーション 実習後15時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 再評価と再評価の考察を実施する。 9) 再評価の結果を踏まえて、治療プログラムを見直す。 10) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 11) 実習期間終了後、臨床実習Ⅲまたは臨床実習Ⅳでの症例を選択し、実習報告書を作成し、提出する。						事前学修：これまで学修してきた専門基礎分野、専門分野の内容について、特に臨床実習にて患者・利用者に評価・訓練することを想定して知識・技術を復習すること。総合実習前期（臨床実習Ⅲ）の振り返りを改めて行い、総合実習後期（臨床実習Ⅳ）での自らの目標を立てること。 事後学修：総合実習後期で学修した内容について振り返り、良かった点、改善すべき点を明確にすること。自分の症例報告書と症例報告会での他者の発表から、再度担当した症例について再考し、整理すること。		90	90	
教科書	使用しない									
参考文献	適宜紹介する									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が総合実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-02					
		●	●	●							
科目名	生命科学の基礎				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中村 裕子			評価の方法	試験（筆記）	35 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			小テスト（中間）	15 %
						授業時間数	30 時間			授業内課題	50 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	生命科学とは、生命の営みを細胞・分子といったレベルで研究し、人の暮らしに役立てようとする学際的、応用的な学問で、近年、発展が目覚ましい。中でも生命に関する分野は、再生医療や遺伝子治療などリハビリテーション医療に従事する者として知っておくべき内容が含まれる。本講義では、最新の医療情報を理解する基礎を養成することを目的に、すでに学んだ細胞と神経、遺伝、代謝、免疫に関し、応用的に理解を深める。さらには生命を対象とする学問には欠かせない倫理学も併せて学修する。										
到達目標	言語聴覚士として臨床にあたる上で、医療・福祉専門職として担う責任と覚悟を学ぶ。さらに患者様へ示す尊厳の一つである「リハビリテーションのエビデンス」について、生命科学の基礎とむずびつけないがら学修する										
学修者への期待等	臨床家として患者様に対峙する上で大変重要な内容となる。特に生命倫理、職業倫理は、人が人を診るということを深く考えなければならない。欠席せずしっかり受講してもらいたい。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	細胞について、その構成と役割、エネルギー産生の仕組み（適宜ディスカッションを行う。）				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。			30	60	渡邊 弘人	
2	細胞の働きを支える循環器系の構成とその役割について（適宜ディスカッションを行う。）				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。			30	60	渡邊 弘人	
3	身体の防衛を担う免疫系について、その構成と役割（適宜ディスカッションを行う。）				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。			30	60	渡邊 弘人	
4	リハビリテーションの視点での神経細胞の構成と機能（適宜グループワークを行う。）				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。			30	60	渡邊 弘人	
5	言語聴覚障害に関わる神経領域①（高次脳機能障害）（適宜ディスカッションを行う。）				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。			30	60	渡邊 弘人	
6	言語聴覚障害に関わる神経領域②（構音障害、嚥下系）（適宜ディスカッションを行う。）				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。			30	60	渡邊 弘人	
7	身体の役割① 循環関連（ペアワーク・ディスカッションを行う。）				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。			30	60	櫻庭 ゆかり	
8	身体の役割② 代謝について（ペアワーク・ディスカッションを行う。）				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。			30	60	櫻庭 ゆかり	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	身体の役割③ 遺伝について（ペアワーク・ディスカッションを行う。）	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。	30	60	櫻庭 ゆかり
10	解剖生理のまとめ（ペアワーク・ディスカッションを行う。）	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。	30	60	櫻庭 ゆかり
11	病理学のまとめ（ペアワーク・ディスカッションを行う。）	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。	30	60	櫻庭 ゆかり
12	生命倫理、臨床倫理の視点、職業倫理と倫理綱領 生命倫理、臨床倫理とは？言葉の障害を持つ人の尊厳を維持するにはどうするか。	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。	30	60	中村 裕子
13	職業倫理と倫理綱領 職業倫理と倫理綱領を「尊厳ある臨床実践」に活かすには	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。	30	60	中村 裕子
14	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の基礎 倫理判断の方法 倫理的解決の原則	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。	30	60	中村 裕子
15	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の応用 倫理的臨床の実践方法－実習時に経験した事例を通して学ぶ	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料、配布資料を読み、復習すること。	30	60	中村 裕子
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ペアワーク、グループワーク、ディスカッション）				
教科書	①『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』藤田郁代他 編 医学書院 ②『クリア言語聴覚障害療法Ⅰ 言語聴覚障害総論』内山 量史 編著 建帛社				
参考文献	臨床家のための生命倫理学 中村裕子監訳 協同医書出版				
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は臨床経験が15年以上の言語聴覚士が担当する。言語聴覚療法に関わる疾患を理解するための基礎的な知識を再確認し、学生自身が自ら考え、理解を深められるような講義とする

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-03				
		●		●						
科目名	口腔顔面の感覚・運動障害総論				単位認定者	中川 大介		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td>受講態度</td> <td>30 %</td>	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数		15 回	
授業の概要	実習を通して職務の理解が進んだ3年次に、口腔顔面の感覚・運動に関する総括を行う。口腔顔面の運動は自ら視認できない特徴を持つことから感覚への依存度が高いと言われている。解剖学、生理学を基礎として耳鼻咽喉科学、嚥下障害、運動障害性構音障害などの領域で縦断的に学んできた感覚運動障害を、神経学的側面、器質的側面、機能的側面から見つめ直し、横断的に総括する。									
到達目標	発声発語器官の特徴が説明でき、適切なリハビリテーションプログラムが立案できる、									
学修者への期待等	断片的に学んできた知識を、ここで総まとめとして整理してほしい。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	口腔顔面の神経機構 グループ学習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
2	運動障害と構音障害 1 運動障害性構音障害の種類 グループ学習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
3	運動障害と構音障害 2 運動障害性構音障害の評価 と訓練 グループ学習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
4	構音と発達① 機能性構音障害について グループ 学習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
5	構音と発達② 機能性構音障害の評価と訓練 グ ループ学習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
6	器質性構音障害① 器質性構音障害の種類 グルー プ学習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
7	器質性構音障害② 器質性構音障害の手術と訓練 グループ学習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
8	摂食嚥下障害① 正常の摂食嚥下機能 グループ学 習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
9	摂食嚥下障害② 摂食嚥下機能の評価 グループ学 習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30
10	摂食嚥下障害③ 摂食嚥下機能の障害 グループ学 習を含む					事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習			30	30

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	摂食嚥下障害④ 摂食嚥下機能の訓練 グループ学習を含む	事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習	30	30
12	咽喉頭の筋・骨格の神経支配、感覚・運動	事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習	30	30
13	咽喉頭感覚・運動障害	事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習	30	30
14	音声障害・運動障害性構音障害のリハビリテーション まとめ	事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習	30	30
15	嚥下障害のリハビリテーション まとめ	事前学修：該当箇所を調べておくこと 事後学修：授業内で行った箇所を復習	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク）			
教科書	言語聴覚士国家試験 ST専門科目2026年 医歯薬出版社			
参考文献	『病気がみえるvol.7 脳と神経（第2版）』医療情報科学研究所 編 メディックメディア			
備考	授業内課題は確認後返却し、フィードバックを行う			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として15年以上の臨床経験を持つ。脳卒中後の構音障害、嚥下障害に対するリハビリテーションを行った。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-04				
		●		●	●					
科目名	地域リハビリテーション論				単位 認定者	中川 大介 江畑 綾 櫻庭 ゆかり		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	地域リハビリテーションとは障害のある人々や高齢者及びその家族が、住み慣れたところで、安全に、いきいきと生活ができるよう、リハビリテーションの立場から協力しあう活動である。現在、国は「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」など複数の医療・福祉サービスが連携することで、誰もが安心して自立した暮らしができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。これは先に述べた地域リハビリテーションを包含し、その理念や目標は共通していると言ってよい。本講義では、先に学んだリハビリテーション論を基礎として、地域包括ケアシステムのなかで言語聴覚士に求められる役割、マネジメントについて学修する。									
到達目標	障害のある人々や高齢者及びその家族が、住み慣れたところで、安全に、いきいきと生活ができるよう、リハビリテーションの立場から協力しあう活動と支援システムについて学修する。									
学修者への期待等	言語聴覚士の専門性を活かした活動が日々広がりを見せている。視野を広く持った活動が臨床現場で求められている。臨床に向けて大変重要な内容となるため、積極的な受講を望む。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	地域リハビリテーションとは何か 適宜グループ討議を行う					事前学修：関連資料を確認し、まとめる 事後学修：授業内容を整理し、まとめる		30	30	櫻庭 ゆかり
2	地域包括ケアシステムについて 適宜グループ討議を行う					事前学修：地域包括ケアシステムについて調べる 事後学修：授業内容を整理し、まとめる		30	30	櫻庭 ゆかり
3	地域の支援事業について 適宜グループ討議を行う					事前学修：介護保険、障害者のサービスについて調べる 事後学修：授業内容を整理し、まとめる		30	30	櫻庭 ゆかり
4	自立支援推進について 適宜グループ討議を行う					事前学修：障害者差別解消等について調べる 事後学修：授業内容を整理し、まとめる		30	30	櫻庭 ゆかり
5	地域における言語聴覚士の役割 適宜グループ討議を行う					事前学修：退院支援、サービス担当者会議について調べる 事後学修：授業内容を整理し、まとめる		30	30	櫻庭 ゆかり
6	地域で暮らす高齢者や障がい者、その家族の生活について（適宜ディスカッションを行う）					事前学修：配布資料を読んでもおくこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
7	地域リハビリテーションにおけるICFの視点（適宜ディスカッションを行う）					事前学修：ICFについて復習しておくこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
8	地域リハビリテーションにおけるリスク管理（適宜ディスカッションを行う）					事前学修：配布資料を読んでもおくこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	地域リハビリテーションにおける運動機能やADLの評価について（適宜ディスカッションを行う）	事前学修：配布資料を読 んでおくこと 事後学修：講義内容を復 習すること	30	30	江畑 綾
10	通所系・施設系における言語聴覚療法（適宜ディス カッションを行う）	事前学修：配布資料を読 んでおくこと 事後学修：講義内容を復 習すること	30	30	江畑 綾
11	訪問リハビリテーションの動向（適宜ディスカッ ションを行う）	事前学修：地域包括ケア システムに関して復習を しておく 事後学修：現在の社会情 勢と合わせ、訪問リハビ リテーションの動向につ いて復習する	30	30	中川 大介
12	原因疾患や病期による対応の仕方（適宜ディスカッ ションを行う）	事前学修：難病と脳血管 疾患の違いについて調べ る 事後学修：授業内容を復 習する	30	30	中川 大介
13	地域リハビリテーションにおける摂食嚥下障害者と のかかわり方（適宜ディスカッションを行う）	事前学修：難病と脳血管 疾患における嚥下障害に ついて調べる 事後学修：授業内容を復 習する	30	30	中川 大介
14	地域リハビリテーションにおける高次脳機能障害者 とのかかわり方（適宜ディスカッションを行う）	事前学修：高次脳機能障 害の定義について調べる 事後学修：授業内容を復 習する	30	30	中川 大介
15	地域リハビリテーションにおける失語症者へのかか わり方（適宜ディスカッションを行う）	事前学修：失語症者との コミュニケーションにつ いて調べる 事後学修：授業内容を復 習する	30	30	中川 大介
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループディスカッション）				
教科書	なし				
参考文献	なし				
備考	課題・小テストは、採点後に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が総合実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-05				
		●		●						
科目名	認知症のリハビリテーション				単位 認定者	江畑 綾 中村 裕子		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	これまで高次脳機能障害をはじめとする失語・高次脳機能障害学の一分野として学修してきた認知症の症状は、複合的で複雑である。また、一般的な検査バッテリーを遂行できず、行動観察による評価が重視される場合も多い。実習を通して総合的な視点を持つことの重要性を経験した3年次において、認知症を独立して扱い、認知症の定義・原因疾患・症状・評価・訓練をはじめ、言語聴覚士としての支援や家族への情報伝達の方法を学修する。									
到達目標	言語聴覚領域において、認知症の定義，原因疾患，評価，訓練をはじめ、関わり方や家族指導の方法などを身に付ける。									
学修者への期待等	少子高齢化が進む世界情勢のもと、今後ますます増えていくと考えられる認知症者、及びそのご家族様への適切な支援や助言は何かを考える。また、随時、事例を紹介していく。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	認知症の概念・定義・医学的診断手順				事前学修：医学書院テキストP214-220を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾	
2	認知症の症状，MCIについて				事前学修：医学書院テキストP214-220を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾	
3	アルツハイマー病，血管性認知症				事前学修：医学書院テキストP220-224を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾	
4	レビー小体型認知症，前頭側頭型変性症				事前学修：医学書院テキストP220-224を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾	
5	認知症の評価とリハビリテーション				事前学修：医学書院テキストP228-247を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾	
6	認知症リハビリテーションと認知症の特異性				事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中村 裕子	
7	従来の認知症の定義と新たな定義（DSM5版）の理解				事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中村 裕子	
8	認知症に認める「中核症状」の特徴と生活困難への影響（具体的状況）				事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中村 裕子	
9	認知症リハビリテーションに与える「中核症状」の影響と残存機能の評価				事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中村 裕子	
10	BPSD(行動心理症状) 発現の原因と症状の理解				事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	中村 裕子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
11	BPSD症状発現の予防と認知症リハビリテーションの関係	事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	中村 裕子
12	認知症リハビリテーションの現状と限界	事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	中村 裕子
13	老年期の様々な障害と認知症（グループワーク）	事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	60	江畑 綾
14	高齢者の心身の加齢変化（グループワーク）	事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	60	江畑 綾
15	社会環境・資源	事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	60	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『認知症ケア実践学』 中村裕子著（2023）中央法規出版 標準言語聴覚障害学『高次脳機能障害学』（第3版） 編集 阿部晶子 吉村貴子 医学書院				
参考文献	なし				
備考	課題・小テストは、採点後に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）	
言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり認知症患者の評価・訓練・家族支援・多職種連携を実践してきた。定義・原因疾患・症状から評価・訓練などの本講義の内容を、実際の臨床事例に基づく複合的・包括的な視点で授業を行います。	

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-3-SOC-08				
		●		●						
科目名	疾病論				単位 認定者	渡邊 弘人 江畑 綾		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト（中間）	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	各疾患の特徴から疾病の成り立ちや治療までをより深く理解することに重点を置く。これまで学修してきた基礎医学及び臨床医学、リハビリテーション概論、言語聴覚障害学と本講義を総合的・体系的に学ぶことにより、個々の対象者に適したリハビリテーションの選択ができる言語聴覚士を目指す。本講義では、臨床の現場で出会うことの多い循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、中枢・末梢神経疾患、自己免疫疾患について、言語聴覚士がリハビリテーションを行う際に考慮すべき事柄、さらには支援について考える。									
到達目標	各種疾患と言語聴覚障害との関係を明確にし、理解を深める									
学修者への期待等	言語聴覚士が対峙する患者、利用者は少なからず合併症を有している。時には合併症がリハビリテーションに影響することもあるため、臨床で大変重要な知識である。ぜひ積極的に受講してもらいたい。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	腎臓、泌尿器の解剖生理とその疾患、症状 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
2	内分泌・代謝疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
3	自己免疫疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
4	循環器疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
5	言語聴覚障害と各種内科的疾患の関係 適宜ディスカッションを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人
6	神経系の解剖・生理、神経学的検査					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	中川 大介
7	神経症候学（意識、脳神経系、運動系、感覚系、反射、髄膜刺激症候）					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	中川 大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	臨床神経学各論 1 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、中枢神経系感染症	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60	中川 大介
9	臨床神経学各論 2 神経変性疾患、認知症、水頭症、脱髄疾患	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60	中川 大介
10	臨床神経学各論 3 末梢神経障害、筋疾患および神経筋接合部疾患、代謝性疾患、その他疾患	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60	中川 大介
11	循環器疾患① 心疾患について 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
12	循環器疾患② 脳血管疾患について 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
13	呼吸器疾患① 肺がん COPD 肺炎 など 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
14	呼吸器疾患② 呼吸器感染症、睡眠時無呼吸症候群など 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
15	消化器疾患 食道炎、胃・十二指腸潰瘍・胃炎・過敏性腸症候群	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）				
教科書	『2027年版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST基礎科目』医歯薬出版				
参考文献	なし				
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚士に関わる事の多い疾患について、理解を深め、臨床現場に繋がる講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●		ST-3-SOC-10				
科目名	リハビリテーション栄養学				単位 認定者	鈴木 裕一 江畑 綾		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	栄養とは、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。人は適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。摂食嚥下障害を担当する専門職の一つとして、言語聴覚士には栄養とその障害に関する理解と、結果としての飢餓やフレイル、サルコペニアの理解が求められる。本講義では、栄養に関する基礎事項と栄養障害の理解、さらには、栄養状態の適正な評価及び栄養不良時の適正なリハビリテーションプログラムについて学んでいく。									
到達目標	栄養、栄養障害の基礎、栄養障害がきたす対象者への影響を理解し、リハビリテーションへ繋げられる。									
学修者への期待等	対象者の栄養、栄養障害を評価ができるようになり、リハビリテーションプログラムを立案、実施できることを期待します。また、栄養チームの他、他職種とも対象者の栄養状態・対策についてできるように知識を身につけてほしいです。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	栄養と栄養素					事前学修：教科書第1章予習 事後学修：復習問題の見直し		30	30	鈴木 裕一
2	エネルギー産生の仕組み					事前学修：教科書第2章予習 事後学修：復習問題の見直し		30	30	鈴木 裕一
3	糖質の栄養					事前学修：教科書第3章予習 事後学修：復習問題の見直し		30	30	鈴木 裕一
4	脂質の栄養					事前学修：教科書第4章予習 事後学修：復習問題の見直し		30	30	鈴木 裕一
5	タンパク質・アミノ酸の栄養					事前学修：教科書第5章予習 事後学修：復習問題の見直し		30	30	鈴木 裕一
6	三大栄養素の相互関係					事前学修：教科書第6章予習 事後学修：復習問題の見直し		30	30	鈴木 裕一
7	ビタミンの栄養					事前学修：教科書第7章予習 事後学修：復習問題の見直し		30	30	鈴木 裕一
8	ミネラルの栄養					事前学修：教科書第8章予習 事後学修：復習問題の見直し		30	30	鈴木 裕一

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	機能的食品	事前学修：教科書付録予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30	鈴木 裕一
10	実習：血糖測定	事前学修：教科書第2章予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30	鈴木 裕一
11	リハビリテーションと栄養 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：提示資料を復習すること	30	30	江畑 綾
12	リハビリテーション栄養ケアプロセス	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：提示資料を復習すること	30	30	江畑 綾
13	リハビリテーション栄養ケアプロセスアセスメント	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：提示資料を復習すること	30	30	江畑 綾
14	リハビリテーション栄養ケアプロセス診断・ゴール設定・介入	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：提示資料を復習すること	30	30	江畑 綾
15	症例検討（グループワーク）	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：提示資料を復習すること	30	30	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	「漫画でわかる栄養学」 藺田勝著 Ohmsha				
参考文献	なし				
備考	また講義の初めに、前回の講義の復習問題を解いてもらう。 課題・小テストは、採点后に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり、対象者の栄養状態の評価・管理栄養士等との多職種連携など実践してきた。栄養障害・栄養評価・適切なリハビリテーションプログラムに至る本講義の各内容を、臨床事例に基づく授業を行います。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-12				
		●		●						
科目名	視覚言語論				単位 認定者	山本 はづき		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	通常、意思伝達に使われる「話す」「聞く」による言語体系を音声言語と呼ぶが、それに並ぶ言語体系として視覚による伝達がある。一般によく使われる手段に手話がある。より多くのコミュニケーション手段を駆使し、提案できるという意味で、言語聴覚士が手話を理解することには意義がある。本講義では手話による基本的な挨拶と日常的表現を学ぶ。									
到達目標	①手話を通して聴覚障害者についての理解を深める、②基礎的な手話表現を学ぶ、 ③聴覚障害者とのコミュニケーションの方法を学ぶ									
学修者への 期待等	前半は座学と手話演習を行います。手話演習では手技能検定5級程度の手話を取り扱っていききたいと思います。 後半の演習ではSLTAやS-S法を聴覚障害者へ実施すると仮定して手話及びその他の手段での伝達の方法を実際に考えていただきたいと思います。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	座学：手話とは 手話演習：名前					事前学修：シラバスをご確認ください。 事後学修：名前の手話を習得しまし ょう。			5	10
2	座学：ろう教育の歴史 手話演習：基本的な手話表現					事前学修：前回の手話演習の内容をご確 認ください。 事後学修：特に指定しない			10	0
3	座学：きこえのはたらきとしくみ 手話演習：あいさつ					事前学修：前回の手話演習の内容をご確 認ください。 事後学修：特に指定しない			10	0
4	座学：難聴の種類と程度 手話演習：数字					事前学修：前回の手話演習の内容をご確 認ください。 事後学修：特に指定しない			10	0
5	座学：補聴器と人工内耳 手話演習：動詞					事前学修：前回の手話演習の内容をご確 認ください。 事後学修：特に指定しない			10	0
6	座学：人工内耳のマッピング 手話演習：形容詞					事前学修：前回の手話演習の内容をご確 認ください。 事後学修：特に指定しない			10	0
7	座学：聴覚障害と遺伝子 手話演習：病院で使える手話					事前学修：前回の手話演習の内容をご確 認ください。 事後学修：特に指定しない			10	0
8	座学：聴覚障害者とのコミュニケーション 手話演習：小児施設等で使える手話					事前学修：前回の手話演習の内容をご確 認ください。 事後学修：特に指定しない			10	0
9	演習「SLTA①」					事前学修：特に指定しない 事後学修：課題の回答をお願いします。			0	30
10	演習「SLTA②」					事前学修：特に指定しない 事後学修：課題の回答をお願いします。			0	30
11	演習「SLTA③」模範解答					事前学修：特に指定しない 事後学修：演習の復習をお願いします。			0	10
12	質疑応答 演習「S-S法①」					事前学修：特に指定しない 事後学修：課題の回答をお願いします。			0	30
13	演習「S-S法②」					事前学修：特に指定しない 事後学修：課題の回答をお願いします。			0	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	演習「S-S法③」模範解答	事前学修：特に指定しない 事後学修：演習の復習をお願いします。	0	10
15	質疑応答 当事者へのインタビュー	事前学修：特に指定しない 事後学修：試験範囲の確認をお願いします。	0	30
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	なし			
参考文献	中村公枝：標準言語聴覚障害学 聴覚障害 医学書院 山田弘幸：言語聴覚療法シリーズ⑤ 改定聴覚障害Ⅰ—基礎編 建帛社			
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 オンデマンドのためリアルタイムでの質疑応答ができません。 座学内容については12回目に質疑応答の時間を設けます。いただいたご質問はそちらで回答します。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

人工内耳装用前後の聴覚障害児・者へリハビリテーションを行っていました。現場で行っていた重度聴覚障害児・者との関わりについてお伝えできればと思います。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-3-SOC-13				
		●		●						
科目名	補綴・補装具論				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾 高橋 慧		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	本講義では、すでに各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から見つめ直す。その基本的構造と機能については領域を超えて学修し、義歯や軟口蓋挙上装置、及び各種補聴器など聴覚補償機器の意義、具体的な使用方法、適合判定について理解を深める。並びに義肢の種類と装着についての理解と使用方法を学修する。									
到達目標	各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から理解を深める。									
学修者への期待等	リハビリテーションの臨床において、補綴や補聴器、AAC、補装具は患者・利用者のQOL向上のためには大変重要な内容となる。そのため積極的な受講を望む									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	補綴について 補綴とはなにか					事前学修：事前に配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明できるようにする		30	30	櫻庭 ゆかり
2	義歯の適合，顔面補綴について					事前学修：事前に配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明できるようにする		30	30	櫻庭 ゆかり
3	顎義歯・軟口蓋挙上装置など					事前学修：事前に配布資料を読んでおくこと 事後学修：再読し説明できるようにする		30	30	櫻庭 ゆかり
4	聴覚補償システム① 補聴器のフィッティング 適宜グループワークを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること		30	60	渡邊 弘人
5	聴覚補償システム② 各種補聴器の機能とその適応 適宜グループワークを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること		30	60	渡邊 弘人
6	聴覚補償システム③ 人工内耳マッピング 適宜グループワークを行う。					事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること		30	60	渡邊 弘人
7	乳幼児の補綴・装用の必要性とは					事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾
8	乳幼児の補綴・装用 Hotz床・スピーチエイド等					事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること		30	30	江畑 綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	補装具と構音障害	事前学修：関連教科書を読むこと 事後学修：講義内容を復習すること	30	30	江畑 綾
10	顎接触補助床の装用に関する適応と装用効果	事前学修：該当箇所を調べておくこと。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	30	30	中川 大介
11	軟口蓋挙上装置の装用に関する適応と装用効果	事前学修：該当箇所を調べておくこと。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	30	30	中川 大介
12	顎接触補助床/軟口蓋挙上装置の装用時の評価・調整	事前学修：該当箇所を調べておくこと。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	30	30	中川 大介
13	義肢・装具① 基本構造・分類（ディスカッション・ペアワーク含む）	事前学修：義肢装具について、各自事前に調べておくこと 事後学修：配布資料を用いて、授業内容の復習を行うこと	30	30	高橋 慧
14	義肢・装具② 歩行補助具、車椅子（ディスカッション・ペアワーク含む）	事前学修：杖について、各自事前に調べておくこと 事後学修：配布資料を用いて、授業内容の復習を行うこと	30	30	高橋 慧
15	義肢・装具③ 介助方法、リハビリテーション、指導（ディスカッション・ペアワーク含む）	事前学修：介助について、各自事前に調べておくこと 事後学修：配布資料を用いて、授業内容の復習を行うこと	30	30	高橋 慧
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ディスカッション ペアワーク グループワーク ）				
教科書	なし				
参考文献	なし				
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、臨床経験20年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が臨床で使用している補綴や補装具について理解を深め、臨床現場につながる講義とする。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-3-SOC-14				
	●	●	●	●	●					
科目名	言語聴覚学特別講義Ⅰ				単位 認定者	渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	言語聴覚士の仕事は、多くの基礎的分野に関する知識の上に成り立つ。本講義では、専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、言語聴覚士の幅広い臨床に対応できる人材を目指す。 専門支持科目で学修した臨床歯科医学、呼吸系の構造・機能・病態、音声学、言語学について、総合的に復習し、言語聴覚士の臨床に対応できる人材を目指す。									
到達目標	専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、専門展開科目とのつながりについて理解を深める									
学修者への期待等	専門支持科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	医学総論					事前学修：STテキストP2～7を読んで、わからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
2	解剖学・生理学 運動器系・循環器系					事前学修：STテキストP8～14を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
3	解剖学・生理学 呼吸器系・消化器系 内分泌系					事前学修：STテキストP14～27を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
4	解剖学・生理学 神経系・感覚系					事前学修：STテキストP29～36を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
5	病理学 炎症、遺伝、免疫					事前学修：STテキストP37～43を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
6	内科学 循環器疾患 など					事前学修：STテキストP45～55を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと		60	60	江畑綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	内科学 呼吸器疾患 など	事前学修：STテキストP45～55を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
8	小児科学 小児神経疾患、神経筋疾患	事前学修：STテキストP56～69を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
9	精神医学	事前学修：STテキストP70～79を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
10	リハビリテーション医学	事前学修：STテキストP80～85を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介
11	耳鼻咽喉科学 耳科学 適宜グループワーク・ペアワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
12	耳鼻咽喉科学 口腔・咽頭科学	事前学修：STテキストP93～102を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
13	耳鼻咽喉科学 喉頭科学、気道食道科学	事前学修：STテキストP93～102を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
14	臨床神経学 神経系の解剖・生理	事前学修：STテキストP103～108を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介
15	臨床神経学 神経学的検査 神経症候学	事前学修：STテキストP103～110を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介
16	臨床神経学 脳血管障害など	事前学修：STテキストP110～123を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介
17	形成外科学 口唇・口蓋裂	事前学修：STテキストP124～133を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
18	臨床歯科医学、口腔外科学	事前学修：STテキストP134～143を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
19	認知・学習心理学(古典的条件付け、オペラント条件付け)(視覚、記憶の効果) 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
20	臨床心理学	事前学修：STテキストP155～159を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
21	生涯発達心理学（新生児、乳幼児期）	事前学修：STテキストP160～167を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
22	生涯発達心理学（児童期、青年期、老年期）	事前学修：STテキストP160～167を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
23	心理測定法	事前学修：STテキストP168～172を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
24	言語学；言語構造，意味論など	事前学修：STテキストP174～189を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
25	音声学	事前学修：STテキストP190～202を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
26	音響学	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
27	聴覚心理学 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
28	言語発達学	事前学修：STテキストP219～224を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
29	言語発達学(学童期)のまとめ	事前学修：STテキストP219～224を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
30	聴覚機能全般（聴覚解剖と生理、音の処理） 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク）				
教科書	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST基礎科目』医歯薬出版 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版 編著大森孝一				
参考文献	なし				
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は、臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が患者・利用者の抱える言語聴覚障害を深く理解するための基礎的な知識を再確認し、臨床現場に繋げられるような講義とする。	

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-3-SOC-15				
		●	●	●	●					
科目名	言語聴覚学特別講義Ⅱ				単位 認定者	中川 大介 江畑 綾 渡邊 弘人 平山 和美 野口 美雪		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	講義	授業回数	30 回			
授業の概要	言語聴覚士が担当する言語・高次脳機能障害（失語症、高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語の障害、聴覚障害）及び摂食嚥下障害について専門展開科目を基に総合的に復習するとともに、障害の評価や訓練についてとらえ直し、見落としがちなポイントや、理解すべき事柄を整理する。より良いリハビリテーションを提供し、対象児者の全人的復権に寄与するために知識面での補完を目指す。									
到達目標	今まで学修した内容を振り返り、各科目の関係性の理解を深める。									
学修者への期待等	専門展開科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のもまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	言語聴覚障害学総論					事前学修：STテキストP260～264を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	30	60	中川 大介	
2	失語症 症状とメカニズム					事前学修：STテキストP268～276を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	60	60	中川 大介	
3	失語症 評価と訓練					事前学修：STテキストP276～281を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	60	60	中川 大介	
4	高次脳機能障害 症状とメカニズム					事前学修：STテキストP282～296を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	60	60	中川 大介	
5	高次脳機能障害 評価と訓練					事前学修：STテキストP282～296を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	60	60	中川 大介	
6	脳画像の見方（大脳の脳葉、基底核、視床、脳幹の各部位の同定、脳画像の種類）					事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない	30	0	平山 和美	
7	脳画像の見方（重要な脳回や構造の同定、病変の映り方）					事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない	30	0	平山 和美	
8	言語発達障害 病態、検査法（言語機能検査）					事前学修：STテキストP291～306を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾	
9	言語発達障害 検査法（発達検査、知能検査）					事前学修：STテキストP291～306を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	言語発達障害 訓練法(言語発達遅滞訓練)	事前学修：STテキスト P291～306を読み、わ からないことは調べてお くこと 事後学修：関連過去問題 を解くこと	60	60	江畑 綾
11	言語発達障害 訓練法(指導・支援)	事前学修：STテキスト P291～306を読み、わ からないことは調べてお くこと 事後学修：関連過去問題 を解くこと	60	60	江畑 綾
12	成人聴覚検査 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料を読 んで問題を解くこと 事後学修：配布資料と提 示資料を確認し復習する こと	30	60	渡邊 弘人
13	小児聴覚検査 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料を読 んで問題を解くこと 事後学修：配布資料と提 示資料を確認し復習する こと	30	60	渡邊 弘人
14	補聴器人工内耳 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料を読 んで問題を解くこと 事後学修：配布資料と提 示資料を確認し復習する こと	30	60	渡邊 弘人
15	視覚聴覚二重障害	事前学修：STテキスト P354～362を学習してお くこと 事後学修：講義時に配布 する問題実施すること	30	60	中川 大介
16	機能性・器質性構音障害	事前学修：STテキスト P394～P402を学習してお くこと 事後学修：講義時に配布 する問題実施すること	30	60	中川 大介
17	吃音	事前学修：STテキスト P404～P412を学習してお くこと 事後学修：講義時に配布 する問題実施すること	60	60	中川 大介
18	発達障害（全般）	事前学修：STテキスト P298～P311を学習してお くこと 事後学修：講義時に配布 する問題実施すること	30	60	中川 大介
19	学習障害	事前学修：STテキスト P298～P311を学習してお くこと 事後学修：講義時に配布 する問題実施すること	30	60	中川 大介
20	ADHD	事前学修：STテキスト P298～P311を学習してお くこと 事後学修：講義時に配布 する問題実施すること	30	60	中川 大介
21	ASD	事前学修：STテキスト P298～P311を学習してお くこと 事後学修：講義時に配布 する問題実施すること	30	60	中川 大介
22	音声障害	事前学修：STテキスト P372～383を学習してお くこと 事後学修：講義時に配布 する問題実施すること	30	60	中川 大介
23	運動障害性構音障害 タイプ分類と特徴	事前学修：STテキスト P386～391を読み、わ からないことは調べてお くこと 事後学修：関連過去問題 を解くこと	60	60	江畑 綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
24	運動障害性構音障害 タイプ分類と訓練法	事前学修：STテキスト P386～391を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾
25	摂食嚥下障害 メカニズム	事前学修：STテキスト P404～418を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾
26	摂食嚥下障害 評価・訓練	事前学修：STテキスト P404～418を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾
27	社会福祉関係法規① 社会福祉法	事前学修：関連資料を確認しておくこと 事後学修：国家試験問題を復習しておくこと	30	30	野口 美雪
28	社会福祉関係法規② 生活保護法、児童福祉法	事前学修：関連資料を確認しておくこと 事後学修：国家試験問題を復習しておくこと	30	30	野口 美雪
29	社会福祉関係法規③ 老人福祉法 介護保険法	事前学修：関連資料を確認しておくこと 事後学修：国家試験問題を復習しておくこと	30	30	野口 美雪
30	社会福祉関係法規④ 障害者総合支援法、精神保健福祉法	事前学修：関連資料を確認しておくこと 事後学修：国家試験問題を復習しておくこと	30	30	野口 美雪
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク）				
教科書	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST基礎科目』医歯薬出版 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版 編著大森孝一				
参考文献	なし				
備考	授業内課題は、採点后に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員の一人は、脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-AHB-04				
	●	●		●	●					
科目名	失語症・高次脳機能障害Ⅱ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価の 方法	試験(筆記・ レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内 課題等	10 %
						授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	失語症・高次脳機能障害のメカニズムについて学ぶ。また、検査方法を身につけ言語症状を記録し、そのデータを評価・分析の上、結果をまとめる演習を行う。高次脳機能障害の各検査（知能検査、記憶検査、注意検査、視知覚検査）を学生相互に実施し、記録の仕方、評価・分析を行い結果をまとめることができるようになることを目指す。さらに症状や重症度に則した訓練プログラムを立案し具体的な訓練法の学習を行う。さらには指導・助言、その他の援助に関する知識・技能・態度を養う									
到達目標	根拠に基づいた訓練法を立案することができ、且つ謙虚な態度で失語症・高次脳機能障害者と向き合うことのできる高い人間性を備えた言語聴覚士像を目指す。									
学修者への期待等	教科書や国家試験問題などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解する。自主的に検査演習に取り組み検査の意義や目的、検査結果から症例を分析してまとめることができることを望む。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	失語症・高次脳機能障害の基礎～言語機能・高次脳機能を担っている脳（大脳皮質を中心に）～脳回				事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	渡邊 弘人	
2	失語症・高次脳機能障害の基礎～言語機能・高次脳機能を担っている脳（大脳皮質を中心に）～脳溝				事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	渡邊 弘人	
3	失語症・高次脳機能障害の基礎～言語機能・高次脳機能を担っている脳（Brodmannの脳地図）～				事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	渡邊 弘人	
4	失語症・高次脳機能障害の基礎～言語機能・高次脳機能を担っている脳（大脳基底核を中心に）～被殻・視床、脳梁など				事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	渡邊 弘人	
5	失語症・高次脳機能障害の基礎～2つの記憶経路（Papez回路とYakoblev回路）～				事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	渡邊 弘人	
6	失語症・高次脳機能障害の基礎～大脳を還流する動脈1（心臓から大脳まで（ウィルス動脈輪を含む））～				事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	渡邊 弘人	
7	失語症・高次脳機能障害の基礎～大脳を還流する動脈2（前大脳動脈・中大脳動脈・後大脳動脈）～				事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	渡邊 弘人	
8	失語症・高次脳機能障害を引き起こす疾患～脳梗塞・脳出血～				事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	江畑 綾	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	失語症の定義・病巣	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
10	失語症の言語症状と失語症候群	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
11	失語症の発話場面の症状1～流暢性、発語失行、喚語困難～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
12	失語症の発話場面の症状2～ジャルソン、再帰性発話～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
13	失語症の理解面の症状～復唱の障害を含む～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
14	失語症の読み書きの障害	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
15	古典型失語症候群	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
16	皮質下性失語症候群と交叉性失語症、原発性進行性失語	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
17	後天性小児失語症	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
18	失語症の評価・診断1～総合的失語症検査～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
19	失語症の評価・診断2～特定の側面の検査～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
20	失語症の訓練・援助1～言語訓練の理解と技法～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
21	失語症の訓練・援助2～訓練の原則～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
22	高次脳機能障害1～神経心理学の基本概念～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
23	高次脳機能障害2～病巣～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
24	高次脳機能障害3～記憶障害～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	中川 大介
25	高次脳機能障害4～失認～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	中川 大介
26	高次脳機能障害5～視空間障害、動作・行為障害、前頭葉症状～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	中川 大介
27	高次脳機能障害6～前頭葉症状、右半球症状、半球離断症候群～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	中川 大介
28	高次脳機能障害7～認知症を呈する疾患～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	中川 大介
29	高次脳機能障害の評価	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	中川 大介
30	高次脳機能障害の訓練・援助	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	中川 大介
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	1.『標準言語聴覚障害学 失語症学（第4版）』 藤田 郁代編 医学書院 2.『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学（第4版）』 藤田 郁代、阿部 晶子 編 医学書院 3.『なるほど！失語症の評価と治療』 小嶋知幸(編著) 金原出版 4.「標準失語症検査マニュアル」日本高次脳機能障害学会編 株式会社新興医学出版社				
参考文献	1.『失語症学』（2006） 西村書店 2.『認知症ケア実践学』（2023）中央法規出版				
備考	課題については、次回講義時にフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
言語聴覚士としての臨床経験15年以上有する教員が担当する。臨床経験を活かし失語症・高次脳機能障害臨床の実際と必要な知識について、学生の理解が深まるよう講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
	●	●		●	●	ST-2-AHB-04					
科目名	言語発達障害Ⅱ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 中川 大介		渡邊 弘人 江畑 綾	評価の 方法	試験(筆記・ レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位				
						授業時間数	60 時間				
					授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	言語発達障害児に言語療法を行う際に必要な基礎知識を学ぶ。言語発達・言語発達障害についての基礎と概要について述べ、評価 - プログラム立案 - 言語療法という一連の流れを演習を通して学修する。さらには個別自立課題等の適切な教材を考え作成できることを目指す。										
到達目標	小児領域で必要な諸検査の実施・評価について学び、これらに生かして必要な支援・訓練を考えていけるようになる。										
学修者への期待等	積極的に演習に参加し、検査法や訓練法をしっかりと身につけていってください。										
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	発達理論 (Piagetの発達段階)					事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	中川 大介	
2	発達理論 (Eriksonの発達段階)					事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	中川 大介	
3	発達理論 (Froudの発達段階、Gesellの発達理論)					事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	中川 大介	
4	新生児期・乳児期					事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	中川 大介	
5	幼児期・児童期					事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	中川 大介	
6	思春期・青年期					事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	中川 大介	
7	言語発達を説明する理論					事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	中川 大介	
8	前言語期の発達					事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。		30	30	櫻庭 ゆかり	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	1～2歳の言語発達、幼児期の言語発達、学童期の言語発達	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
10	標準的言語発達	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
11	言語・コミュニケーションの障害	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
12	自閉症スペクトラム障害	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
13	知的障害、学習障害、発達性ディスレキシア、特異的言語発達障害	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
14	脳性まひ	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
15	注意欠陥・多動性障害、先天異常	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	櫻庭 ゆかり
16	評価～総論～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	渡邊 弘人
17	評価～新版K式発達検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査表～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	渡邊 弘人
18	評価～田中ビネー知能検査Ⅴ、ウェクスラー式知能検査～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	渡邊 弘人
19	発達知能検査～K-ABCⅡ～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	渡邊 弘人
20	発達知能検査～DN-CAS、＜S-S法＞言語発達遅滞検査～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	渡邊 弘人
21	言語発達～LCスケール・LCSA、言語検査総合～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	渡邊 弘人
22	発達検査、知能検査、言語検査の総合～まとめ～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	渡邊 弘人

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
23	障害別の検査～自閉症スペクトラム障害～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	渡邊 弘人
24	障害別の検査～知的障害、発達性ディスレキシア、特異的言語発達障害、脳性麻痺～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
25	言語発達段階に即した指導・訓練	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
26	障害別の指導・訓練～自閉症スペクトラム障害～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
27	障害別の指導・訓練～知的障害、発達性ディスレキシア、特異的言語発達障害～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
28	障害別の指導・訓練～脳性麻痺、重複障害、注意欠陥・多動性障害～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
29	働きかけの諸技法～＜S-S法＞言語発達遅滞検査、インリアルアプローチ、AAC～	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
30	働きかけの諸技法（総合）、地域連携	事前学修：配布資料を事前に確認すること。 事後学修：講義に関連する国家試験問題を解くこと。	30	30	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	配布資料を中心に授業を行っていきます。 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定				
参考文献	特になし				
備考	課題については、次回講義時にフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
言語聴覚士としての臨床経験15年以上有する教員が担当する。

言語聴覚学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価
- 実務経験を有する教員の科目一覧

言語聴覚学科のナンバリングの見方（2025年度以降入学生科目ナンバリング）

【例】ST-1-〇〇〇-01

ST	-	1	-	〇〇〇	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

言語聴覚学科：ST

② 科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

専門独自科目：3

（学科によって専門科目の区分が若干異なるので、基礎的科目分類から順に1から番号を振る）

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	人体の仕組み・ 疾病と治療	HDT	Human Body Systems, Disease and Treatment
		心の働き	WOM	Working of the Mind
		言語とコミュニケーション	LAC	Language and Communication
		社会保障・教育と リハビリテーション	SER	Social Welfare, Education and Rehabilitation
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	LHD	Language Hearing Disability Studies General
		言語聴覚療法管理学	LHM	Language Hearing Therapy Management Studies
		失語・高次脳機能障害学	AHB	Aphasia, Higher Brain Function Disability Studies
		言語発達障害学	LDS	Language Development Disability Studies
		発声発語・摂食嚥下障害学	VDS	Vocalization and Dysphagia Studies

		聴覚障害学	HDS	Hearing Disability Studies
		地域言語聴覚療法学	CLH	Community Language Hearing Therapy Studies
		臨床実習	CLT	Clinical Training
	専門独自科目		SOC	Specialized Original Course

④ 連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01
数理リテラシー	CO-0-HSC-02

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化	人間関係論	ST-0-HCU-01
		英語	CO-0-HCU-02
		日本語表現法	CO-0-HCU-01
		歴史と文化	ST-0-HCU-02
	人間と社会	現代の社会	CO-0-HSO-03
		法律入門	CO-0-HSO-04
		学習の基礎	ST-0-HSO-01
		倫理学	ST-0-HSO-02
	人間と科学	統計と疫学	ST-0-HSC-01
		数理リテラシー	CO-0-HSC-02
		情報処理	CO-0-HSC-01
		自然科学概論	ST-0-HSC-02
専門教育分野	専門支持科目	医療概論	ST-1-HDT-01
		病理学	ST-1-HDT-02
		解剖・生理学	ST-1-HDT-03
		内科学	ST-1-HDT-04
		栄養学	ST-1-HDT-05
		臨床神経学	ST-1-HDT-06
		小児科学	ST-1-HDT-07
		精神医学	ST-1-HDT-08
		リハビリテーション医学	ST-1-HDT-09

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門支持科目	人体の仕組み・ 疾病と治療	耳鼻咽喉科学	ST-1-HDT-10
			形成外科学	ST-1-HDT-11
			臨床歯科医学・口腔外科学	ST-1-HDT-12
			呼吸発声発語系の構造・機能・病態	ST-1-HDT-13
			聴覚系の構造・機能・病態	ST-1-HDT-14
			神経系の構造・機能・病態	ST-1-HDT-15
		心の働き	臨床心理学	ST-1-WOM-01
			心理学	ST-1-WOM-02
			生涯発達心理学	ST-1-WOM-03
			聴覚心理学	ST-1-WOM-04
			神経心理学	ST-1-WOM-05
			心理測定法	ST-1-WOM-06
			認知・学習心理学	ST-1-WOM-07
		言語と コミュニケーション	言語学	ST-1-LAC-01
			日本語文法学	ST-1-LAC-02
			音声学	ST-1-LAC-03
			音声・言語学総論	ST-1-LAC-04
			音声表記・分析学	ST-1-LAC-05
			音響学	ST-1-LAC-06
			言語発達学	ST-1-LAC-07
			拡大・代替コミュニケーション	ST-1-LAC-08
			視覚言語論	ST-1-LAC-09
		社会保障・教育と リハビリテーション	社会保障・教育と リハビリテーション	ST-1-SER-01
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論	ST-2-LHD-01
		言語聴覚療法管理学	言語聴覚療法管理学Ⅰ	ST-2-LHM-01
			言語聴覚療法管理学Ⅱ	ST-2-LHM-02
		失語・高次脳機能 障害学	失語症概論	ST-2-AHB-01
			高次脳機能障害学	ST-2-AHB-02
			言語聴覚障害診断学	ST-2-AHB-03
			失語症・高次脳機能障害	ST-2-AHB-04
		言語発達障害学	言語発達障害総論	ST-2-LDS-01
			言語発達障害評価学	ST-2-LDS-02
			小児の構音障害	ST-2-LDS-03
			脳性麻痺	ST-2-LDS-04
			学習障害・発達障害	ST-2-LDS-05

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門展開科目	発声発語・ 摂食嚥下障害学	音声障害	ST-2-VDS-01
			吃音概論	ST-2-VDS-02
			運動障害性構音障害Ⅰ	ST-2-VDS-03
			運動障害性構音障害Ⅱ	ST-2-VDS-04
			摂食嚥下障害Ⅰ	ST-2-VDS-05
			摂食嚥下障害Ⅱ	ST-2-VDS-06
		聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	ST-2-HDS-01
			聴能・発語訓練演習	ST-2-HDS-02
			聴力検査Ⅰ	ST-2-HDS-03
			聴力検査Ⅱ	ST-2-HDS-04
			視覚聴覚二重障害・重複障害	ST-2-HDS-05
			補聴器・人工内耳	ST-2-HDS-06
			聴覚障害学総論	ST-2-HDS-07
		地域言語聴覚療法学	地域言語聴覚療法学Ⅰ	ST-2-CLH-01
			地域言語聴覚療法学Ⅱ	ST-2-CLH-02
		臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	ST-2-CLT-01
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	ST-2-CLT-02
			臨床能力評価実習	ST-2-CLT-03
			臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	ST-2-CLT-04
			臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	ST-2-CLT-05
	専門独自科目		医療英会話と英文抄読	ST-3-SOC-01
			手話	ST-3-SOC-02
			言語聴覚障害学特別講義Ⅰ	ST-3-SOC-03
			言語聴覚障害学特別講義Ⅱ	ST-3-SOC-04
			音と聴力	ST-3-SOC-05
			運動生理学の基礎	ST-3-SOC-06
			言語聴覚障害学の基礎	ST-3-SOC-07

言語聴覚学科のナンバリングの見方（2024年度以前入学生科目ナンバリング）

【例】ST-1-〇〇〇-01

ST	-	1	-	〇〇〇	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

言語聴覚学科：ST

② 科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

専門独自科目：3

（学科によって専門科目の区分が若干異なるので、基礎的科目分類から順に1から番号を振る）

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	基礎医学	BAM	Basic Medicine
		臨床医学	CLM	Clinical Medicine
		臨床歯科医学	CLD	Clinical Dentistry
		音声・言語・聴覚医学	SLH	Speech, Language, Hearing Medicine
		心理学	PCL	Psychology
		言語学	LGS	Linguistics
		音声学	PNT	Phonetics
		音響学	ACS	Acoustics
		言語発達学	LDS	Language Development Studies
		社会福祉・教育	SWE	Social Welfare and Education
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	LHD	Language Hearing Disability Studies General
		失語症・高次脳機能障害学	AHB	Aphasia, Higher Brain Function Disability Studies
		言語発達障害学	LDS	Language Development Disability Studies

分野 専門教育	専門科目展開	発声発語・嚥下障害学	VDY	Vocalization and Dysphagia
		聴覚障害学	HDS	Hearing Disability Studies
		臨床実習	CLT	Clinical Training
	専門独自科目		SOC	Specialized Original Course

④ 連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語 I	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03
大学生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	CO-0-HCU-01	
			英語Ⅰ	CO-0-HCU-02	
			英語Ⅱ	ST-0-HCU-01	
			英文抄読	ST-0-HCU-02	
			基礎英会話	ST-0-HCU-03	
			歴史と文化	CO-0-HCU-03	
	人間と社会		現代の社会	CO-0-HSO-03	
			暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02	
			大学生活論	CO-0-HSO-01	
	人間と科学		情報処理	CO-0-HSC-01	
			統計学	ST-0-HSC-01	
			健康スポーツ学Ⅰ	ST-0-HSC-02	
健康スポーツ学Ⅱ			ST-0-HSC-03		
専門教育分野	専門支持科目	基礎医学		医学概論	ST-1-BAM-01
				病理学	ST-1-BAM-02
				解剖学	ST-1-BAM-03
				生理学	ST-1-BAM-04
		臨床医学		内科学	ST-1-CLM-01
				臨床神経学	ST-1-CLM-02
				小児科学	ST-1-CLM-03
				精神医学	ST-1-CLM-04

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門支持科目	臨床医学	リハビリテーション医学	ST-1-CLM-05
			耳鼻咽喉科学	ST-1-CLM-06
			形成外科学	ST-1-CLM-07
		臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	ST-1-CLD-01
		音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	ST-1-SLH-01
			聴覚系の構造・機能・病態	ST-1-SLH-02
			神経系の構造・機能・病態	ST-1-SLM-03
		心理学	臨床心理学	ST-1-PCL-01
			生涯発達心理学	ST-1-PCL-02
			神経心理学	ST-1-PCL-03
			心理測定法	ST-1-PCL-04
			福祉心理学	ST-1-PCL-05
			認知・学習心理学	ST-1-PCL-06
			心理学系総論	ST-1-PCL-07
		言語学	言語学	ST-1-LGS-01
			日本語文法学	ST-1-LGS-02
		音声学	音声学	ST-1-PNT-01
			音声表記・分析学	ST-1-PNT-02
		音響学	音響学	ST-1-ACS-01
			聴覚心理学	ST-1-ACS-02
		言語発達学	言語発達学	ST-1-LDS-01
		社会福祉・教育	社会保障制度・関係法規	ST-1-SWE-01
			リハビリテーション論	ST-1-SWE-02
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学の基礎	ST-2-LSG-01
			言語聴覚障害診断学	ST-2-LSG-02
			言語聴覚障害学総論	ST-2-LSG-03
			言語聴覚障害学臨床応用	ST-2-LSG-04
		失語症・高次脳機能障害学	失語症概論	ST-2-AHB-01
			高次脳機能障害概論	ST-2-AHB-02
			失語症・高次脳機能障害Ⅰ	ST-2-AHB-03
			失語症・高次脳機能障害Ⅱ	ST-2-AHB-04
			高次脳機能系総論	ST-2-AHB-05
		言語発達障害学	言語発達障害Ⅰ	ST-2-LDS-01
			言語発達障害Ⅱ	ST-2-LDS-02
			脳性麻痺・運動発達の障害	ST-2-LDS-03
			学習障害・発達障害	ST-2-LDS-04
			拡大・代替コミュニケーション	ST-2-LDS-05

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門展開科目	発声発語・嚥下障害学	音声障害	ST-2-VDY-01
			器質性・機能的構音障害	ST-2-VDY-02
			運動障害性構音障害Ⅰ	ST-2-VDY-03
			運動障害性構音障害Ⅱ	ST-2-VDY-04
		発声発語・嚥下障害学	吃音概論	ST-2-VDY-05
			摂食嚥下障害Ⅰ	ST-2-VDY-06
			摂食嚥下障害Ⅱ	ST-2-VDY-07
		聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	ST-2-HDS-01
			聴能・発語訓練演習	ST-2-HDS-02
			聴力検査	ST-2-HDS-03
			視覚聴覚二重障害・重複障害	ST-2-HDS-04
			補聴器・人工内耳	ST-2-HDS-05
			聴覚障害学総論	ST-2-HDS-06
			音と聴力	ST-2-HDS-07
		臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	ST-2-CLT-01
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	ST-2-CLT-02
			臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	ST-2-CLT-03
			臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	ST-2-CLT-04
	専門独自科目		自然科学概論	ST-3-SOC-01
			生命科学の基礎	ST-3-SOC-02
			口腔顔面の感覚・運動障害総論	ST-3-SOC-03
			地域リハビリテーション論	ST-3-SOC-04
			認知症のリハビリテーション	ST-3-SOC-05
			神経の診かた	ST-3-SOC-06
			動作分析の基礎	ST-3-SOC-07
			疾病論	ST-3-SOC-08
			口腔衛生論	ST-3-SOC-09
			リハビリテーション栄養学	ST-3-SOC-10
			保険診療・介護保険制度	ST-3-SOC-11
			視覚言語論	ST-3-SOC-12
			補綴・補装具論	ST-3-SOC-13
			言語聴覚学特別講義Ⅰ	ST-3-SOC-14
			言語聴覚学特別講義Ⅱ	ST-3-SOC-15

言語聴覚学科 教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授 (学科長)	さくらば 櫻庭 ゆかり	共同 研究室	022-302-5591	y_sakuraba@seiyogakuin.ac.jp
2	准教授	わたなべ ひろと 渡邊 弘人	共同 研究室	022-302-5591	h_watanabe@seiyogakuin.ac.jp
3	講師	なかがわ だいすけ 中川 大介		022-302-5591	d_nakagawa@seiyogakuin.ac.jp
4	助教	すずき まさひろ 鈴木 將太		022-302-5591	ms_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	こまつ ゆ き 小松 有希		022-302-5591	yu_kimura@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	えばた あや 江畑 綾		022-302-5591	a_ebata@seiyogakuin.ac.jp

言語聴覚学科 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。

言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
人間関係論	2	櫻庭 ゆかり	講師は臨床現場で言語聴覚士として30年以上の経験をもちスタッフや患者・患者家族との関係を構築してきた
日本語表現法	1	吉田 理	高等学校・専門学校及び予備校等、就職試験・資格試験予備校における小論文及び志望理由書作成に関する文章指導
法律入門	1	鈴木 一樹	公認会計士として企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事
学習の基礎	1	江畑 綾	言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり、経験してきた。言語聴覚士としての心構えや職業観を学生に具体的に伝えながら、大学での主体的な学び方や健康管理の重要性を臨床現場の実例と結びつけて授業を行います。
数理リテラシー	1	中島 拓	業務経験： システム開発業務での生成AIツールを利用経験 3年、社内ISMS委員長としてセキュリティ管理経験 7年、自社および顧客サーバー管理経験 20年、システム開発業務 25年 資格： ソフトウェア開発技術者(IPA) 関連性： 情報セキュリティ知識と管理・運用経験、生成AIの基本的な仕組みの理解と利用経験、ITシステムとサービスに対する知識と開発・運用経験からの内部理解
医療概論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて15年以上の経験あり。病院・施設における臨床経験を活かし、学生がこれから学ぶ医療領域の基礎として理解を深め、後学に繋げられる講義とする。
小児科学	1	峯岸 直子	担当教員は小児科医師として13年間の臨床実務を経験し、その後継続して医学医療系の学生教育を担当してきました。
臨床歯科医学・口腔外科学	1	川村 仁	大学教員として約50年口腔顎顔面外科学の講義および実学教育を担ってきた
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として呼吸喉頭病変の患者へのリハビリテーションを含む30年以上の臨床経験をもつ。その景観を活かし、言語聴覚療法と呼吸・発声機能との関係を詳しく講義する。
聴覚系の構造・機能・病態	1	渡邊 弘人	言語聴覚療法分野で15年以上の臨床経験と、言語聴覚士資格を有しており、その経験を活かして学生が聴覚・前庭系の機能・構造・病態について理解を深め、臨床現場に繋げられるような実践的な授業を行う。
神経系の構造・機能・病態	1	平山 和美	脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
音声表記・分析学	1	江畑 綾	言語聴覚療法分野で5年以上の実務経験と、言語聴覚士資格を有しており、IPA表記や音声分析を、発話事例などの応用を交えた実践的な授業を行います。
言語発達学	1	越中 康治	教員は保育士（非常勤）として4年間保育に従事した経験を有しており、授業の中では保育現場における事例の紹介なども行います。
言語聴覚療法管理学Ⅰ	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として15年以上の臨床経験がある。臨床経験を活かし、学生が臨床現場となる病院・施設内外でのシステム、管理とその制度などについて理解が深められるよう講義を行う。
失語症概論	2	中川 大介	言語聴覚士として、臨床現場にて15年以上の経験あり。脳卒中後の失語症者にリハビリテーションを実施した。
脳性麻痺	1	千木良 あき子	摂食機能発達・障害に関する研究に携わった後、地域の病院、施設、学校などで30年以上にわたり脳性麻痺を含む障害児（者）歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションを継続してきました。日本障害者歯科学会専門医及び認定医指導医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の資格を有しています。
学習障害・発達障害	1	須賀川 芳夫	言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有している。前職は公立学校教員（特別支援学校、小学校）であり、主に特別支援教育を担当してきた。 〔資格等〕言語聴覚士、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許、特別支援教育士 等
運動障害性構音障害Ⅰ	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として運動障害性構音障害を含む30年以上の臨床経験あり。その経験を活かし、運動障害性構音障害の臨床について、理解が深まるよう基本的な知識と実践を結び付けられるよう講義を行う。
摂食嚥下障害Ⅰ	1	江畑 綾	言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり経験してきた。本講義の各内容を、実際の臨床事例に基づく授業を行います。
成人・小児の聴覚障害	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が聴覚障害の理解を深め、これから展開される専門領域の講義、演習につながるよう講義する。
聴力検査Ⅰ	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が聴力検査についての理解を深め、臨床現場に繋がるよう実践的な講義、演習を行う。
視覚聴覚二重障害・重複障害	1	三科 聡子	20年以上特別支援学校の教員として勤務し、重複障害児教育（盲ろう教育・重度重複障害教育）に携わる。医療型重度障害児施設に勤務し、医療と療育との連携プログラムの作成や医療ケアを必要とする重度重複障害児者の支援に携わる。盲ろう者向け通訳・介助員として盲ろう支持者への情報保障を担い、通訳・介助員の養成及び現任研修を担当している。
地域言語聴覚療法学Ⅰ	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として地域を重視した臨床を30年以上おこなってきた。その経験を活かし、学生が地域で必要となるリハビリテーションの知識、特に言語聴覚療法を中心に、理解が深まるよう講義を行う。
臨床実習Ⅰ（見学実習）	1	櫻庭 ゆかり	臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が見学実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。
言語聴覚障害学の基礎	2	渡邊 弘人	臨床経験が10年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚療法の専門領域を学ぶ前に、直結する基礎知識を講義する。
倫理学	1	江畑 綾	言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり、患者の尊厳や意思決定支援・インフォームドコンセント・など実際の倫理的問題に向き合ってきた。倫理の理論的基礎と臨床場面における具体的事案とを結びつけ、学生が自ら倫理的問題を同定・分析・解決する能力を育む授業を行います。
栄養学	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として30年以上の臨床経験をもち、NSTチームにも関わってきた。栄養士との協働を通し栄養を理解しトレーニングを行う重要性を意識したセラピーを行っている。その経験を活かし、言語聴覚療法における栄養学の位置づけを講義する。
臨床神経学	1	平山 和美	脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
精神医学	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として30年以上、精神障害・精神遅滞・てんかん等を含む対象者にリハビリテーションを行った
リハビリテーション医学	1	水尻 強志	日本リハビリテーション医学会専門医・指導医として、臨床に30年以上携わっている。
耳鼻咽喉科学	1	松谷 幸子	医師として臨床経験40年以上あり、その経験を活かし、耳鼻咽喉科領域と言語聴覚療法の関連について、理解が深められるよう講義する。
形成外科学	1	佐藤 顕光	医師として、臨床に10年以上携わっている。

言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
生涯発達心理学	1	中川 大介	医療機関において15年以上の臨床経験を有す。
聴覚心理学	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚療法領域で聴覚心理について理解を深め、臨床現場や将来の研究活動に繋がられるよう、実践的な講義を行う。
心理測定法	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚療法領域で使用される心理測定について理解を深め、臨床現場や将来の研究活動に繋がられるよう、実践的な講義を行う。
視覚言語論【2年生】	1	山本 はづき	人工内耳装用前後の聴覚障害児・者へリハビリテーションを行っていました。現場で行っていた重度聴覚障害児・者との関わりについてお伝えできればと思います。
言語聴覚療法管理学Ⅱ	1	江畑 綾	言語聴覚士として言語聴覚療法の現場で5年以上にわたり業務管理・多職種連携・リスクマネジメント等を実践してきた。その経験は、制度・倫理の知識を基盤としつつ、実際の臨床現場における具体的事案や意思決定の実例を交えた実践的に授業を行います。
高次脳機能障害学	1	中川 大介	病院にて言語聴覚士として15年以上の経験を有す。脳卒中後の高次脳機能障害者に対してリハビリテーションを行った。
言語聴覚障害診断学	1	江畑 綾	臨床経験5年以上の言語聴覚士である。その経験を活かし、学生が言語聴覚療法の言語障害学的診断について理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な講義を行う。
失語症・高次脳機能障害	2	中川 大介	言語聴覚士としての臨床経験15年以上有する。臨床経験を活かし失語症・高次脳機能障害臨床の実際と必要な知識について、学生の理解が深まるよう講義を行う。
言語発達障害総論	2	須賀川 芳夫	担当教員は、言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有している。前職は公立学校教員（特別支援学校、小学校）であり、主に特別支援教育を担当してきた。 〔資格等〕言語聴覚士、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許、特別支援教育士 等
言語発達障害評価学	1	須賀川 芳夫	担当教員は、言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有している。前職は公立学校教員（特別支援学校、小学校）であり、主に特別支援教育を担当してきた。 〔資格等〕言語聴覚士、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許、特別支援教育士 等
小児の構音障害	1	須賀川 芳夫	担当教員は、言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有している。前職は公立学校教員（特別支援学校、小学校）であり、主に特別支援教育を担当してきた。 〔資格等〕言語聴覚士、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許、特別支援教育士 等
音声障害	2	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として運動障害性構音障害を含む30年以上の臨床経験あり。その経験を活かし、音声障害の臨床について、理解が深まるよう基本的な知識から実践まで講義を行う。
吃音概論	1	藤島 省太	教育相談業務、スーパー・バイズおよび吃音者のセルフ・ヘルプ・グループの立ち上げから運営まで長年携わっている。
運動障害性構音障害Ⅱ	2	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として運動障害性構音障害を含む30年以上の臨床経験あり。その経験を活かし、運動障害性構音障害の臨床について、理解が深まるよう実践的な訓練・支援法を中心に講義を行う。
摂食嚥下障害Ⅱ	2	江畑 綾	言語聴覚士として臨床現場で5年以上にわたり摂食嚥下障害の機能検査・食事観察・多職種連携などによる包括の評価から訓練プログラム立案・実施一連の実践を積んできた経験を授業に活かし、臨床事例と結びつけた実践的な授業を行います。
聴能・発語訓練演習	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が聴覚障害者の支援について理解を深め、臨床現場につながるような講義を行う。
聴力検査Ⅱ	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が聴力検査についての理解を深め、臨床現場に繋がるよう実践的な講義、演習を行う。
補聴器・人工内耳	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、15年以上の臨床経験がある。その経験を活かし、学生たちがこれまで学んで来た聴覚障害領域の知識・技術について、総括できるよう講義する。
地域言語聴覚療法学Ⅱ	1	江畑 綾	言語聴覚士として5年以上の臨床経験あり。その経験を活かし、地域支援における言語聴覚療法の実際について講義する。
臨床実習Ⅱ（評価実習）	4	櫻庭 ゆかり	担当教員は、臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が評価実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。
音と聴力【2年生】	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が聴覚障害領域で必要となる知識、技術について理解を深め、臨床現場につながる講義を行う。
運動生理学の基礎	2	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として30年の臨床経験をもち、摂食嚥下障害や構音障害に運動生理学に基づいたセラピーを行ってきた。その経験を活かし、言語聴覚療法との関連を理解しやすいように講義する。
健康スポーツ学Ⅱ	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として30年以上の臨床経験をもち、摂食嚥下や運動障害性構音訓練のトレーニングに運動生理学を重視してきた。その経験を活かし、学生が言語聴覚療法の運動訓練について理解が深まるよう実践的な講義を行う。
神経心理学	1	中川 大介	言語聴覚士として、15年以上の臨床経験あり。脳卒中など中枢神経疾患に対するリハビリテーションを実施した。
心理学系総論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、15年以上の臨床経験がある。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚療法に特に関わる心理学領域について、理解を深め、臨床現場につながる講義を行う。
言語聴覚障害学総論	1	渡邊 弘人	担当教員は、言語聴覚士として、15年以上の臨床経験がある。その経験を活かし、学生が言語聴覚障害に関わる領域について総括できるよう講義を行う。
言語聴覚障害学臨床応用	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として、30年以上の臨床経験がある。経験を活かし、学生が学んできた基本的な言語聴覚療法よりも臨床を意識した講義を行い、臨床現場につながるように展開する。
高次脳機能系総論	1	平山 和美	脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
聴覚障害学総論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、15年以上の臨床経験がある。その経験を活かし、学生たちがこれまで学んで来た聴覚障害領域の知識・技術について、総括できるよう講義する。
音と聴力【3年生】	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が聴覚障害領域で必要となる知識、技術について理解を深め、臨床現場につながる講義を行う。
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	4	櫻庭 ゆかり	臨床経験が30年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が総合実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。
臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	4	櫻庭 ゆかり	臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が総合実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。
生命科学の基礎	1	渡邊 弘人	臨床経験が15年以上の言語聴覚士である。言語聴覚療法に関わる疾患を理解するための基礎的な知識を再確認し、学生自身が自ら考え、理解を深められるような講義とする
口腔顔面の感覚・運動障害総論	1	中川 大介	言語聴覚士として15年以上の臨床経験を持つ。脳卒中後の構音障害、嚥下障害に対するリハビリテーションを行った。
地域リハビリテーション論	1	櫻庭 ゆかり	臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が総合実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
認知症のリハビリテーション	1	江畑 綾	言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり認知症患者の評価・訓練・家族支援・多職種連携を実践してきた。定義・原因疾患・症状から評価・訓練などの本講義の内容を、実際の臨床事例に基づく複合的・包括的な視点で授業を行います。
疾病論	1	渡邊 弘人	臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚士に関わる事の多い疾患について、理解を深め、臨床現場に繋がる講義を行う。
リハビリテーション栄養学	1	江畑 綾	言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床現場で5年以上にわたり、対象者の栄養状態の評価・管理栄養士等との多職種連携など実践してきた。栄養障害・栄養評価・適切なリハビリテーションプログラムに至る本講義の各内容を、臨床事例に基づく授業を行います。
視覚言語論【3年生】	1	山本 はづき	人工内耳装用前後の聴覚障害児・者へリハビリテーションを行っていました。現場で行っていた重度聴覚障害児・者との関わりについてお伝えできればと思います。
補綴・補装具論	1	櫻庭 ゆかり	担当教員は、臨床経験30年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が臨床で使用している補綴や補装具について理解を深め、臨床現場につながる講義とする。
言語聴覚学特別講義Ⅰ	2	渡邊 弘人	担当教員は、臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が患者・利用者の抱える言語聴覚障害を深く理解するための基礎的な知識を再確認し、臨床現場に繋げられるような講義とする。
言語聴覚学特別講義Ⅱ	2	平山 和美	担当教員の一人は、脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
	94	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数（旧カリキュラム）	
	101	設置基準上の標準単位数（新カリキュラム）	